

Inches  
cm

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 8

### Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

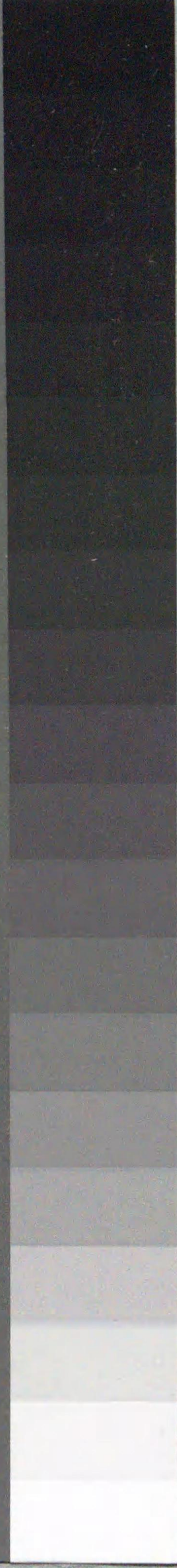
Blue	Cyan	Green	Yellow	Red	Magenta	White	3/Color	Black

### Kodak Gray Scale

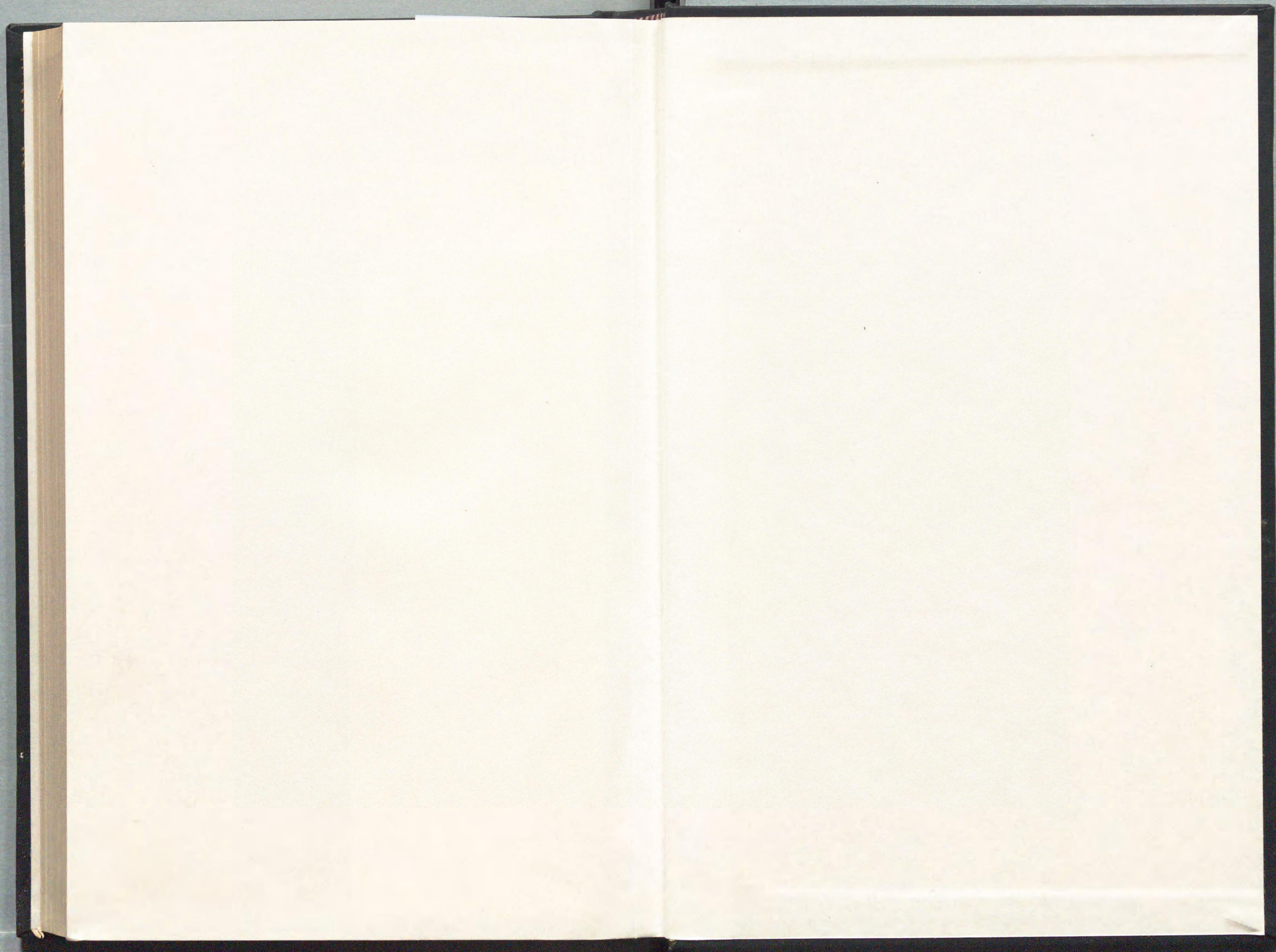
© Kodak, 2007 TM: Kodak



A 1 2 3 4 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 Y 14 15 B 17 18 19









第五七九號

講師 今村 信行 講述

三十七年度法學講義録會本

民事訴訟法

(第六編乃至第八編)

完

司法大臣指定  
文部大臣認定

日本大學發行







第二章 執行裁判所	九〇丁
第三章 強制執行上他ノ機關ノ共助	九六丁
第五節 強制執行上ノ當事者	九七丁
第六節 強制執行ノ進行及其遮斷	一〇二丁
第七節 強制執行ノ費用	一一〇丁
第八節 強制執行ニ關スル異議	一一一丁
第一款 執行文付與ニ關スル異議	一一二丁
第二款 強制執行實施ニ關スル異議	一一七丁
第三款 債務名義ニ依リ確定シタル請求ニ關スル債務者ノ異議	一二〇丁
第四款 第三者ノ異議	一二五丁
第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行	一三〇丁
第一節 通り	一三一丁
第二節 動産ニ對スル強制執行	一五三丁

第一款 有体動産ニ對スル強制執行	一五三丁
第二款 債權及其他ノ財産權ニ對スル強制執行	一七八丁
第三款 配當手續	二〇七丁
第三節 不動産ニ對スル強制執行	二二四丁
第一款 通則	二二五丁
第二款 強制競賣	二二八丁
第三款 強制管理	二八六丁
第四節 船舶ニ對スル強制執行	二九七丁
第三章 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行	三〇九丁
第四章 假差押及假處分	三二二丁
第一節 假差押	三二四丁
第一款 假差押裁判所ニ屬スル假差押ノ訴訟手續	三三五丁



第二款 執行機關ニ屬スル假差押命令ノ執行行

為 三四一丁

第二節 假處分 三五二丁

第一款 假處分裁判所ニ屬スル訴訟手續 三五三丁

第二款 假處分命令ノ執行行為 三六一丁

第七編 公示催告手續 三六二丁

第一章 一般ノ失權ヲ目的トスル公示催

告手續 三六五丁

第二章 證書ノ無效宣言ヲ目的トスル特

別ノ公示催告手纂 三七四丁

第八編 仲裁手續 三七九丁

第一章 仲裁契約 三八〇丁

第二章 仲裁機關ノ編成 三八六丁

第三章 仲裁判斷 三八九丁

第四章 仲裁判斷取消ノ訴 三九四丁

民事訴訟法(第六編乃至第八編)目次終



民事訴訟法(第六編)目次

第一章 裁判官の職務  
第二章 訴訟の提起  
第三章 訴訟の進行  
第四章 判決の執行

三三四  
三三六  
三四一  
三四四

民事訴訟法(第六編乃至第八編)

講師 今村信行 講述

第六編 強制執行

緒言

強制執行ハ公ノ威力ヲ以テ裁判所ノ裁判ニ依リテ確定シタル私權ノ實行ヲ盡サシムルヲ目的トスルニアリ凡ソ私權ノ侵犯アレハ換言スレハ私權ノ衝突アレハ訴ヲ起シ國家機關ニ依頼シ即チ裁判權ニ依頼シテ私權ノ保護ヲ受ケ其執行ヲ法律上確定スルコトヲ得然レトモ其權利ハ債權者ノ意思ノミニ因リテ實行シ得ヘキモノナラス若シ其實行ヲ拒絕セラルトキハ之カ強制的實行ノ保護ヲ與ヘサルヘカラス是ニ於テカ裁判所ハ獨リ判定權アルノミナラス強制執行權ヲモ有シ債權者ノ申立ニ因リ裁判上確定シタル私權ノ實行ヲ爲サシムルモノトスルニア

民事訴訟法(第六編乃至第八編)

強制執行 緒言



リ故ニ私權ヲ主張スル者ハ當ニ國家ノ裁判權ニ依頼シテ權利ノ確定ヲ受クルノ  
 ミナラス其保護ニ依リ強制的ノ實行ヲモ求ムルコトヲ得  
 此裁判權ノ保護ニ依リ權利ノ判定ヲ受クル行爲ヲ訴訟ト云ヒ其強制的實行ノ保  
 護ヲ受クル行爲ヲ強制執行ト云フ蓋シ私權上ノ訴ニハ履行訴訟ト確定訴訟トノ  
 別アリ確定訴訟ハ其法律關係ノ存否ヲ確定スルヲ以テ足レリトシ別ニ執行ヲ要  
 セスト雖モ履行訴訟ニ於テハ單ニ其請求ヲ確定シタルノミヲ以テ足レリトセス  
 必スヤ其權利ノ實行ヲ要ス若シ債務者ニシテ任意ニ其履行ヲ爲サ、ルトキハ之  
 ヲ強制シテ實行セシムル途ナカルヘカラス而シテ其強制ニハ威力ノ行使ヲ要ス  
 其威力ノ行使ハ公ノ秩序ノ保維ノ爲メ特別ナル場合ノ外ハ之ヲ一個人ニ委ヌヘ  
 カラスシテ必スヤ國家機關カ其任ニ當ラサルヘカラス故ニ裁判權ノ一部中ニ此  
 強制執行權ヲ加ヘ債權者ノ申立アレハ之カ保護ヲ與フヘキモノトス此公ノ威力  
 ニ依リ裁判所ノ確定シタル私權ノ實行ヲ強制スル手續ヲ強制執行法ト云フ  
 強制執行ノ手續ハ訴訟手續ノ一部ニ屬スルヤ否ヤ訴訟手續ナル語ハ狹義ニ解ス  
 ルトキハ訴ノ提起ヨリ各種ノ手續ヲ經テ裁判ヲ下シ其確定ニ因リ權利拘束ノ終

ヲ告クルマテヲ意味スルモノナリ而シテ強制執行ノ手續ハ其訴訟手續完結後端  
 ヲ改メテ執行機關(即チ執行裁判所)ニ依リテ之ヲ開始スヘキモノトス其管轄ニ於  
 ケルモ亦訴訟ノ管轄ト同一ナラス此等ノ費用ニ至リテモ訴訟費用ト執行費用ト  
 ハ之ヲ區別シ其取立方法亦同シカラス其行爲ノ如キ前者ハ之ヲ訴訟行爲ト云ヒ  
 後者ハ之ヲ執行行爲ト稱ス此兩者間ノ性質多少異ナル所アリ其訴訟行爲ト執行  
 行爲トノ區別ハ彼ノ刑事ニ於ケル刑事訴訟法ニ依ル行爲ト監獄則其他ノ附屬法  
 規ニ依ル刑罰執行行爲ト差異アルモノ、如シ而シテ刑事ニアリテハ其訴訟行爲  
 ハ裁判權ノ行使トシ司法機關ニ屬セシムルモ執行上ノ行爲ニ至リテハ裁判權ノ  
 行使中ニ屬セシメス此民事訴訟法實施以前ニ於ケル民事裁判ノ執行ハ行政機關  
 タル戸長役場ノ吏員ノ職務ニ屬セシメタリ蓋シ民事、刑事ヲ問ハス裁判ノ執行ハ  
 行政事務トシテ行政官ニ委ヌヘキヤ否ヤハ元來議論ノ存スル所ニシテ學說トシ  
 テモ裁判ノ執行ヲ以テ行政事務トナスモノアリト雖モ裁判權ハ單ニ判定ヲ爲ス  
 ノ權ヲ有スルニ止マリ實行セシムルノ權ヲ包含セストナサハ恐ラクハ裁判ノ實  
 利實益ヲ得ルコト難カルヘシ殊ニ民事訴訟ノ如キハ私權ノ保護ヲ裁判權ニ依頼



スルモノナレハ強制執行權ヲモ裁判權ノ一部トナサ、ル以上ハ完全ナル保護ヲ與フルヲ得サルヘシ故ニ執行權ハ裁判權ニ屬セシメ強制執行ハ司法事務トナスヲ允當トス

刑事ニ付テモ亦同様ノ説ヲ採ル者アリト雖モ事公法上ニ屬スルモノナレハ其費用ノ如キモ國庫若クハ自治體ノ負擔トナサ、ルヘカラス此等ノ關係ヨリシテ單ニ理論一片ニ因リ其當否ヲ決スル能ハス尤モ其攻究ハ本法ニ關係ナキヲ以テ深ク之ヲ論セス唯民事ノ強制執行ハ私權保護ノ一部ニシテ訴訟手續トハ區別アレトモ訴訟手續ト相關係スヘキ手續ニ係リ裁判權ノ行使ニ關係スルモノナレハ司法事務トナスヘク尙ホ廣義ニ云ヘハ民事訴訟法ノ一部ニ屬スルカ故ニ強制執行ハ國家ノ裁判權カ公ノ威力ヲ以テ裁判上確定シタル私權ニ付キ債權者ノ申立ニ因リ強制的ニ其實行ヲ盡サシムルニアリ然レトモ此法律中ニハ其執行ノ範圍ヲ擴張シ裁判ニ依リ確定シタル私權ニアラスシテ特ニ強制執行ヲ許スモノアリ例ヘハ公正證書ニ基ク執行和解ニ基ク執行ノ如キ類是ナリ此等ハ固ヨリ一ノ變例ニ屬ス又眞ノ民事裁判ニアラスシテ此強制執行法ヲ準用スヘキモノアリ是レ唯

本法ノ規定ヲ準用スルニ過キスシテ之カ爲メニ其執行ヲ以テ民事訴訟上ノ強制執行ト謂フヲ得ス此種ニ屬スルモノハ行政裁判所ノ判決ニシテ其執行ノ囑託アリタル事件又ハ罰金、科料、過料ヲ徵收シ及ヒ沒收品ヲ取上ケ若クハ之ヲ賣却シ又ハ訴訟費用若クハ徵收金ヲ沒收スヘキ裁判所ノ命令又ハ檢事ノ命令アリタル事件又ハ法人ニ對スル罰金ノ裁判アリ檢事ノ命令ニ係ル債務名義又ハ破産ノ場合ニ於ケル動産若クハ不動産ヲ競賣ニ付スル事件ノ類是ナリ

前陳ノ如ク強制執行ハ主トシテ裁判上確定シタル私權ヲ實行スルヲ目的トスルニアレハ其私權ノ請求ノ種類ニ從ヒ同一ナル能ハス即財産上ニ係ルモノアリ身分上ニ關スルモノアリ(尤モ私法ノ中心ハ財産法ナリト云フ格言ノ如)又此財産上ノ事件中ニモ金錢若クハ物品ノ給付ヲ目的トスルモノアリ行爲ヲ目的トスルモノアリ其種類ノ異ナルニ從ヒ執行ノ方法モ亦同一ナラス又終局的ニ確定シタル私權ニアラスシテ其權利ノ強制執行ヲ一時保全スル爲メ假リノ執行ヲ許スモノアリ即チ假差押假處分ノ如キ是ナリ而シテ本法ハ先ツ此等ニ通シテ適用スヘキ執行手續ノ總則ヲ定メ次ニ各種ノ執行方法ヲ規定セリ故ニ余ハ其編次ニ從ヒ一



般ノ總則ヲ講述シ次テ各種ノ執行方法ヲ攻究セント欲ス

## 第一章 總則

本章ニ於テハ各種ノ強制執行ニ通シテ適用スヘキ法則及ヒ執行費用等ノ規定ヲ設ケタルノミナラス執行行為ニアラサルモ一般執行上ニ於テ生スヘキ強制執行ニ對スル異議ニ關スル規定ヲモ設ケラレタルヲ以テ此等ヲ總括シテ説明スヘシ

### 第一節 強制執行ノ基本タル債務名義

抑モ強制執行ハ裁判ニ依リ確定シタル私權ノ實行ヲ爲サシムルヲ目的トスルモノナレハ其執行ヲ爲サシニハ裁判上法律關係ヲ確定セラレタル執行ノ原因ナカ  
ルヘカラス本法ニ於テハ之ヲ稱シテ債務名義ト云フ(本法第五百六十條參照)  
此債務名義ハ即チ強制執行ノ基本タルヘキモノニシテ其執行ノ範圍モ亦之ニ因  
テ定マルヘキモノナリ蓋シ私權ヲ確定スルノ裁判ハ主トシテ判決ヲ以テスヘキ  
モノニシテ其債務名義ハ判決ニ依ルヲ常トシ其判決ノ主文ニ包含スルモノハ(本  
法第二百四十四條改正)即チ執行ノ範圍タルヘキモノナリ然レトモ判決ニ依ラサル  
裁判ニシテ法律關係ヲ確定シ債務名義タルヘキモノモ一二ニ止マラサレハ以下

之ヲ區別シテ説明セン

### 第一款 判決ニ依ル債務名義

裁判ニ依リ私權ヲ確定スルハ專ラ判決主文ヲ以テスヘキコトハ前陳ノ如クナレ  
トモ其判決中ニハ中間判決ノ如ク請求ニ付キ判決ヲ爲サ、ルモノアリ此等ハ私  
權關係ヲ確定スルモノニアラス又終局判決ト雖モ形式上ノ判斷ニ止マリテ(例ハ  
管轄又ハ訴訟能カ欠缺ノ裁判)執行ヲ爲スヘキ私權ヲ確定セサルモノアリ或ハ又實體上ノ判決  
ヲ下スモ原告ノ請求ヲ排斥シタルモノ、如キハ事實執行ヲ要セサルハ論ヲ俟タ  
ス尤モ此等ノ形式上ノ判決若クハ原告ノ請求排斥ノ判決ト雖モ訴訟費用ニ付キ  
判決アリタルトキハ其費用ニ付テハ執行スヘキ債務名義トナルヘシ故ニ判決ハ  
凡テ私權關係ヲ確定シタルノミニテハ執行シ得ヘキ債務名義トナラス其債務名  
義タルヘキモノハ原告ノ權利ヲ認メ實體上ノ判斷ヲ下シタルモノニ限ル斯ル判  
決ハ終局判決タルヲ常トス而シテ此終局判決ハ直チニ執行シ得ヘキモノニアラ  
スシテ其判決確定スルカ又ハ假執行ノ宣言ヲ付シタルモノナルヲ要ス故ニ判決  
ニ依ル債務名義モ其種類一ナラス更ニ細別シテ説明スヘシ



第一 確定ノ終局判決

終局判決ニシテ實體上ノ權利ヲ認メタル判決ハ確定ニ因リ債務名義トナルヘキモノナリ(本法第四百三十七條前段改)

(一) 終局判決 終局判決トハ中間判決ニ對シテ云フ所ノ用語ニシテ中間判決トハ訴訟進行ノ中間ニ於テ爭ヲ生シ之カ裁判ヲ爲スニアラサレハ訴訟ヲ進行スル能ハサル場合ニ爲スヘキ判決ヲ謂フ此判決ハ固ヨリ本案ノ請求ニ付キ裁判ヲ下スモノニアラス故ニ中間判決ハ通例債務名義トナラサルヲ以テ獨立ニ確定シテ執行力ヲ有セサルモノナリ而シテ終局判決ハ本案ノ訴ニ付キ裁判ヲ爲スヘキモノニシテ其判決カ實體上ノ權利ヲ認メ確定セルトキハ闕席判決ナルト對席判決ナルトヲ問ハス又一部ノ終局判決ナルト全部ノ終局判決ナルトヲ論セス總テ債務名義タルヘキモノトス而シテ眞ノ終局判決ニ非スト雖モ上訴及ヒ強制執行ニ關シテハ終局判決ト看做スヘキ規定ノ設ケアルモノ即チ證書訴訟爲替訴訟ニ於テ被告カ敗訴シタルトキ留保ヲ掲ケタル條件付ノ判決(本法第四百二十一條改正案)又ハ控訴審ニ於テ被告ノ防禦方法ヲ却下シ其被告ニ敗訴ヲ

二三

言渡ス場合ニ於テ留保ヲ掲ケタル條件付ノ判決(本法第四百二十六條改)等ノ如キハ尙ホ本案ノ訴訟ヲ續行スルコトアルヘキヲ以テ其性質眞ノ終局判決ニ非スト雖モ此等ハ一種特別ノモノニシテ本案ノ請求ニ付キ假リニ判決ヲ爲スモノナレハ上訴及ヒ強制執行ニ關シテハ終局判決ト同視シ形式上ノ確定力ヲ生シ且其判決確定スルニ至レハ執行シ得ヘキ債務名義トナルヘキモノナリ然レトモ茲ニ注意スヘキハ單ニ上訴ニ關シ終局判決ト看做スヘキ中間判決ノ如キハ(本法第二百七條第二項第二十條改)執行ヲ爲スヘキ債務名義タルニアラス上訴及ヒ強制執行ニ關シテ終局判決ト看做スヘキモノハ形式上ノ確定力ヲ生シ執行ヲ爲シ得ルト雖モ其效力タルヤ條件付ニシテ其訴訟ノ續行ニ因リ右判決ヲ廢棄セラル、コトアリ此場合ニハ其效力カ消滅シ若シ此判決ニ依リ執行シタルモノアレハ其執行ハ停止セラル、ニ至ルヘシ(本法第五百五十五條第一項改)

(二) 判決ノ確定 判決ノ確定ニ二個ノ效力アリ形式上ノ確定力及ヒ實體上ノ確定力是ナリ形式上ノ確定力トハ故障ノ申立上訴ノ提起ニ依リ原裁判ニ對シ不服ヲ主張スルコトヲ得サルノ效力ヲ謂フ換言スレハ訴訟法上ノ效力ヲ生スル



モノニシテ從テ本編ノ規定ニ依テ強制執行ヲ爲スコトヲ得ヘキ效力ヲ生ス實體上ノ效力トハ當事者間ニ於ケル法律關係ヲ永遠ニ確定シ再ヒ相爭フコト能ハサラシメ若シ同一訴訟ノ提起セラル、ニ於テハ一事不再理ノ原則ヲ主張シテ之ニ對抗スルヲ得ルノ效力即チ民法上ノ確定力所謂既判力ヲ謂フ而シテ終局判決ト看做スヘキ中間判決ノ如キハ單ニ形式上ノ確定力ヲ生スルニ過キスト雖モ實體上ノ判決ヲ爲シタル終局判決ハ前述ノ如ク形式上及ヒ實體上ノ效力ヲ併セ生スルモノトス蓋シ實體上ノ效力ニ關スル問題ハ民法ニ於テ攻究スヘキ事項ニ屬スルヲ以テ姑ク之ヲ措キ茲ニハ唯強制執行ニ必要ナル形式上ノ確定力ヲ生スヘキ時期ニ付テ攻究セントス

(甲) 判決確定ノ時期 終局判決又ハ強制執行ニ關シテ終局判決ト看做スヘキ條件付ノ判決ハ左ノ時期ノ到來ニ因リ確定ス

(イ) 各審級ニ於テ一般ニ故障ヲ許スヘキ闕席判決ハ故障申立ニ付テノ十四日ノ不變期間内ニ其申立ヲ爲サス之ヲ經過シタルトキ本法第二百五十五條第二項、改正案第五條第二項

(ロ) 第一審若クハ第二審ニ於テ故障ヲ許サ、ル闕席判決ニ付テハ本法第七條第九十九項、第二百六十三條、改正案第九十九項、第二百六十三條控訴若クハ上告ニ付テノ一个月ノ不變期間内ニ此等ノ上訴ヲ提起セス之ヲ經過シタルトキ本法第三百四十八條第一項、第四百三十七條第一項、第四百七十四條、改正案第四百三十六條、第四百四十四條第一項、第四百七十七條、第四百八十六條第一號

(ハ) 第一審若クハ第二審ニ於ケル對席判決ハ控訴若クハ上告ニ付テノ一个月ノ不變期間内ニ其上訴ヲ提起セスシテ之ヲ經過シタルトキ本法第四百三十七條第一項、改正案第四百三十七條、第四百四十四條、第四百七十七條、第四百八十二條、第四百八十四條

(ニ) 第三審即チ上告審ニ於ケル上告人ノ陳述ニ對スル判決及ヒ同審ニ於ケル對席判決、故障ヲ許サ、ル闕席判決ハ其言渡アリタルトキ本法第四百三十九條、第四百四十二條、第四百四十三條、改正案第四百三十九條、第四百四十二條、第四百四十三條

(ホ) 故障ノ取下、上訴ノ取下ヲ爲シタル場合ニ於テ訴訟費用ノミノ判決ハ其言渡アリタルトキ本法第二百六十四條、第三百九十九條、第四百四十五條、第四百四十九條、第四百五十一條

(ヘ) 故障ヲ取下又ハ上訴ヲ取下ケタル場合ニ於ケル原判決ハ其取下アリタ



ルトキ(改正案第二百六十四條、第三百九十九條、第四百五十四條、第四百八十六條、第四百九十二條)

(乙) 判決確定ノ證明書 判決ハ前述シタル時期ニ於テ確定シ之ニ因テ強制執行ノ基本タル債務名義トナルモノトス然レトモ之ヲ以テ強制執行ヲ實行セシムルニハ尙ホ形式上ノ要件タル執行文ヲ付與シタル判決ノ正本即チ執行力アル正本ニ基キ之ヲ爲スヲ通例トス(本案第五百十六條、改)而シテ書記カ執行文ヲ付與スルニハ判決ノ確定ヲ認メテ之ヲ付與セサルヘカラス(本法第五百十三條、改)其之ヲ認ムルニハ確定ノ證明書アルコトヲ要ス又執行力アル正本ヲ要セスシテ確定ノ證アルニ因リテ強制執行上私權ノ實行ヲ全クシ得ヘキ場合アリ即チ法律關係ノ成立ヲ認諾シ若クハ當事者ノ意思ノ陳述ヲ爲シタル者ト看做スヘキ判決ノ確定ニ因リテ登記ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ノ如キ是ナリ(本法第七百三十六條、明治三十二年法律第二百七十四號、不動產登記法第二百七十四條、改正案第九百三十七條、七條及七同、勅令第二百七十七號、船舶登記規則第一條、參)斯ル場合ニハ亦判決ノ確定シタル證明書ヲ要ス其他強制執行上ノ配當異議ノ訴ニ付キ判決アリタルトキハ其判決確定後ニ配當ヲ實施スルコトヲ得ヘキモノニシテ該判決確定ノ證明書ヲ得テ之カ配當ニ加ハルコトヲ得ヘ

キモノトス(本案第七百三十八條、改)故ニ斯ル場合ニハ此等ノ證明書ハ執行上ノ一要具タルヘキハ勿論ナリ然レトモ判決確定ノ證明書ハ獨リ執行ニ關シテ必要ナルノミナラス他ノ事件ニ於ケル證明ノ用ニ供シ又保證金ヲ立テタル場合ニ於テ其返還ヲ請求スルトキニ於テモ亦其必要ヲ見ルコトアリ斯ル如ク判決確定ノ證明書ハ單ニ執行ニ關シテ必要ナルニ止マラスト雖モ本法ハ之ヲ強制執行編中ニ規定シタルヲ以テ茲ニ其付與ノ手續ヲ説明スヘシ此證明書ハ當事者ノ申請ニ因リ裁判所書記カ其獨立ナル職權ヲ以テ之ヲ付與スヘキモノニシテ其手續左ノ如シ(本案第四百九十九條、改)

(イ) 第一審裁判所書記ニ證明ノ申請ヲ爲スヲ通例トス 元來訴訟記録ナルモノハ通常第一審裁判所書記課ニ保存セラル、カ故ニ同裁判所ノ書記ニ之カ申請ヲ爲ス此申請アリタルトキハ其記録ニ付キ調査ヲ爲シ判決ノ全部ナルト一部ナルトヲ問ハス其確定シタル部分ノ證明書ヲ作成シ之ニ認證シテ付與スヘキモノトス

(ロ) 訴訟カ上級審ニ繫屬シタルトキ即チ第一審裁判所書記カ其證明ヲ爲ス



ヲ得サルトキハ上級審ノ裁判所書記ニ證明ノ申請ヲ爲サ、ルヘカラス尤モ判決確定ノ證明ハ獨リ訴訟記録ニ基キテノミ之ヲ爲スヘキモノナレハ上訴ノ提起アレハ其記録ハ總テ上級審ニ送達セラル、ヲ以テ下級審ニ於テハ其證明書ヲ得ルコト能ハス故ニ此場合ニハ上級審ノ書記ニ申請シテ其證明ヲ得ヘキモノトスルナリ蓋シ上訴ノ提起アレハ判決ノ確定ヲ停止スルヲ以テ證明書ヲ上級審ニ於テ付與スヘキ場合ナキモノ、如シト雖モ其一部ノ判決ハ既ニ確定シ他ノ部分ニノミ上訴アリタル場合又ハ本訴ト反訴トノ判決アリテ其内ノ一方ノ判決ノミニ對シ上訴アリタル場合ノ如キハ上級審ニ於テモ證明書ヲ付與スヘキ手續ノ必要ヲ見ルコトアリ而シテ上級審ニ繫屬中トハ之ヲ嚴格ニ解釋スレハ上訴ノ提起ヨリ其判決言渡マテノ間ヲ指スヘキモノナルコトハ明カナリト雖モ實際ニ於テハ上訴ノ提起ト共ニ訴訟記録ハ上級審ニ送達セラレ又上級審ノ判決言渡ト共ニ其記録ヲ第一審ニ返還セラルヘキモノニアラサレハ茲ニ所謂上級審ニ繫屬中トハ訴訟記録存在中ハ第一審ニ於テ之ヲ付與セサルモノトスルヲ事實

ニ適合スト信ス又判決ニシテ上訴シ得ヘキモノナルトキハ第一審裁判所ニ記録ノ存在スルモ上訴ノ有無ヲ確ムルニアラサレハ其保存スル記録ノミニ依リ判決確定ノ證明書ヲ付與スルヲ得ス縱令上訴ノ不變期間ヲ經過シ未タ上級審ヨリ記録送付ノ求メナキモ其期間經過後ハ直チニ判決確定シタルモノト認ムルコトヲ得ス何トナレハ上級審ト下級審トノ距離遠隔ナルトキハ不變期間ノ外尙ホ旅行ノ猶豫期間アルヘキモノナレハナリ斯ル場合ニハ其當事者ハ上訴ヲ管轄スヘキ上級裁判所ノ書記ニ付キ其不變期間内ニ上訴ノ提起ナカリシコトノ證明書ヲ求ムルコトヲ得ヘシ而シテ此證明書ハ判決確定ノ證明書ニ代用スルコトヲ得然レトモ之ニ付テハ異論アリテ或ハ此證明書ニ依リ尙ホ確定ノ證明書ヲ得ヘキモノナリト論スル者アリト雖モ余ハ法文ノ解釋上此證明書ヲ以テ確定ノ證明書ニ代用スルヲ得ヘキ法意ナリト信ス何トナレハ其證明書ヲ求ムル手續中ニハ上訴ノ提起ナキコトヲ認メタル證明書ヲ以テ足ルト規定シアレハナリ(本法第九百八十八條第九十九條改正案第九百八十三條)而シテ此等ノ證明書ハ所謂公正證書ノ效



カヲ有ス若シ書記カ此確定ノ證明書ノ付與ヲ拒ミタルトキハ其裁判所ノ  
裁判ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

第二 假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決

判決ニ假執行ノ宣言ヲ付スル目的ハ未確定ノ判決ヲ確定前ニ強制執行ヲ爲スコ  
トヲ得セシムルニアリ故ニ假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決ハ強制執行ニ關シ  
テハ確定ノ終局判決ト同一ノ效力ヲ有ス(改正法第四百九十七條後段)而シテ其宣言  
ニ依ル執行ハ管ニ強制執行ノ保存處分ヲ爲スニ止マラス確定ノ終局判決ト同シ  
ク全然其執行ヲ遂クルコトヲ得唯之ニ對シテ上訴ノ提起アリ其結果上級審ニ於  
テ其判決ノ廢棄破毀若クハ變更アルトキハ其執行ヲ停止シ(本法第五百十條第一號改正  
案第二百六十七條第一號)其執行ノ結果ヲ原狀ニ回復シ又支拂若クハ給付シタル物ノ  
返還ヲ言渡サル、コトアルノミ

此假執行ノ宣言ハ口頭辯論ニ基キテ判決ニ其宣言ヲ付スヘキモノナレハ其手續  
ハ判決裁判所(本法第百三條第二十七條)ニ於ケル訴訟手續ニ屬ス故ニ之カ規定モ宜シク  
判決ト併セテ之ヲ定ムヘク又之ヲ攻究スルニ當リテモ亦判決ノ章節ニ於テスル

ヲ至當トスレトモ本法ニ於テハ執行ニ關スルノ故ヲ以テ便宜執行編中ニ規定セ  
ラレタルヲ以テ茲ニ併セテ攻究スヘシ

假執行ノ宣言ハ前陳ノ如ク未確定ノ判決ヲ其確定以前ニ執行セシムルヲ以テ目  
的トナスモノナレハ其言渡ニ因リテ直チニ確定スヘキ終局判決ニ付テハ其宣言  
ノ必要ナク且執行スヘキ法律關係ヲ判定スル終局判決又ハ終局判決ト看做スヘ  
キ條件付ノ判決ニアラサレハ之ヲ付スヘキモノニアラス其終局判決又ハ執行ニ  
關シ終局判決ト看做スヘキ條件付ノ判決ノ何タルヤハ既ニ終局ノ確定判決ニ付  
テノ説明ニ於テ之ヲ明カニシタルヲ以テ茲ニ之ヲ贅セス而シテ此等ノ判決ニ付  
テハ對席判決ナルト闕席判決ナルトヲ問ハス一部ノ終局判決ナルト全部ノ終局  
判決ナルトヲ論セス左ノ場合ニ限り假執行ノ宣言ヲ爲スヘキモノトス

(一) 假執行ノ宣言ヲ付スヘキ場合 此法律ノ規定ニ依レハ假執行ニ關スル宣言  
ハ職權ヲ以テ爲ス場合ト債權者ノ申立ニ因リ爲ス場合ト及ヒ債務者ノ申立ニ  
因リ宣言ヲ制限若クハ免除スヘキ場合アリ

(甲) 職權ヲ以テ爲ス假執行ノ宣言 本法ハ原則トシテ不干涉主義ヲ採用シタ



レトモ左ノ場合ニハ例外トシテ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキモノト規定セリ(本法第五條)改正草案ニ於テハ之ヲ判決ノ節ニ置カレタリ(改正案第二條)

(イ) 認諾ニ基キ被告ニ敗訴ヲ言渡ス判決(本法第二百二十九條) (改正案第二條) 人事訴訟

(人事訴訟手續法第十條、第二十條) (改正案第五百三十七條、第五百五十七條) (第六條、第三十九條、第五十九條、等) (條、第五百七十四條、第五百九十五條)ノ外ハ

事件ノ財産上ノ請求ナルト否トヲ問ハス被告カ口頭辯論ニ於テ原告ノ請求ヲ認諾シタルトキハ裁判所ハ原告ノ申立ニ因リ其認諾ニ基キ被告ニ敗訴ノ言渡ヲ爲スヲ通例トス此場合ニ於ケル被告ノ義務ハ確定シテ動カスヘキニアラサルヲ以テ其判決ノ確定ヲ爲スノ必要ヲ見ル是レ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノト定メタル所以ナリ

(ロ) 證書訴訟又ハ爲替訴訟ニ於テ言渡ス判決(本法第四百八條以下) (改正案第五百

此等ノ訴訟ハ元來簡易訴訟手續トシテ一種ノ特別訴訟手續ニ依リ訴ヲ提起シタルモノナレハ法律ハ其權利ノ實行ノ迅速ヲ要スト認メ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ付セシメタルナリ

(ハ) 同審級ニ於テ同一ノ原告又ハ被告ニ對シ本案ニ付キ言渡シタル第二又

ハ其後ノ闕席判決 茲ニ所謂第二ノ闕席判決トハ原告若クハ被告カ口頭辯論ニ出頭セスシテ闕席判決ヲ受ケ之ニ對シ故障ノ申立ヲ爲シ其故障申立ニ付テノ辯論期日ニ尙ホ其故障申立人カ再度闕席シタルトキ其故障申立ヲ棄却スル新闕席判決(本法第二百三十三條) (改正案第三百條)ヲ謂フナリ

又其後ノ闕席判決トハ最初闕席判決ヲ受ケタル當事者カ其故障申立ニ付テノ口頭辯論期日ニハ出頭シテ辯論ヲ爲シ故障棄却ノ新闕席判決ヲ受ケルコトヲ免カレ訴訟手續ハ闕席前ノ程度ニ復シ(本法第六十條) (改正案第二條) (第九十七條)尙ホ本案ニ付キ辯論ヲ爲スニ至リタルモ其本案辯論續行期日ヲ定メラレ其期日ニ於テ(本法第九十九條) (改正案第三條) (同)ノ當事者カ再ヒ闕席判決ヲ受ケタル場合ヲ謂フ是レ屢期日ニ懈怠シ訴訟ヲ遲怠セシムル者ニ對シ其制裁トシテ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スニアリ

(三) 假差押又ハ假處分ヲ取消ス判決 茲ニ所謂假差押又ハ假處分ヲ取消ス判決トハ假差押命令又ハ假處分命令ニ異議アリタル場合又ハ假差押若クハ假處分ノ理由ナキニ至リタル場合ニ假差押裁判所又ハ假處分裁判所カ







十七條乃至第二百一一條ニ規定スル所ノ占有保持、保全、回收ノ訴等ヲ謂フ故ニ本權ニ關スル訴訟ニハ之ヲ適用セス

(ハ) 雇主ト雇人トノ間ノ訴訟 此訴訟ハ雇傭契約期限一箇年以下ノ約定ニ關スルトキニ限ル(改正案ニハ之ヲ設ケス)

(ニ) 旅人ト旅店ノ主人若クハ飲食店ノ主人又ハ水陸運送人トノ間ニ於テ次ノ如キ請求ニ付キ起リタル訴訟 即チ旅人カ被告ナルトキハ賄料、宿泊料、運送料ノ請求ニ係ル場合又旅人原告ナルトキハ保管ノ爲メニ預ケタル手荷物、金錢、有價物ノ請求ニ係ル場合ニ限ル而シテ茲ニ所謂有價物中ニハ時計、指環其他之ニ類スル金銀類ヲ指ス商人ノ賣買品等ハ之ニ屬セス

(ホ) 財産上ノ請求ニシテ訴訟物ノ價額貳拾圓ヲ超過セサル訴訟 此訴訟ハ債權ノ請求ナルト物權ノ請求ナルトヲ問ハス此規定ヲ適用ス而シテ此場合ニハ敢テ急迫ナルコトヲ要スルカ爲メニアラス唯其價額カ僅少ナルヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スモ後日甚タシキ損害ヲ生スルコトナシト看做シタルニ由ルナリ

後者即チ債權者ノ特別ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキ場合ハ債權者ヨリ左ノ申立アル場合ニ限ル(本法第五(改正案第二)百六十三條)

(イ) 債權者カ判決確定前ニ執行セサレハ償ヒ難キ又ハ計リ難キ損害ヲ受クヘキコトヲ疏明シタルトキ 所謂償ヒ難キ損害トハ例ヘハ金錢等ノ請求ニシテ債務者ノ浪費又ハ處分ヲ爲スニ因リ後日無資力トナリ到底執行ヲ爲シ能ハサル如キ場合ヲ謂ヒ又計リ難キ損害トハ例ヘハ特許、版權、著作權等ノ權利ニシテ急ニ執行セサレハ債務者ノ權利行使ニ因リ債權者ニ於テ幾何ノ損害ヲ生スルヤ計ルヘカラサル場合ヲ謂フ而シテ疏明ノ方法ハ第二百二十條(改正案第三百十六條)ノ規定スル所ナリ

(ロ) 債權者カ執行前ニ保證ヲ立テントトヲ申立テタルトキ 此申立アルトキハ裁判所ハ自由ナル意見ヲ以テ其保證額ヲ定メ執行前ニ其保證ヲ立ツルトキハ執行ヲ爲シ得ヘキ假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノナリ而シテ所謂自由ナル意見ヲ以テ保證額ヲ定ムルノ規定ハ本法第八十七條(改正案ニハ之ヲ設ケス)ニ此法律ニ於テ保證ヲ定ムルコトヲ裁判所ノ自由ナル意見ニ任ス云々ト



アル一ニ屬ス故ニ金錢以外ノ物ニテモ保證物トナスコトヲ得

(丙) 債務者ノ申立ニ因ル假執行宣言ノ制限及ヒ免除 法律ハ債務者ヲ保護セ  
ンカ爲メニ債務者ノ防禦ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ制限シテ條件附假執  
行ノ宣言ヲ爲シ又ハ全ク之ヲ停止スルコトヲ得ルモノトセリ(本法第五百四  
條、改正案第二百六十五條)

(イ) 假執行宣言ノ制限 裁判所ハ其職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキ場  
合ナルト債權者ノ申立ニ因リ其宣言ヲ爲スヘキ場合ナルトヲ問ハス凡テ  
ノ場合ニ於テ債務者ノ申立アレハ其趣意ニ應シ左ノ如キ條件附ノ假執行  
ノ宣言ヲ爲スヘキモノトス

(a) 債權者カ執行前ニ保證ヲ立ツルトキハ假執行ヲ爲スヘキ宣言ヲ爲シ  
此條件附ノ假執行ノ宣言ハ強制執行前ニ保證ヲ立テ公ノ證明書ニ因リ  
證明ヲ爲スニアラサレハ強制執行ニ着手スルコトヲ得ス前ニ説明セル  
債權者カ自ラ保證ヲ立テント申立テ條件附ノ假執行ノ宣言ヲ受ケタル  
場合ト同一ナリ

(b) 債權者執行前ニ保證ヲ立ツルコトヲ申立テサルトキハ債務者ノ申立  
ニ因リ其債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ係争物ヲ供託セシメテ執行ヲ免  
カレ得ヘキ旨ヲ宣言スルコトヲ得 斯ル條件附ノ假執行ノ宣言ヲ爲ス  
場合ト雖モ執行文ノ付與ハ之カ爲メニ猶豫スヘキモノニアラス即チ執  
行力アル正本ハ其求メニ依リ與ヘサルヘカラス又債權者モ其保證ヲ立  
テ若クハ係争物ノ供託アルマテハ執行力アル正本ニ基キ執行ヲ進行ス  
ルコトヲ得ヘシ故ニ債務者カ其執行ヲ免カレントセハ必ス右ノ保證ヲ  
立テ又ハ供託ヲ爲シテ之カ公ノ證明書ヲ得テ提出セサルヘカラス(本法  
第五十條、改正案第六百七  
第三項、第十五條第三號)故ニ其證明書ノ提出ナキ間ハ執行ヲ進行シ假  
執行ノ宣言ニ基キタル執行ト雖モ確定判決ニ基ク執行ト敢テ異ナル所  
ナキハ前述ノ如シ然レトモ保證若クハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カル  
ルコトヲ許スヘキ假執行ノ宣言ハ他ノ假執行ノ宣言ニ比シ多少其效力  
ヲ輕減シ債務者ヲ保護セリ即チ其宣言アル判決ニ基ク執行ニ依リ執達  
吏カ金錢ヲ差押ヘ又ハ差押物ノ賣得金ヲ領收スルモ之ヲ一般ノ如ク債



務者カ辨濟ヲ爲シタルモノト看做スヲ得サルナリ  
又債權ニ對スル強制執行ニ付テハ差押命令ヲ發シ取立命令ヲ爲スコト  
ヲ得ルモ轉付命令ハ之ヲ發スルコトヲ得サルカ如キ是ナリ(本法第六(改正案第七百四十二條))

(ロ) 假執行宣言ノ免除 債務者カ判決確定前ニ執行セラル、ニ於テハ回復  
スヘカラサル損害ヲ受クヘキ事實ヲ疏明シタルトキハ裁判所ハ全ク假執  
行ノ宣言ヲ止ムヘキモノトス(本法第五(改正案第二百四十四條))

(a) 裁判所ノ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキ場合(本法第五) 此場合  
ニ於テハ前記ノ疏明アリタルトキハ判決ヲ假ニ執行スヘカラサル旨ヲ  
宣言ス

(b) 債權者ヨリ假執行ノ申立アル場合(本法第五百三(改正案第二百六十二條))  
此場合ニハ其申立ノ却下ヲ爲スヘキモノナリ債權者ハ執行ヲ猶豫セハ  
損害ヲ生スヘキコトヲ申立テ債務者ハ執行セラルレハ回復スヘカラサ  
ル損害ヲ生スヘキコトヲ主張シタルトキハ裁判所ハ自由ナル心證ヲ以

テ之ヲ決スヘキモノナリ

(丁) 上級審ニ於テ下級審ノ判決ノ不服ナキ部分ニ付テ爲ス假執行ノ宣言 元  
來假執行ノ宣言ハ其審級ニ於テ爲シタル判決ニ之ヲ付スルヲ常トスルモ上  
級審ニ於テ變例トシテ下級審ノ判決中不服ナキ部分ニ對シテノミ假執行ノ  
宣言ヲ付スルコトアリ(本法第五(改正案第四百五十五條))

(イ) 第一審又ハ第二審ノ判決ニシテ假執行ノ宣言ナカリシ場合 即チ債權  
者ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ付スヘキ事件ナルニ其申立ナカリシニ出  
ツルト其申立アリタルモ債務者カ回復スヘカラサル損害ノ生スヘキコト  
ヲ疏明シ假執行ノ宣言ヲ免カレンコトヲ申立テタルカ爲メ假執行ノ宣言  
ヲ許サ、リシ場合ナリシト問ハス又本來假執行ノ宣言ヲ爲スヘキ事件  
ニアラサルトヲ論セス假執行ノ宣言ナキ判決ニ付キ上訴ヲ爲シ其事件中  
不服ナキ部分アルトキハ其部分ニ限り口頭辯論中ニ爲シタル當事者ノ申  
立ニ因リ控訴審若クハ上告審ニ於テ第一審若クハ第二審判決ニ對シ假執  
行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スヘ



キ判決又ハ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキ判決ニ付キ其假執行ノ宣言ヲ遺脱シタル結果其宣言ナカリシモノナルトキハ是レ補充判決ヲ受クヘキモノニシテ(本法第五百四十二條)(改正案第九百七十九條)本號ノ規定ヲ適用スヘキモノニアラス(本法第五百八十八條)(改正案第九百八十八條)

(ロ) 第一審又ハ第二審ノ判決ニシテ條件附ノ假執行ノ宣言アル場合即チ保證ヲ立ツヘキ條件ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲シタル判決(本法第五百三條)(改正案第九百六十五條)第一項ニ對シテ控訴又ハ上告ヲ爲シ其一部ニ不服ノ申立ヲ爲サ、リシ部分アルトキハ其部分ニ付キ前同様當事者ノ申立ニ因リ上級審ハ下級審ノ判決ニ單純ナル假執行ヲ爲シ得ヘキ宣言ヲ爲スコトヲ得

以上二個ノ場合ハ下級審ニテ本訴ト反訴トヲ同時ニ判決シ又ハ併合シタル數個ノ請求ヲ同時ニ裁判シ其或請求ニ關スル裁判ノミニ付キ上訴ヲ爲シタル場合等ニ之カ適用ヲ見ルコトアルヘシ斯ク上級審ニ於テ下級審ノ判決ニ假執行ノ宣言ヲ爲スハ不服ナキ部分ナルカ故ニ其判決ノ如ク直チニ強制執

行ヲ爲サル、モ敢テ損害ヲ來スノ虞ナシト認メ斯ク規定セシナリ而シテ此宣言ハ口頭辯論中ニ於ケル當事者ノ申立ニ因リ決定ヲ以テ下級審ノ判決ヲ假ニ執行シ得ヘキ旨ヲ宣言スヘキモノナリ是レ蓋シ未タ本案ノ判決ト共ニ爲スヘキ時期ニ至ラサルカ故ナリ而シテ此決定ハ口頭辯論中ニ於ケル申立ニ基キテ爲スモノナルカ故ニ獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス而シテ此決定アリタル後ニ至リ不服ナカリシ部分ニ付キ當事者カ不服申立ノ範圍ヲ擴張シ又ハ相手方カ附帶上訴ヲ爲シタルトキハ假執行ノ宣言アル判決ニ對シ上訴ヲ爲シタルト同一ニ歸着スルカ故ニ此場合ニ於テハ第五百十二條(改正案第六百五十三條)ノ規定ニ依リ其執行ノ停止ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

(二) 假執行ニ關スル申立及ヒ裁判前ニ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキ場合ヲ説明シタルヲ以テ以下假執行ニ關スル申立及ヒ裁判ヲ爲スノ手續ヲ講述スヘシ

(甲) 假執行ニ關スル申立 假執行ニ關スル申立ハ訴訟ノ目的物ノ一部ト看做スヘキモノニシテ判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ナルカ故ニ必スヤ口頭辯論ニ於テ書面ニ基キ之ヲ申立テサルヘカラス而シテ口頭辯論中ナルニ於テハ判



決ニ接着スル口頭辯論ノ終ニ至ルマテ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ(本  
第五百(改正案第六條)茲ニ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終ナル語ヲ用キタルモノ  
ハ廣義ノ口頭辯論中ニハ判決ノ言渡モ包含スル故其前タルコトヲ示スノ法  
意ナリ又假執行ニ關スル申立ト稱スル中ニハ假執行ノ宣言ヲ求ムル申立ハ  
勿論債務者ヨリ申立ツル假執行宣言ノ制度及ヒ免除ヲモ包含ス(本法第五百  
五(改正案第六十四條)此等ノ申立ハ總テ判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ニ該當  
スルヲ以テ書面ニ基キ之ヲ爲スヘク然ラサレハ其申立ハ無効ニ歸スヘシ(本  
第二項(改正案第三項)又其申立ハ相手方ニ通知シ置クニアラサレハ相手  
方カ闕席シタル場合ニ於テ闕席判決ヲ求ムルモ其申立ヲ却下セラル、コト  
アルヘシ(本法第二(改正案第九十二條)而シテ此申立ニ付テハ之ヲ主張スル事由ヲ  
陳述セサルヘカラス

乙

假執行ニ關スル裁判 假執行ニ關スル申立ヲ以テ訴訟ノ目的物ノ一部ト  
看做ス以上ハ之ニ付テノ裁判ハ本案ノ判決ノ一部ト同一ニ看做スヘキモノ  
ナリ故ニ實體上ノ請求ニ關スル裁判ニアラスト雖モ之ヲ判決主文中ニ掲ク

ヘキモノトス(本法第五(改正案ニハ)茲ニ所謂假執行ニ關スル裁判トハ獨リ當  
事者ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲ス場合ノミナラス職權ヲ以テ假執行ノ  
宣言ヲ爲ス場合又ハ假執行ノ申立ヲ却下スル裁判モ亦其主文中ニ之ヲ掲ケ  
サルヘカラス(本法第五(改正案第二  
然レトモ前ニ述ヘタル如ク上級審ニ於テ下級審ノ判決ニ對シ上級審ノ判決  
ト時ヲ異ニシテ決定ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス場合ノ如キハ變例ナリ又控  
訴審ニ於テ假執行ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ分離スルトキハ其假執行ニ關スル  
裁判ハ中間判決ヲ以テ之ヲ爲スニ至ルヘシ(本法第五(改正案第九  
假執行ノ宣言ニ付テノ裁判ヲ判決主文ニ附加シタルモノトスルトキハ其結  
果若シ裁判所カ其裁判ヲ遺脱シタルトキハ職權ヲ以テスヘキ場合ナルト債  
權者ノ申立アリシニ拘ハラス之ヲ看過シタル場合ナルトヲ問ハス債權者ハ  
第二百四十二條、第二百四十三條(改正案第九  
爲シ判決ノ補充ヲ受クルコトヲ得ヘシ(本法第五(改正案第二  
補充判決ヲ求メ得ヘキ者ハ獨リ假執行ノ宣言ヲ遺脱シタル場合ニ限り債權



者ノミ之ヲ申立ツルコトヲ得ヘキニ止マリ縦令假執行ニ關スル裁判ナリト雖モ債務者ノ申立ニ係ル假執行宣言ノ制限又ハ其免除ヲ遺脱シタルモノナルトキハ債務者ハ此補充判決ヲ求ムルコトヲ得ス此場合ニ於テハ唯上訴ノ方法ヲ以テ不服ヲ主張スルノ途アルノミ蓋シ假執行ノ宣言ハ之ニ依リ速ニ執行ヲ爲スコトヲ得セシムル重要ナル事項ニ係ルモ假執行制限ノ如キハ防禦方法ノ一ニ過キスシテ不服ノ申立ヲ爲ストキハ其執行ノ停止ヲモ求メ得ヘキ途アルヲ以テナリ(本法第五(改正案第六)百十二條(百三十條))

假執行ニ關スル裁判ハ前段説明セシ如ク判決ノ一部ト看做スカ故ニ本案ノ裁判ト共ニ控訴ヲ爲スコトヲ得ヘキハ勿論其假執行ニ付テノ裁判ノミニ對シテモ控訴ヲ爲スコトヲ得ヘキハ理論上疑ヲ容レス然ルト雖モ債權者ヨリ言ヘハ假執行ノ宣言カ如何ニ不當ナリトモ之カ爲メニ其點ノミニ對シ控訴ヲ爲ストキハ判決ノ確定ヲ遮斷スルヲ以テ寧ロ判決確定ヲ俟テテ其執行ヲ爲スノ便ナルニ如カス又之ヲ債務者ヨリ觀察スルモ本案ノ判決ニ對シテ不服ノ點ナクハ縦令假執行ノ宣言ニ不當ナル所アリトスルモ唯僅カニ執行

ノ期ヲ早ムルニ止マリ之ニ對シテ獨立シテ上訴ヲ爲スノ價値アルヲ見ス故ニ實際ニ於テハ此假執行ノミニ對シテ控訴ヲ爲ス者甚タ少ナルヘシ斯ノ如ク假執行ニ付テノ裁判ニ對シテモ法律上控訴ヲ許スト雖モ控訴審ニ於テ爲シタル裁判ハ中間判決ヲ以テ爲シタルト終局判決ヲ以テ爲シタルトヲ問ハス之ニ對シテハ絕對ニ不服ノ申立ヲ許サルモノトス(本法第五百十(改正案第九百五)條)蓋シ假執行ヲ許スヘキヤ否ヤハ事實上ノ審査ヲ遂ケタル上ニアラサレハ之ヲ判斷スルコトヲ得サルヲ常トスルカ故ニ從テ法律上ノ點ニ關スル事項トシテ上告ヲ爲スヘキモノニアラストスルニアリ

(丙) 上級審ニ於ケル假執行ニ關スル申立ニ付テノ特別ナル手續 上級審ニ於テハ下級審ノ不服ナキ部分ニ付キ假執行ノ宣言ヲ爲ス特別ノ場合アルコト及ヒ其手續ニ付キ特別ナル規定アルコトハ前ニ講述セシ所ナレハ更ニ之ヲ贅セス

右ノ外第二審即チ控訴審ニ於テハ本案ノ判決ト共ニ假執行ニ關スル裁判ニ付キ不服ノ申立アリタルトキ當事者ノ申立ニ因リ本案ニ先チ假執行ニ付テ



ノ辯論及ヒ裁判ヲ爲シ得ヘキモノトス(本法第五條改正案第四條)然ルトキハ裁判所ハ第四百十條ノ場合ニ於ケル被控訴人ノ控訴期間満了前ナルト又故障申立ト控訴ノ提起ト共ニ發生シ故障ノ完結前ナルトニ拘ハラヌ之ヲ待タスシテ假執行ノ點ノミニ付キ第一審判決ノ當否ノ辯論及ヒ裁判ヲ爲スコトヲ得ヘキコトアリ是レ蓋シ假執行ニ關スル事項ハ急速ヲ要スルカ故ニ先ツ假執行ノ當否ヲ裁判スルヲ必要トスルコトアレハナリ而シテ其裁判ハ控訴ノ一部ニ對シテ爲スヘキ判決ナレハ其裁判ハ中間判決タルノ性質ヲ有ス

(三) 假執行宣言ノ效力及ヒ不服申立ニ因ル其執行ノ停止 假執行ノ宣言ハ未確定ノ判決ヲ確定前ニ執行スルコトヲ得セシムル效力ヲ有スルモノニシテ之ニ因リテ確定判決ト均シク全然強制執行ヲ進行スルコトヲ得ルナリ唯債務者ニ保證ヲ立テ、執行ヲ免カル、コトヲ許ス條件附假執行ノ宣言ノミハ確定判決ニ基ク執行ト異ナルコトハ前ニ詳述シタル所ナリ然レトモ此假執行ノ宣言ノ效力ハ其判決ノ結果カ條件ニ繫ルモノニシテ其勝敗ニ因リテ消長ヲ來スヘキモノトス

(甲) 判決ノ結果ニ依ル假執行宣言ノ效力消滅 假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ對シ不服ノ申立ヲ爲シ其結果本案ノ判決又ハ假執行ノ宣言ヲ廢棄破毀又ハ變更スル判決アリタルトキハ其判決ノ言渡ニ依リ其限度ニ於テ假執行ノ效力ヲ失フヘキモノトス(本法第五條改正案第二項)

右ノ結果ハ敢テ判決ノ確定ヲ待タス其言渡ニヨリ當然其效力ヲ生スヘキモノニシテ此判決アリタル際既ニ強制執行ニ着手中ナルトキハ執行機關ニ向テ右判決書ヲ提出シ強制執行ノ停止及ヒ執行處分ノ取消ヲ求ムルコトヲ得(本法第五條改正案第六條)

假執行宣言ノ效力ヲ消滅セシメ着手中ノ執行ヲ停止セシムルニ付テハ本案ノ判決ヲ廢棄破毀又ハ變更シタル判決ノ假執行ノ宣言ノミヲ廢棄破毀又ハ變更シタル中間判決モ同一ナリト雖モ其本案ノ判決ヲ廢棄破毀又ハ變更シタル判決ニ付テハ假執行ノ宣言ノミヲ廢棄破毀又ハ變更シタルモノヨリ其結果大ニシテ尙ホ以下ノ如キ申立及ヒ裁判ヲ爲スコトヲ得ヘシ  
本案ノ判決ヲ廢棄破毀又ハ變更スル際既ニ假執行ノ宣言ニ基キ債務者ヨリ



金錢ノ支拂又ハ物ノ給付ヲ爲シタルトキハ其債務者ノ任意ノ履行ニ出テタルト強制執行ニ依リタルトヲ論セス債務者ハ其口頭辯論ニ於テ其事由ヲ陳述シ右ノ判決ヲ受クルト同時ニ之カ辨濟若クハ回復ノ裁判ヲ受ケンコトヲ求ムルコトヲ得ヘシ而シテ此申立アルトキハ裁判所ハ其事實ニ付キ審理ヲ爲シ果シテ正當ノ申立ト認ムルトキハ本案ノ判決ト同時ニ其辨濟等ヲ債務者ニ命スヘキモノトス(本法第五(改正案第二)百六十七條)而シテ此申立ハ單ニ其支拂又ハ給付シタルモノ、返還ヲ求メ得ヘキニ止マリ其他之ニヨリテ生シタル損害賠償ノ如キハ別ニ訴ヲ提起シテ之ヲ求メサルヘカラス又此申立ハ上告審ニ至リテモ尙之ヲ爲シ得ヘキモノナリト雖モ其事實ノ確定ヲ要スルカ故ニ控訴審ニ其事件ヲ差戻サ、ルヲ得サル場合アルヘシ此規定ハ第四百二十七條第二項第四百十二條第二項ノ規定ト同一ノ法意ニ出ツルモノニシテ其請求ハ反訴ノ性質ヲ有スヘキモノトス且其目的ハ新ニ訴ヲ提起スルノ勞ヲ省カシムルニアリ故ニ若シ此申立ヲ爲サ、ルトキハ別ニ新訴ヲ起シテ請求スルノ外ナシ且之カ新訴ヲ提起スルヲ妨ケサルモノナリ

右支拂又ハ給付シタルモノヲ返還スヘキ判決アリタルトキハ其判決ハ直チニ執行力アルヘキモノニ非ス之ニ因リテ強制執行ヲ爲サンニハ其判決ノ確定ノ後一般ノ手續ニ從ハサルヘカラス

(乙) 不服申立ニ依ル假執行ノ停止 假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ對シ不服ノ申立アルモ之カ爲ニ其效力ハ直ニ消滅スヘキモノニアラス然レトモ故障又ハ上訴ヲ爲シタルモノハ其假執行ノ宣言ニ基ク強制執行ノ停止ヲ申立ツルコトヲ得此申立アリシ場合ニ於テハ裁判所ハ保證ヲ立テシメ又ハ保證ヲ立テシメスシテ強制執行ノ停止ヲ命スルコトヲ得ヘシ尤モ其保證ヲ立シメスシテ停止ヲ命センニハ回復スヘカラサル損害ヲ生スヘキコトヲ疏明シタル場合ニ限ル(本法第二(百二十條)而シテ此申立ハ故障又ハ上訴ヲ提起シタル後ニ爲スヘキモノナレトモ其申立ハ口頭若クハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ得ヘキモノトス然レトモ口頭辯論中ニ於テ判決ヲ受クヘキ事項トシテ申立ヘキモノニ非ス(本法第二(百二十條)而シテ其裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得其裁判ニ對シテハ申立ノ許否何レニ出ツルモ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトス



右等ノ手續ニ依リ執行停止ノ裁判アリタルトキハ債務者ハ其裁判ヲ執行機  
關ニ提出シ已ニ着手シタル強制執行ヲ停止セシムルコトヲ得ヘシ(本法第五  
百五十五條)

第二(改正案第六百七  
十五條第二號)

第三 外國裁判所ノ判決ニ付スル執行判決

前ニ説明セシ如ク強制執行ハ國家ノ裁判權ニヨリ確定シタル權利ヲ其裁判權ノ  
效力ニヨリテ強制的ノ實行ヲ爲サシムルニアリ而シテ國家ノ裁判權ハ其國內ニ  
於テノミ效力ヲ有スヘキモノニシテ外國ニ於テ之ヲ行使スルノ效力ナシ故ニ外  
國裁判所ノ判決モ亦當然內國ニ於テ執行ノ基本タル債務名義トナルヘキモノニ  
非ス即我裁判權ニヨリ強制執行ヲ爲スヘキモノハ我裁判所ノ裁判ニ基クヘキヲ  
本則トス此ノ如ク外國裁判所ノ判決ハ當然我國内ニ於テ執行シ得ヘキモノニ非  
スト雖モ國際上ノ關係ニ於テ外國ノ判決ノ確定ハ內國ニ於テモ一切之ヲ認メサ  
ルモノトナスハ列國交通ノ便宜ヲ阻害スルコト甚カラサルヲ以テ輒近ノ列國國  
際法規ニ於テハ外國判決ノ確定ヲ認メ又一方ニ於テハ國家裁判權ノ尊嚴ヲ毀損  
スルコトナカラシメンカ爲メ內國裁判所ノ裁判上ノ手續ヲ以テ其確定シタル事

實カ內國ニ於テ之ヲ執行スルモ國家ノ秩序安寧ヲ害スルコトナキヤ否ヤノ形式  
上ノ監査ヲ遂ケ果シテ其害ナシトスレハ之カ執行ヲ許スコトヲ得ヘキモノトセ  
リ其之ヲ許スニ付テモ單純ニ其國ノ法律ニ依リ之ヲ許ス所アリ(英米)  
又相互主義  
ニヨリ法律上互ニ相保護シ若クハ條約ニヨリ相互ヲ保護スル場合ニ限リ之ヲ許  
ス所アリ(獨逸)又其裁判上ノ手續モ訴ノ形式ニ依ラシムル所アリ(獨逸及  
其他ノ申  
請ノ形式ニ依ラシムル所アリ(奧國)然ルニ我民事訴訟法ハ條約ニ依ル相互保護主  
義ヲ採用シ而モ其裁判上ノ手續ハ訴ノ形式ニ依ルヘキモノトシ從テ其裁判ハ判  
決ヲ以テ之ヲ爲シ其執行ヲ許ス判決ヲ執行判決ト云フ故ニ外國裁判所ノ判決執  
行ヲ爲サンニハ本邦ナルト外國人ナルトヲ問ハス其執行ノ許可ヲ求ムル訴ヲ我  
裁判所ニ提出シ其執行判決ヲ受ケサル可ラス(本法第五  
百四十四條(改正案第六  
百三十七條)其手續ニ付テ  
ハ種々ノ區別アルヲ以テ左ニ説明スヘシ

(二) 執行判決ヲ求ムル訴及ヒ其管轄

此執行判決ヲ求ムル訴ハ強制執行ニ關スルト雖モ其訴訟手續ハ普通訴訟手續  
ナリ故ニ其提起、口頭辯論證據調、懈怠ニ依ル闕席手續其他判決及ヒ故障、上訴等



ニ至ル迄總テ判決裁判所ニ於テ一般ノ手續ニ依ルヘキモノトス而シテ此訴ニ付テノ裁判管轄ハ被告即チ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所若シ普通裁判籍ヲ有セサルモノ例ヘハ内國ニ於テ住所若クハ居所ヲ有セサルモノナルトキハ第十七條ノ規定ニ於ケル財産所在地ノ特別裁判籍ニ專屬シ又事物ノ管轄ニ付テハ其價額百圓ヲ超過スルト否トニヨリ之ヲ區別シ區裁判所若クハ地方裁判所ノ管轄ニ專屬スヘキモノトス而シテ此價額ハ其債務名義タル判決ニ掲ケタル價額ニ拘ハラス執行ヲ求メントスル範圍ニヨリテ定ムヘキモノナリ

(本法第五百十(改正案第六百三)四條第二項)(十七條第二項)

(二) 執行判決ヲ求ムル訴ニ付テノ辯論及ヒ裁判

抑モ執行判決ヲ爲ス目的ハ外國裁判所ノ判決ノ實體上確定シタル請求ノ當否ヲ判斷スルノ法意ニアラス其實體上ノ法律關係ハ外國裁判所ノ確定判決ニ讓リ唯其確定シタル事實及國際條約ニヨリ若クハ本邦ノ公安ニ關スル法律ニ依リ我國ニ於テ執行ヲ許シ得ヘキヤ否ヤノ形式上ノ調査ヲ爲スニ過キス是ヲ以テ其辯論モ其範圍内ニ止マリ從テ當事者モ實體上ノ請求ヲ擴張シ又ハ反訴ヲ

提起スルコトヲ得ス而シテ裁判所モ亦實體上ノ裁判ヲ與フルコトヲ得ス此ノ如ク實體上ノ裁判ヲ爲スコトヲ得サレトモ形式上我國ニ於テ執行セシムルモ國家ノ秩序安寧ニ害ナシト認メタル上ニアラサレハ執行ヲ許スコトヲ得ス而シテ一般其害ナシト認メテ執行ヲ許スニ於テハ我裁判權ノ下ニ判定ヲ經タル筋合ナルヲ以テ我裁判所ノ裁判ニ依リ執行ヲ爲スコトヲ得セシムルモノト云フヘク從テ國家裁判權ノ尊嚴ヲ毀損スルカ如キ嫌ナシトスルニアリ而シテ其形式上調査スヘキ事項ハ以下ニ摘述スル所ニシテ裁判所ハ職權ヲ以テ調査ヲ遂ケ其事項中ノ一ニ該當スルトキハ執行判決ヲ求ムル訴ヲ却下スヘキモノトス(本法第五百(改正案第六百三)四條第二項)(百八十四條)

(イ) 外國裁判所ノ判決ノ確定ト爲リタルコトヲ原告カ證明セサルトキ 執行判決ハ外國ノ確定判決ニ付キ其執行ヲ許スヘキモノナルヲ以テ其裁判ハ外國裁判所ノ判決ナルヤ及ヒ其判決ハ既ニ確定シタルモノナルヤ否ヤヲ調査セサルヘカラス是ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ノ如キハ未タ執行判決ヲ爲スコト能ハサルモノナリ而シテ其確定ノ效力及ヒ其時期ノ如キハ各



國ノ法制歸一ナラス特ニ上訴若クハ故障ノ方法及ヒ其階級若クハ期間ノ如キモ各國同一ニ出ツヘキモノト云フヲ得サルヲ以テ我訴訟法ノ規定ニ照シ之ヲ推測スルコト能ハス故ニ法律ハ確定ノ證明ヲ爲スヘキ義務ヲ原告ニ負ハシメタルモノナリ是ヲ以テ若シ其證明ヲ爲ス能ハサルトキハ執行判決ヲ求ムル訴ヲ却下セサルヘカラス

(ロ) 本邦ノ法律ニ依リ強テ爲サシムルコトヲ得サル行爲ヲ執行セシムヘキトキ 各國ノ風俗又ハ倫理上ノ觀察ヨリシテ同一ナルコト能ハス且宗教上ニ付テモ同段ナリ我國ニ於テハ彼ノ阿片煙草ノ如キハ法律上嚴禁スル所ナリ(明治八年布告)他國ニ於テハ之ヲ許容スル所アリ又或國ニ於テハ民事訴訟上(第百二十八號)拘留ノ判決ヲ言渡コトアリ(佛蘭西民事訴訟法第百二十六條、第七百八十三條、獨逸舊民事訴訟法第七百八十二條、第七百八十三條)然レトモ我國ニ於テハ斯ル規定ノ設ナシ故ニ若シ外國ノ判決ニシテ阿片煙草賣買ノ履行ヲ言渡シ又ハ民事上拘留ヲ言渡シタルモノ、如キハ我國ニ於テ執行ヲ許スコトヲ得ス是レ蓋シ我國ノ國是ヲ維持シ秩序ヲ保護スルノ目的ニ出ツルモノナリ

(ハ) 本邦ノ法律ニ依レハ外國裁判所カ裁判權ヲ有セサルトキ 此規定ハ外國裁判所ノ爲メニ我裁判權ヲ侵害セラレサルコトヲ期スルト外國ニ在ル本邦人ニ對シ裁判權ヲ有セサル外國裁判所ノ越權ヲ排除スルトヲ目的トスルニアリ然レトモ外國ニ於テ言渡シタル判決ニ付キ事物ノ管轄權ヲ有セシヤ否ヤ又ハ無訴權ニ屬スヘキ請求ナルヤ否ヤハ調査スルヲ必要トセス如何トナレハ我國ノ事物ノ管轄ニ關スル規定ハ外國ニ於ケル事物ノ管轄ニ付キ標準ト爲スヘキモノニアラス又無訴權ニ屬スヘキ請求ノ如キモ各國同一ノ規定ニ出ツヘキモノニアラサレハ此等ノ權限ニ相違アルモ我國ノ利害ニ何等ノ影響ヲ及ホサ、レハナリ要スルニ我國ノ裁判所ニ於テハ單ニ土地ノ管轄ニ付キ調査ヲ遂クヘキモノニシテ本邦ノ法律ニ依レハ外國裁判所ハ被告カ裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ニ非スシテ管轄權ナキ裁判所ナリシヤ否ヤ殊ニ不動產上ノ訴訟ニシテ其目的物タル不動產ハ本邦ニアリテ外國裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノニ非サルヤ否ヤヲ調査スルニアリ(本法第十條乃至第二十四條)(改正案第十條乃至第二十九條)



(ニ) 敗訴ノ債務者本邦人ニシテ應訴セザリシトキ 是レ外國裁判所ニ於テ本邦人ノ受ケタル闕席判決ノ場合ニ適用スヘキ規定ナリ然レトモ闕席判決ニ對シテハ總テ執行判決ヲ許サストスルニアラス其訴訟ヲ開始スル呼出又ハ命令ヲ其受訴裁判所所屬ノ國ニ於テ被告タル本邦人ニ送達ヲ爲サ、ルカ又ハ法律上ノ共助ニ依リ即チ裁判所ノ囑託ニヨリ本邦ニ於テ被告本人ニ送達等ヲ爲サ、リシ場合ニノミ適用スヘキ規定ナリ蓋シ右呼出等ノ手續ヲ爲サス即應訴ノ機會ヲ與ヘスシテ答辯ヲ爲サシメサル儘闕席判決ヲ與ヘタル裁判ニ基キ執行ヲ許ストキハ本邦人ノ不利益尠カラサルヲ以テ此場合ニハ本邦人ヲ保護スルカ爲メ執行判決ヲ求ムル訴ヲ却下スヘキモノトスルニアリ

(ホ) 國際條約ニ於テ相互ヲ保セサルトキ 我民事訴訟法ハ執行判決ヲ爲スニ付テハ條約ニ依ル相互主義ヲ採用セシコトハ前ニ説明セシ所ナリ蓋シ國際上ニ於テハ各國對等ノ地位ニ立テ外國ト内國トノ相互ニ利益ヲ交換スルヲ以テ目的ト爲シ條約ニ依リ相互ニ保護スルコトヲ約シタルトキニ限り執行判決ヲ爲スヘキモノト定メラル然レトモ我國ニ於テハ未タ相互ノ條約ニヨ

リ外國ノ判決ヲ内國ニ於テ執行シ得ヘキコトヲ許ス條約ヲ締結シタルモノアルヲ見ス故ニ本號ノ規定ニ依リ外國裁判所ノ裁判ニ對シテ執行判決ヲ與フル場合ナシト斷定セサルヘカラス尙之ニ關シテハ國際法ニ付テ研究セラレントヲ希望ス

第四 仲裁判斷ニ付スル執行判決

仲裁判斷トハ係争ノ權利關係ニ付キ當事者ノ契約ヲ以テ裁判所以外ノ第三者ニ委ネ其第三者タル仲裁人ノ爲シタル判斷ヲ云フ而シテ此判斷ハ固ヨリ國家機關タル裁判權ノ行使ニ出ツルモノニ非サルヲ以テ當然強制力ヲ有スルモノニ非ス即チ威力アルモノニ非スト雖モ當事者間ノ法律行爲ヲ以テ其判斷ヲ受クヘキコトヲ約シタルモノナルカ故ニ其判斷ヲ實行スル途ヲ與フルハ最適當ト云フヘク故ニ法律ハ之ヲ保護シテ一定ノ裁判所ノ形式ヲ經テ強制執行ヲ爲シ得ヘキモノトセリ其裁判上ノ手續ハ仲裁判斷ニ付キ共力ヲ與フヘキ裁判所即チ仲裁契約中ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所若シ其契約ニ定メナキトキハ其請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ管轄權ヲ有スヘキ區裁判所又ハ地方裁判所(本法第八條改正)



案第一千一四條(乃)ニ向テ強制執行ノ許可ヲ受クル爲メニ執行判決ヲ求ムル訴ヲ提起シ其判決ヲ得テ確定シタル場合ニ於テ強制執行ノ債務名義ト爲スコトヲ得ヘシ  
(本條第八百(改正案第九百九十八條)此執行判決ヲ求ムル訴ニ於テハ裁判所ハ敢テ其仲裁判斷ノ實體上當ヲ得タルヤ否ヤヲ調査スヘキモノニ非ス唯其判斷ハ法律ニ定メタル原因ニ不適法ノ點アルヤ否ヤノ形式上ノ調査ノミヲ遂ケ其原因ナキ場合ニ於テ執行判決ヲ與フヘキモノトス)  
(本條第八百(改正案第九百九十八條)第二項)

第二款 判決以外ノ債務名義

強制執行ノ基本タル債務名義ハ終局判決又ハ終局判決ト看做スヘキ條件付ノ判決ニ依ルヲ本則ト爲スヘキコトハ前款ニ於テ説明セシ所ナリ然レトモ法律ハ尙其範圍ヲ擴張シテ他ニ幾多ノ債務名義ナルモノヲ認メタリ而シテ其判決以外ノ債務名義中ニハ或ハ裁判ニ出ツルモノアリ又ハ全ク裁判上確定シタルモノニ非サル債務名義アリ故ニ之ヲ分説セン

第一 抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判(本條第五百五(改正案第六百八十五條)第一號)  
(本條第五百五(改正案第六百八十五條)第一號)

抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ハ判決以外ノ決定及命令ニシテ特ニ法律ニ於テ抗告ヲ爲シ得ヘキ明文アルモノニ限ル(本條第四百(改正案第四百五十五條)行法第四百五十五條)  
(本條第四百(改正案第四百五十五條)行法第四百五十五條)

蓋シ決定命令ニシテ普通ノ抗告ヲ爲シ若クハ即時抗告ヲ許スヘキモノハ數多アリト雖モ總テ執行シ得ヘキ債務名義ト爲ルノ限ニ非ス何トナレハ其裁判中ニハ訴訟手續ノミニ關スルモノ多クシテ之ニ依テ唯其訴訟手續ヲ進行セシムル材料ト爲スニ止マリ實體上ノ權利ノ實行ヲ要スヘキモノ極メテ稀ナルヲ以テナリ今其裁判ニシテ權利ノ實行ノ爲メニ強制執行ヲ要スヘキモノヲ例示スレハ以下ノ如シ

- (一) 訴訟費用額確定決定(本條第八(改正案第九百六十六條)第十條)
- (二) 裁判所書記法定代理人辯護士其他ノ代理人及執達吏ニ對シ其過失又ハ懈怠ニ依リ生シタル費用ノ辨償ヲ負擔セシムル決定(本條第八(改正案第九百四十四條)第十條)
- (三) 呼出ニ應シテ出廷セス又ハ證言ヲ拒ミ若クハ鑑定ヲ拒ミタル證人若クハ鑑定人ニ對シ費用ノ賠償ヲ宣言シタル決定(本條第二百九十四條、第三百二十八條)  
(本條第二百九十四條、第三百二十八條)



案第三百三十九條、第三百

以上ノ決定ハ固ヨリ訴訟手續上ヨリ生スル事項ニ係ルト雖モ實體上ノ權利實行ヲ要スルヲ以テ強制執行ヲ爲シ得ヘキ債務名義ト爲ルヘキモノニシテ所謂抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ニ該當ス  
前陳ノ如キ抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ性質ノ裁判ナルトキハ上告審ニ於ケル裁判ハ此上不服ヲ申立ツル途ナシト雖モ其性質上執行シ得ヘキ債務名義ニ屬スルモノト云ハサルヲ得ス而シテ抗告ハ特別ナル規定アラサル限ハ執行停止ノ效ヲ有セサルヲ常トスルカ故ニ其決定ハ言渡若クハ送達ノ後直チニ執行シ得ヘキモノニシテ只之ニ對シ抗告ノ申立アリタルトキ其裁判ヲ爲シタル裁判官又ハ抗告裁判所ニ於テ一時執行ヲ停止スル命令ヲ爲スコトアルノミ此命令アリタルトキハ直チニ執行ヲ爲スコトヲ得サルニ過キス(本法第四四九條第十條)若シ其抗告ヲ爲シタル結果抗告裁判所カ原決定ヲ廢棄スルトキハ全然執行ヲ爲スヲ得サルニ至ルヘシ若シ執行ニ着手シタルトキハ之ヲ絶對的ニ停止セサルヲ得ス(本法第五百五條第一號)(改正案第六百七十五條第一號)

第二 執行命令(本法第五百五條第二號)(改正案第六百八十九條第二號)

特別訴訟手續中ノ一ナル督促手續ニ依リ債權者ノ申請ニ基キ區裁判所カ支拂命令ヲ發シタル後債務者ニ於テ十四日ノ期間内ニ異議ノ申立ヲ爲サ、ルトキハ同裁判所ハ債權者ノ申立ニ依リテ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得此假執行ノ宣言ヲ付シタル支拂命令ヲ名ケテ執行命令ト云フ此執行命令ハ即チ假執行ノ宣言ヲ付シタル闕席判決ト同一視シ(本法第三百九十四條)(改正案第六百七十九條)之カ強制執行ヲ爲スニ付テハ彼ノ假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ト同一ニシテ若シ故障ノ申立アリタルトキハ之ト同時ニ其執行ノ停止ヲ申立ツルコトヲ得(本法第五十二條)(改正案第六十三條)又故障ノ申立ノ新辯論ニ基キ執行命令ヲ廢棄セラレタルトキハ假執行ノ效力ハ全然消滅シ債務者カ既ニ支拂若クハ給付シタル金錢物件等アレハ之カ辨濟ノ裁判ヲ求ムルコトヲ得ヘシ(本法第二百五條)(改正案第七十六條)此債務名義ハ執行文ヲ求ムルコトヲ要セス一種特別ナル性質ヲ有スルモノトス(本法第五十一條)(改正案第六十八條)  
第三 裁判上ノ和解(本法第五十九條)(改正案第六十八條)  
裁判上ノ和解ニハ二種アリ其一ハ訴訟提起後ニ於テ受訴裁判所又ハ受命判事若



クハ受託判事ノ面前ニ於テ爲ス和解(本法第二百一十條)ニシテ其ニハ訴ノ提  
起前區裁判所ニ於テ爲ス和解(本法第三百一十條)是ナリ此等ノ和解ハ何レモ  
裁判所書記カ立會其和解ノ趣旨ヲ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニスヘキモノタリ(本法

第三百十(改正案第四百四)條第二項(十七條案第二百四)

裁判上ノ和解ニシテ書記カ之ヲ調書ニ記載シテ明確ニシタルトキハ執行シ得ヘ  
キ債務名義ノ一ニ屬ス蓋シ和解ナルモノハ一ノ契約ナレハ(民法第六百九十九條)裁  
判外ニ於テモ當事者ノ法律行爲ヲ以テ之ヲ約定シ得ヘキモノナリト雖モ斯ル裁  
判外ノ和解ハ強制執行ノ基本タル債務名義ト爲ルヘキモノニ非ス獨リ裁判上ノ  
和解ニ限り法律ハ之ヲ確定ノ終局判決ト同視シ執行ヲ許スヘキモノトスルニ在  
リ

改正案ニ於テハ右和解ニヨル債務名義ノ次ニ執行判決ヲ付シタル外國裁判所ノ  
判決ノ一號ヲ加ヘラレタリ(改正案第六百八十五條第五號)

第四 公證人ノ作りタル公正證書(本法第五百五號)改正案第六百八十五條第六號

公證人カ其權限内ニ於テ制規ノ方式ニ基キ作りタル公正證書モ亦以下ニ説明ス

ル所ノ要件ヲ具備スルトキハ執行シ得ヘキ債務名義タルヘキモノトス是レ固ヨ  
リ裁判ニヨリ確定シタル權利ニ非スト雖モ其法律關係ハ極メテ明確ニシテ殊ニ  
債務者カ自ら甘ンシテ執行ヲ受クヘキコトヲ承諾スルモノナレハ便宜上之ヲ債  
務名義ト爲スヲ相當トスルニ在リ而シテ茲ニ所謂權限内ニ於テ制規ノ方式ニ基  
キ作りタル證書トハ公證人規則第一條乃至第三條ノ規定ニ違背セス且同規則第  
四條第七條ノ受持區内換言スレハ管轄内ニ於テ同規則第十三條及第三章第一節  
第二節ノ方式ニ從ヒ作りタル證書ノ意義ナリ此公正證書ニシテ執行ノ基本タル  
ヘキ債務名義ト爲サンニハ左ノ要件ヲ具備セサルヘカラス  
(一) 一定ノ金額ノ支拂又ハ他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ以  
テ目的トスル請求ナルコト 茲ニ所謂一定ノ金額又ハ一定ノ數量トハ其公正  
證書ヲ作製スル當時一定シ其證書面ニ數額ヲ明記シタルモノヲ云フ又本法ニ  
於テ有價證券ト稱スルモノハ公ノ取引所ニ於テ市價ヲ以テ取引ヲ爲シ得ヘキ  
性質ノ證券ヲ云フ蓋シ本號ノ如キ請求ハ其權利明確ニシテ之カ執行ヲ許スモ  
回復スヘカラサル損害ヲ生スヘキ虞ナシト認メタルカ故ナリ



(二) 其證書中ニ於テ直チニ強制執行ヲ受クヘキ旨ヲ記載シタルコト 即チ債務者カ債務履行ノ時期ニ至リ之カ履行ヲ爲サ、ルトキハ裁判所ノ裁判ヲ受クルコトナクシテ直チニ執行ヲ受クヘキ承諾ヲ表示セシモノナルトキノ謂ナリ

第五 破産手續ニ依リ債權調査會ニ於テ確定シタル權利名義(舊商法第千四十九條) 破産手續ニ於テハ各債權者ハ其債權ヲ届出テ(舊商法第千二十三條) 債權調査會ニ於ケル承認ヲ以テ其債權ヲ確定スヘキモノナリ(舊商法第千二十六條) 而シテ破産手續ノ實施中ハ各債權者ハ單獨ニ請求ヲ爲シ強制執行ヲ爲スコトヲ得サルモノナレハ(舊商法第百八十九條) 強制執行ノ債務名義タル問題ノ生スルコトナシ然レトモ其確定シタル債權ニシテ全部ノ辨濟ヲ受クルコト能ハス破産手續ヲ終了シタルトキハ其確定シタル債權ハ爾後獨立シテ債務者ニ請求スルコトヲ得ヘシ舊商法ノ規定ニヨレハ此權利名義ニ基ク債權ハ債務者ニ對シ無限ニ行フコトヲ得ルモノトセリ(舊商法第千四十九條) 故ニ更ニ裁判ヲ受クルヲ要セサルモノト云ハサルヘカラス之ヲ以テ破産手續ニ依リ確定シタル債權ハ破産手續終了後ハ其調査ノ結果ヲ記シタル債權證書ニ依リ(舊商法第千二十五條) 強制執行ノ基本タル債務名義ト爲スコトヲ得ヘシ然レトモ此債務名

義ニ付テハ執行ノ爲メ執行文ヲ付與スヘキモノナルヤ否ヤニ付テハ商法中規定スル所ナク又民事訴訟法中ニモ之ヲ付與スヘキ當該ノ管轄裁判所ノ定メナキヲ以テ其付與ヲ要セサルモノト解釋セサルヲ得ス從テ當然債務名義ノ一トシテ數フルコトヲ得ヘキモノト信ス尤モ此點ニ付テハ議論アルヤモ知ルヘカラス又未タ判例モアラサレハ尙研究スラレンコトヲ希望ス

### 第三款 強制執行保全ノ債務名義

前二款ニ於テ講述セシ債務名義ハ其權利ヲ直チニ實行シ得ヘキモノナレトモ本款ニ於テ講述セントスルモノハ直チニ其請求權ヲ實行シ得ヘキモノニ非ス將來此權利ノ強制執行カ或事情ノ變更ニ依リ其實行ヲ爲スコト能ハサルニ至ルヘク若クハ其實行ニ困難ヲ生スヘキ虞アル場合ニ之カ保全トシテ債務名義ト爲スヘキモノタリ而シテ此種ニ屬スル債務名義ニ二種アリ一ハ假差押命令ニシテ其二ハ假處分命令是ナリ此等ノ命令ハ本法第七百三十七條以下(改正案第九百十九條以下) 及ヒ七百五十三條以下(改正案第九百十九條以下) ノ規定ニ依リ權利實行ノ困難ヲ生スヘキコトヲ理由トシ特別訴訟手續ニ從ヒ之カ保全ノ爲メ裁判ヲ求メタル場合ニ發スヘキ命令



ニシテ其内假差押命令ハ金錢ノ債權ノ強制執行保全ノ爲メニ之ヲ發スルヲ本則トシ假處分命令ハ概シテ金錢以外ノ權利實行保全ノ爲メニ發スルヲ常トス而シテ此裁判ハ口頭辯論ヲ經テ判決ヲ以テ爲ス場合ト口頭辯論ヲ經スシテ決定ヲ以テ爲ス場合トアリ(本法第七百四十二條)以テ隨テ現行法第七百四十二條ニ該當スル規定ハ之ヲ設ケ而シテ其判決ヲ以テ爲シタルト決定ヲ以テ爲シタルトヲ問ハス此等ノ裁判ヲ稱シテ假差押命令及假處分命令ト云フ尤改正案ニ於テハ之ヲ假差押決定假處分決定ト改メラレタリ此命令ハ判決ヲ以テ爲ストキト雖モ本案ノ請求ニ付テノ判決ニ依ル債務名義ノ如ク其裁判ノ確定若クハ假執行ノ宣言アルコトヲ要セス其命令自身カ執行力ヲ有シ其命令ヲ受ケタルモノハ之ヲ以テ直チニ執行ヲ爲スコトヲ得ヘシ又之ニ付テハ執行文ノ附與ヲ要セス(本法第七百四十九條)改正案第九條此等ノ命令ニ基キ強制執行ヲ爲スニハ直チニ權利ノ實行ヲ強制シ得ヘキ債務名義ト異ナリ單ニ保全ノ爲メノ執行ニ過キサレハ假差押命令ノ執行ノ如キモ唯其目的物ヲ差押フルニ止マリ之ヲ換價シテ辨濟ニ充ツヘキ手續マテ進行スヘキニ非ス是レ本差押ト其性質上相異ナル點ニシテ其詳細ナル説明ハ後ニ假差押假處分

ノ節ニ讓ル

### 第一節 執行力アル正本

此執行力アル正本ナル用語ハ改正草案ニ於テハ之ヲ執行正本ト改メラレタルモ其法意ハ同一ナリ(改正案第六百三十九條)而シテ強制執行ニ付テハ其實体上ノ要件タル執行ノ基本トスヘキ債務名義ヲ要スルコトハ前節ニ於テ説明セシ所ナリ而シテ此債務名義アルニ於テハ強制執行ヲ爲シ得ヘキモノナレトモ強制執行ハ執行機關ニ依リ形式上ノ手續ヲ實施スヘキモノナレハ其債務名義ノ存在ヲ示シ之ニ因リテ強制執行ヲ爲シ得ヘキモノナルコトヲ明確ニスル書面ヲ要ス殊ニ強制執行ノ實行ハ其判決ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ行フヘキモノニ非ス即チ他ノ機關タル執達吏及執行裁判所カ其任ニ當ルヘキモノナレハ從テ執行機關ハ果シテ執行シ得ヘキ債務名義ナルヤ否ヤヲ知ル能ハス是ヲ以テ形式上ノ要件トシテ執行力アル正本ヲ付與シ債權者ハ之ヲ以テ執行機關ニ提出シ執行機關ハ其正本ニ依リ強制執行ヲ實施スヘキモノトス故ニ強制執行ヲ爲スニ付テハ單ニ實體上ノ債務名義アルノミヲ以テ足レリトス尙ホ形式上ノ執行力アル正本ヲ要ス(本法第五百十



執行力アル正本ハ執行ノ基本タル債務名義ノ末尾ニ執行文ヲ附記スヘキヲ一般トス只執行命令及ヒ假差押命令假處分命令ニ付テハ前ニ論述セシ如ク其命令自身カ執行文ヲ包含スヘキモノナルヲ以テ別ニ執行文ノ付與ヲ要セス其命令ノ正本ノミヲ以テ執行力アル正本ト看做シ直チニ執行ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ此等ノ命令モ其命令アリタル後ニ當事者ニ變更即承繼アル場合ニ於テハ執行文ノ付與ヲ受ケサルヘカラス(本法第五百六十一條第七百九百三十四條第九百三十九條)

其他ノ債務名義ニ至リテハ必ス執行文ノ付與ヲ受ケサレハ執行ニ着手スルコトヲ得ス而シテ此執行力アル正本ハ其執行文ニ表示セラレタル當事者ニ對シテハ唯執行文ヲ付與シタル吏員ノ屬スル管轄區内ノミニ止マラス本邦全國ニ於テ執行シ得ヘキ效力ヲ有ス(本法第五百二十五條)改正案ニ於テハ現行法ノ第五百二十五條ノ規定ヲ省カレタレトモ其法意ニ於テハ敢テ其效力ヲ制限シタル趣旨ニアラス斯ル規定ヲ設ケサルモ學理上然ラサル

ヲ得サルモノト看做シタルモノナラン

第一 執行文付與ノ申請

執行文ノ付與ハ當事者ノ申請ニ依リ之ヲ爲スヘキモノニシテ其申請ハ執行ヲ爲サントスル債權者ヨリ之ヲ付與スヘキ權アル吏員ニ對シ口頭又ハ書面ヲ以テ申請スヘキモノトス(本法第五百十條第三項)尤モ改正案ニ於テハ此ノ規定ヲ省カレタレトモ敢テ斯ル手續ヲ許サルニアラス他ノ法條ニ依リ當然推知スヘキモノト認メタルニ外ナラサルヘシ而シテ此申請ハ既ニ執行シ得ヘキ債務名義カ成立シ之ニ基キ申請ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ判決ニ付テハ其確定シタル後若クハ假執行ノ宣言アリタル後ニ之ヲ爲スヘク且其執行文ヲ付與スヘキ吏員ニシテ判決ノ確定ヲ知ル能ハサルトキハ判決確定ノ證明書ヲ添付シテ之カ申請ヲ爲サルヘカラス又和解ノ如キハ其成立ヲ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニシタル後ハ何時ニテモ其申請ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ其債務名義ノ執行ノ趣旨カ條件付ニ繫ルトキハ其條件ノ到來後之ヲ證明シテ申請セサルヘカラス然レトモ保證ヲ立ツヘキ條件ニ繫ルトキハ此限ニ非ス(本法第五百十條第二項)改正案第六百四條又債務名義ニ表示セル當事



者ニ承繼アリテ其承繼人ヨリ執行文ノ付與ヲ求メ若クハ承繼人ニ對シテ執行文ノ付與ヲ求メンニハ其裁判所ニ於テ右承繼ノ事實明カナルトキハ格別然ラサル場合ニ於テハ其承繼ノ事實ヲ證明シテ執行文付與ノ申請ヲ爲サ、ルヘカラス(本第五百九條)改正案ニ於テハ此承繼ノ場合ニ於ケル執行文付與ニ關スル手續ヲ改メラレタル所アリ(改正案第六百四十四條)又改正案ニ於テハ此規定ノ次ニ參加訴訟ノ場合ニ於テ脱退シタル被告ニ對シテ執行文ヲ付與スヘキ規定ヲ加ヘラレタリ(改正案第六百四十五條)以上二個ノ場合ニ於テ債權者カ其必要ナル證明ヲ爲シ能ハサルトキハ單ニ執行文付與ノ申請ノミヲ以テ執行力アル正本ヲ受クルコトヲ得ス此等ノ場合ニ於テハ別ニ執行文付與ノ訴ヲ提起セサルヘカラス(本第五百四十一條)(改正案第六百四十七條)債權者ハ債務者ニ對シ數個ノ場所ニ於テ若クハ數個ノ方法ヲ以テ同時ニ若クハ順次ニ強制執行ヲ爲スコトヲ得ヘシ(本第五百二十六條)(改正案第六百五十一條)斯ル場合ニアリテハ數通ノ執行力アル正本ヲ必要トスルコトアルヘシ故ニ法律ハ同時ニ數通ノ執行力アル正本ノ付與ヲ求メ又ハ一度其正本ヲ受ケタル後ト雖モ更ニ同一ノ執行力アル正本ヲ求ムルコトヲ得ヘキモノトセリ一度其付與ヲ受ケタル正本ヲ紛失

シタル場合ノ如キモ亦然リ(本第五百一十三條)(改正案第六百四十九條)

第二ニ執行文ヲ付與スヘキ吏員執行文ノ付與ハ債權者ノ申請ニ因リ裁判所書記カ之ヲ付與スヘキヲ本則トシ而カモ第一審裁判所書記カ之ヲ付與スヘキヲ常トス若シ訴訟カ上級審ニ繫屬スルトキハ上級審ノ書記カ之ヲ付與スヘキ場合アリ是即一部判決ノ確定シタル場合ニ生スヘキ事項ニシテ判決確定ノ證明書ヲ付與スル場合ニ付テ説明セシ所ヲ參照セララルヘシ(本第五百一十六條)(改正案第六百四十三條)又裁判上ノ和解ニシテ訴訟以前ニ爲シタルモノニ係ルトキハ其和解ヲ爲シタル裁判上ノ書記カ之ヲ付與ス可キモノタル(本第五百六十六條)(改正案第六百八十六條)抑此執行力アル正本ハ單ニ書面ノ認證ヲ爲スニ非ス執行ノ基本タル正本ノ作成ニ係リ事重要ナリト雖モ其之ヲ作成スルニ付テハ訴訟記録ヲ調査シテ之ヲ爲スコトヲ得ヘク敢テ特別ノ判斷ヲ要セス故ニ其記録保管ノ任ニ當ルヘキ書記ノ職務ニ屬セシメタルモノナリ又債務名義ニシテ公正證書ニ係ルトキハ其原本ヲ保管スル者ハ公證人ナルヲ以テ公證人カ之ヲ付與スヘキモノトセリ(本第五百六十二條)(改正案第六百八十二條)



案第六百八十八條)因テ其書記ノ付與スヘキ場合ト公證人カ付與スヘキ場合トヲ區別シテ  
説明セ

(二) 裁判所書記カ執行文ヲ付與スヘキ場合

執行文ノ付與ハ裁判所書記カ其任ニ當ルヘキコトハ前述ノ如シ然リト雖モ書記ハ一切裁判ヲ爲スノ權ヲ有セス故ニ幾分カ異例ニシテ特別ノ判斷ヲ要スヘキトキハ裁判長ノ命令アルニアラサレハ執行文ヲ付與スルコトヲ得ス然ラハ書記カ執行文ヲ付與スル事ヲ自カラ專行シ得ヘキ場合ト裁判長ノ命令ヲ要スル場合トノ別アリ故ニ之ヲ分説セン

(甲) 書記カ執行文ノ付與ヲ專行スヘキ場合

(イ) 判決確定シ又ハ判決ニ假執行ノ宣言ヲ付シアル通常ノ場合(本法第五百八十八條改正案第六百四十三條)

(ロ) 抗告ヲ許スヘキ裁判ニ付テノ通常ノ場合(本法第五百五十九條第一號改正案第六百八十八條)

(ハ) 裁判上ノ和解ニシテ通常ノ場合(本法第五百五十九條第一號改正案第六百八十八條)

右等ノ債務名義ニシテ別段ノ事情ナキトキハ書記ハ其執行文ノ付與ヲ專行

スヘキモノトス

乙) 裁判長ノ命令アルトキニ限り書記カ其命令ニ基キ執行文ヲ付與スヘキ場

合

(イ) 債務名義ニ基ク執行カ其趣旨ニ從ヒ條件ニ繋ル場合

茲ニ所謂執行カ條件ニ繋ル場合トハ債權者カ債務者ニ對シ反對給付ノ義務ヲ負ヒ若クハ或行爲ヲ爲スノ義務ヲ負フタル場合又ハ其執行カ他ノ停止條件ニ繋ル場合ノ類是ナリ此等ノ條件ニ繋ルトキハ執行力アル正本ノ付與ヲ申請スル者ハ公正證書ナルト私署證書ナルトヲ問ハス其條件ノ到來シタル事實ヲ證明セサルヘカラス(本法第五百十(改正案第六百四)而シテ此等ノ證明ニ付キ果シテ其條件ノ到來シタルヤ否ヤヲ決スルカ如キハ一個ノ判斷ヲ要ス故ニ法律ハ裁判長カ之ヲ調査シ其時期到來シタルモノト認メ正本付與ノ命令アリタル場合ニ限り書記ハ其執行文ノ付與ヲ爲スヘキモノトセリ(本法第五百(改正案第六)ヘキモノトセリ(本法第六百四十六條)

執行カ條件ニ繋ルト雖モ單ニ保證ヲ立ツヘキ條件ナルトキハ執行機關ニ



於テ之ヲ調査スルニ容易ナレハ執行文ヲ付與スルニ當テ之ヲ顧ミス只執行ニ着手ノ際之ヲ調査スヘキヲ要件トスルニアリ(本法第五百二十九條(改正案第六百五十三條))又執行カ一定ノ日時ノ到來ニ繋ルモノ、如キハ之ヲ條件ト同視セス故ニ書記ハ斯ル事項ヲ顧ミスシテ執行文ノ付與ヲ專行スルコトヲ得ヘシ(本法第五百十八條第(改正案第六百四十三條)第(改正案第六百四十六條))

(ロ) 債務名義ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲メニ執行文ヲ付與スヘキ場合又ハ之ニ表示シタル債務者ノ一般ノ承繼人ニ對シテ之ヲ付與スヘキ場合

當事者ノ法律關係ニ付キ既ニ執行シ得ヘキ債務名義カ成立シタル後ニ於テモ承繼ニ依リ之ヲ移轉スヘキコトアルハ素ヨリ論ナシ然レトモ執行機關タルモノハ元來其執行力アル正本ノミニ依リ執行ヲ爲スヘキモノナレハ其正本ニ表示シタル債權者ヨリ之ニ表示シタル債務者ニ對シテ執行ヲ爲ス權アルモ其他ノ第三者ニ對シテハ執行ヲ爲スノ權ヲ有セス(本法第五百十八條(改正案第六百三十九條)第(改正案第六百五十二條))

故ニ一度債務名義カ成立シタル後其當事者中ニ承繼アレハ債權者ハ其承繼人ノ爲メニ若クハ一般ノ承繼人ニ對シ執行文ノ付與ヲ求メサルヘカラス縱令一旦執行文ノ付與ヲ受ケタル後ト雖モ強制執行ノ着手前ニ承繼アリタルトキハ又同然ナリ然レトモ強制執行開始後ニ承繼アルトキハ法律ハ其執行ヲ繼續セシムルモノト爲スヲ以テ承繼人間ノ執行文ヲ受クルヲ要セス(本法第五百五十二條(改正案第六百七十七條)第(改正案第六百五十三條)第(改正案第六百八十七條))抑モ承繼ニハ相續ノ如ク權利義務ヲ包括シテ承繼スル所ノ一般ノ承繼即チ家督相續ニ依ル承繼ト賣買若クハ贈與ノ如キ特定ノ權利ヲ承繼スル所ノ特別ノ承繼トノ二種アリ而シテ債權者ノ承繼人ナルトキハ其一般ノ承繼人ニ出ツルト又ハ特別ノ承繼ニ係ルトヲ問ハス其承繼ニ係ル債權ニ付キ其承繼人ノ爲メニ之ヲ付與スルコトヲ得ヘキモ債務者ノ承繼ノ場合ニハ一般ノ承繼人ニ對スルトキニ限り之ヲ付與スルコトヲ得ヘキモ義務ニ至リテハ相續ノ如ク包括シテ權利義務ヲ承繼スル場合ノ外單ニ義務ノミ特別ニ承繼



スルカ如キハ極メテ變例ニ屬スレハナリ故ニ之ニ對シテハ直ニ執行ヲ許サ、ルノ法意ニ出テ執行文ノ付與ヲ爲サ、ルモノナスルニ在リ要之斯ル場合ニハ新ニ訴ヲ提起シ其承繼人ニ係ル判決ヲ受ケサルヘカラス而シテ此等ノ承繼セル場合ニ在リテ其執行力アル正本ヲ求ムル債權者ハ其承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキハ格別然ラサル場合ニ於テハ其申請ヲ爲スニ付キ之カ證明ヲ爲サ、ルヘカラス而シテ裁判所ニ於テ承繼ノ明白ナル場合トハ訴訟中殊ニ一部ノ判決アリテ其債務名義成立ノ後當事者カ死亡等ノ理由ニ依リ訴訟手續中斷ト爲リタル後相續人カ之ヲ受繼キタル場合ノ如キハ之ニ屬ス前述セル如ク承繼アル場合ニ於テ其承繼カ裁判所ニ明白ナリヤ否ヤ又ハ債權者ノ證明ニ依リ之ヲ認メ得ヘキヤ否ヤハ一個ノ判斷ヲ要ス故ニ此場合ニモ裁判長カ之ヲ調査シ其執行文ヲ付與スヘキ命令アリタルトキニ限り書記カ其命令ニ基キ之ヲ付與スヘキモノトスルニ在リ（本法第五〇改正案第六條）又夫ノ執行命令ハ一般ノ場合ニハ執行文ノ付與ヲ要セス其命令自身カ執

執行文ヲ包含スト雖承繼アル場合ニ限り執行文ノ付與ヲ受ケサルヘカラス其手續ハ前ニ説明スル所ノ如シ（本法第五〇改正案第六條）（ハ）債權者カ數通ノ執行力アル正本ヲ求メ又ハ前ニ付與ヲ受ケタル正本ヲ返還セスシテ更ニ同一ノ正本ヲ求ムル場合、債權者ハ同時ニ數個ノ方法ニ依リ例ヘハ動産ニ對スル執行ト不動産ニ對スル執行トヲ同時ニ強制執行ヲ爲シ又ハ同時ニ甲地ノ財産差押ト乙地ノ財産差押トヲ爲スコトヲ得ヘシ斯ル場合ニハ同時ニ數通ノ執行力アル正本ヲ要スルコトアルヘシ其數通ノ執行力アル正本ヲ求メ又ハ一旦其正本ノ付與ヲ受ケタル後更ニ同一ノ正本ノ付與ヲ求メ得ヘキコトハ前ニ論述セシ所ナリ又前ニ付與ヲ受ケタル正本ヲ紛失シタル場合ノ如キモ再度ノ公費正本ノ付與ヲ求ムルコトヲ得ヘシ然レトモ元來執行力アル正本ナルモノハ之ヲ以テ債務者ノ財産ヲ強制的ニ處分スルコトヲ得ヘキモノナレハ數通ノ正本ヲ附加スルハ二重ノ執行ヲ爲スノ危險アルヲ以テ果シテ眞實數通ノ正本ヲ要スヘキヤ否ヤハ重要ナル事項ニ屬ス故ニ法律ハ此場合ニハ

民事訴訟法(第六編乃至第八編) 強制執行 總論 執行力アル正本



裁判長カ之ヲ調査シ其命令アルトキニ限り書記カ該正本ヲ付與スヘキモノトセリ

(二) 公證人カ執行力アル正本ヲ付與スル場合

公證人ノ作成シタル公正證書ニシテ債務名義タルモノニ付テハ公證人ニ於テ執行力アル正本ノ付與ヲ爲スヘキモノトス之レ元來公正證書ニ付テハ其基礎タル原本ハ公證人ノ保管ニ係ルヲ以テナリ故ニ敢テ其證書ヲ作成シタル者カ且付與スヘシト云フニアラスシテ其證書ノ原本ヲ保管スル公證人ニ於テ之ヲ付與スヘキモノトスルニ在リ以是公證人ノ轉職退職及ヒ死亡等ノ場合ニ於テハ其記録ノ受繼ヲ受ケ現在之ヲ保管スル公證人カ付與スヘキモノトス而シテ此公證人カ執行力アル正本ヲ付與スルニ付テモ自ラ專行シ得ヘキ場合ト裁判官ノ命令アル場合ニ限り其命令ニ基キ之ヲ付與スヘキ場合ノ二アリ其裁判官ノ命令ニ依ルヘキ場合ハ數通ノ執行力アル正本ヲ求ムル場合又ハ再度ノ執行力アル正本ヲ求ムル場合等ニシテ斯ル場合ニアリテハ第五百二十三條(改正案第六百九十四條)ノ規定ニ於ケル裁判長ノ命令ニ代ヘテ公證人カ職務上ノ住所ヲ有スル地

ヲ管轄スル區裁判所ノ命令ヲ受クヘキモノトス是レ公證人ニハ素ヨリ裁判長タルヘキモノナキヲ以テナリ(本法第五百六十條(改正案第六百八十六條)第五百六十二條)

右等ノ場合ノ外第五百十八條ノ規定ニ於ケル執行力條件附ニ繋ルトキ又ハ第五百十九條ノ規定ニ於ケル承繼アルトキト雖モ其執行力アル正本ノ付與ヲ爲シ得ヘキモノトス是レ公證人ハ裁判所書記ト異ナリ既ニ執行シ得ヘキ債務名義ヲモ作成スルノ權アルモノナレハ斯ル正本ヲモ付與スルコトヲ得セシムルニ在リ然レトモ此點ニ付テハ反對論アルヤモ知ルヘカラス

第三 執行文付與ノ手續

執行文ハ債權者ノ申請ニ依リ之ヲ付與スヘキモノナルコトハ前ニ講述セシ所ナリ其申請アリタル場合ニ於テ之ヲ付與スヘキ手續ハ左ノ如シ

(一) 執行文付與ノ申請アリタルトキハ裁判所書記又ハ公證人ハ其訴訟記録又ハ公正證書ノ原本ニ基キ執行文ヲ付與シ得ヘキモノナルヤ否ヤヲ調査シ之ヲ決スヘキモノトス

(二) 其申請ニシテ裁判長若クハ區裁判所ノ命令ニ依リ執行文ヲ付與スヘキモノ



ナルトキハ其命令ヲ受ケ之ニ基キ付與ノ手續ヲ盡スヘキモノトス

(三) 裁判長又ハ區裁判所カ其命令ヲ爲スニ際シテハ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得(本法第五百二十條第二項、第五百六十條、第五百六十六條第二項、第六百四十九條第二項、第六百八十六條)又數通ノ執行力アル正本又ハ再度同一ノ正本ノ付與ニ付キ命令ヲ爲スニ當リテハ債務者ヲ審訊セスシテ之ヲ命シ執行文ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ相手方ニ通知スヘキモノトス(本法第五百二條、第三百三項、第三百四十九項)

(四) 書記又ハ公證人カ自ら專行スルトキト裁判官ノ命令ニ因リ執行文ヲ付與スル場合ナルトヲ問ハス之ヲ付與スルニハ其前ニ債務名義タルモノ、原本ニ原告ノ爲メ若クハ被告ノ爲メ換言スレハ當事者中何人ニ執行文ヲ付與シタルカヲ明記シ其付與ノ目的ヲ記載セサルヘカラス(本法第五百二十四條、第五百五十六條)若シ上訴審ニ於テ確定シタル債務名義ナルトキハ其訴訟記録中ニ原本ナルモノ存セサルヲ以テ(本法第四百一十條、第四百六十一條)此場合ニ於テハ上級裁判所ノ書記ノ認證アル謄本ヲ原本ト看做シ之ニ右等ノ事項ヲ附記スヘキモノトス之ニ付テハ多少問題アレトモ現時大審院ノ判例ハ此法意ヲ認ム

(五) 執行力アル正本ノ文式

(甲) 普通ノ執行力アル正本ノ文式ハ債務名義ノ正本ノ末尾ニ

前書ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ強制執行ノ爲メ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與ス

ト記シ裁判所書記又ハ公證人カ之ニ署名捺印シ尙書記ノ付與スルモノニハ裁判所ノ印ヲモ捺捺スヘキモノトス(本法第七十五條、第四十二條)尤モ公證人ノ作成スル執行文ニ付テハ債務者某ニ對シ云々債權者某ニ之ヲ付與スト記シ公證人カ之ニ署名捺印スヘキモノナリ又其承繼アリタルトキハ其執行文ニ承繼人ニ對シ若クハ承繼人ノ爲メニ付與スル旨ヲ記載セサルヘカラス然ラサレハ強制執行ニ着手スルコトヲ得ス(本法第五百五十二條)

(乙) 特別ナル記載事項

(イ) 債權者又ハ債務者ノ承繼カ其裁判所ニ於テ明白ナリト認メタル故ヲ以テ其證明ヲ要セスシテ執行文ヲ付與スルトキハ其執行文中ニ其事由ヲ記載セサルヘカラス(本法第五百十條、第四十四條)



(ロ) 債務名義ノ趣旨ニ依リ其執行力條件付ニ繫ルトキ又ハ當事者ノ承繼アリタルトキ裁判長ノ命令ニ基キ執行文ヲ付與スル場合ニ於テハ其執行文中ニ其命令ヲモ記載スヘキモノトス(本法第五百二(改正案第六)第十條第三項)

(ハ) 數通又ハ再度ノ執行力アル正本ノ付與ニ付テハ命令ニ依リ執行文ヲ付與スヘキモノナレトモ其命令ヲ執行文中ニ記載スヘキ法律ノ明文ナシ然レトモ其執行文ニハ數通又ハ再度ノ執行力アル正本ヲ付與スル旨ヲ記載スヘキヲ相當ト信ス

(六) 執行文付與ノ許否ニ關スル不服ノ申立

(甲) 裁判所書記又ハ公證人カ執行文ノ付與ヲ拒絶シタルトキハ此等ノ吏員カ自ラ專行シ得ヘキ場合ナルト裁判官ノ命令ニ依リ之ヲ拒絶シタル場合ナルトヲ問ハス其處分ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得(本法第四百六十五條第十九條司法省令甲第三號登記法公證人規則抗告手續民事訴訟法改正案第四百九十八條第六百九十九條)

(乙) 執行文付與ニ對スル異議

書記又ハ公證人カ執行文ヲ付與シタル場合ニ於テ債務者ヨリ不服ヲ申立ツ

ルニハ右甲ノ場合ノ手續ニ依ラスシテ執行文付與ノ異議ナル特別ノ手續ニ依ラサルヘカラス此異議ニ關シテハ執行文ニ關スル異議ト共ト一括シテ講述スヘシ之ヲ要スルニ此不服ノ申立ハ其書記又ハ公證人カ專行シタル場合ナルト裁判官ノ命令ニ依リタル場合ナルトヲ問ハス執行文付與ニ付キ其手續上執行文ヲ付與スヘキモノニアラサルニ之ヲ付與シ又ハ條件付ナルトキ若クハ承繼アリタル場合ニ於テ此等ノ證明ナクシテ執行文ヲ付與シタルカ如キ欠缺アル場合ニ於テ債務者ヨリ不服ノ申立ヲ爲スノ謂ナリ此異議ニ付テハ書記ノ取扱タル場合ニハ其ノ書記ノ屬スル裁判所カ其裁判ヲ爲シ(本法第二百十(改正案第六)條)又公證人ノ取扱タル場合ニハ其ノ職務上ノ住所ヲ有スル地ノ區裁判所カ其裁判ヲ爲スヘキモノトス(本法第五百六(改正案第六)條第二項)

第四 執行文付與ノ訴

抑モ執行文ハ債權者ノ申請ニ依リ書記又ハ公證人カ之ヲ付與スヘキヲ本則トスレトモ債務名義ノ趣旨ニ依リ其執行力條件付ニ繫ルトキ又ハ當事者ニ承繼アル



トキハ債權者カ執行文付與ノ申請ヲ爲スニ必要ナル右條件ノ到來若クハ承繼アリタル事實ヲ證スヘキ證明書(本法第五百十九條(改正案第六百四十三條)ヲ提出シ能ハサルトキハ單ニ申請ノミヲ以テ執行文ノ付與ヲ求ムルコトヲ得ス依リテ斯ル場合ニハ相手方ニ對シ形式上ノ訴即チ執行文付與ノ訴ヲ提起シ執行文ヲ付與スルモノタル旨ノ判決ヲ受ケサルヘカラス(本法第五百(改正案第六百四十七條)而シテ此訴ハ通常訴訟ニシテ其裁判管轄ハ判決又ハ訴訟中ニ於テ生シタル債務名義ニ付テハ第一審ノ受訴裁判所ノ管轄ニ屬シ執行命令若クハ訴訟提起前ノ和解ニ付テハ此等ノ命令及ヒ和解ヲ爲シタル裁判所ノ管轄ニ屬ス(本法第五百二十一條第五(改正案第六十七條第六百八十七條)又公正證書タル債務名義ニ付テハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ノ管轄ニ屬シ若シ其普通裁判籍ナキトキハ第十七條ノ特別裁判籍アル地ノ裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトス(本法第五百六(改正案第六百八)右等ノ訴訟ニ於テハ債權者即原告ハ獨リ書面ノミヲラス總テノ證據方法ヲ提出シ其條件ノ到來又ハ承繼アリタル事實ヲ證明スルコトヲ得ヘシ而シテ此等ノ事實ニシテ完全ニ證明アリタリト認ムルトキハ裁判所ハ執行文ヲ付與スヘキ旨ノ

判決ヲ爲スヘキヲ通例トス此判決アリタルトキハ其確定ニ依リ執行文付與ノ任ニ當ルヘキ吏員ハ之ニ基キ執行文ヲ付與スヘキモノナリ

第三節 執行著手ノ要件

強制執行ノ著手ニ付テハ前節ニ於テ説明シタル執行力アル正本ヲ有スルノミヲ以テ足レリトセス債權者ト債務者トノ關係及ヒ執行ニ著手スヘキ時期カ到來シタルヤ否ヤヲ確實ニシ且債務者ニ對シ執行ヲ豫告スルノ手續ヲ盡スコトヲ要ス是レ執行機關ニシテ執行ヲ爲シ得ヘキ當事者ナリヤ否ヤ且其時期カ到來シタリヤ否ヤヲ調査シ債務者ヲシテ其執行ヲ受クルコトヲ豫知セシムルノ目的ニ出ツルモノニシテ此要件ヲ具備スルニアラサレハ執行機關ハ執行ニ著手スルコトヲ得ス而シテ此執行著手ノ要件ニハ一般ニ適用スヘキモノト特別ノ場合ニ限り適用スヘキモノトノ二アリ

第一 一般ノ場合ニ適用スヘキ要件  
債務名義ノ何タルヲ問ハス債務者ノ何人タルヲ論セス又書記ノ付與シタル執行力アル正本ナルト公證人ノ付與シタルモノナルトニ拘ハラズ強制執行ヲ開始ス



ルニハ左ノ事項ノ存スルコトヲ要ス

(一) 強制執行ヲ求ムル者(即チ債權者)及ヒ之ヲ受タル者(即チ債務者)ノ氏名ヲ債務名義ニ表示シ又ハ之ニ附記シタル執行文ニ表示シアルモノタルコトヲ要ス

抑モ判決ハ第三者ノ爲メ及ヒ第三者ニ對シテハ效力ヲ有スルモノニアラサルヲ以テ債務名義ニ表示ナキ第三者ニ對シ執行シ得ヘキモノニアラサルヤ明白ナリ縱令承繼人ノ如キ其效果ヲ承繼スヘキ者ト雖モ其執行文ニ之ニ對シテ執行ヲ爲スヘキ旨ヲ表示ナクシテハ執行機關ハ之ヲ知ルコトヲ得ス故ニ承繼ナル場合ノ如キハ執行文ニ之ヲ表示スヘキヲ一般トス從テ債務名義又ハ執行文ニ表示ナキ當事者ニ對シテハ執行ニ著手スルコトヲ得ス蓋シ執行上ノ當事者ナリヤ否ヤヲ確定セシムルニアリ

(二) 判決其他ノ債務名義ヲ既ニ債務者ニ送達セラレ又ハ同時ニ送達シタルコトヲ要ス 此送達ノ目的ハ債務者ヲシテ如何ナル債務名義ニ依リテ執行ヲ實施セラルヘキヤヲ豫知セシムルニアリ尤其執行ノ基本タル判決ニ至リテハ之ヲ言渡タル裁判所ニ於テ債務者ノ訴訟代理權ノ消滅セサル間ハ代理人ニ對シテ

送達ヲ爲スコトヲ得ヘシ然ルトキハ債務者カ其送達ヲ知リタルト否トニ論ナ

ク送達ヲ受ケタルモノト看做スヘキモノナリ而シテ執行ノ基本タル判決カ第

一審又ハ第二審ノ裁判ニシテ確定シタルモノナルトキハ送達後ニ不變期間發

生シ其經過ニ因リテ確定スルモノナレハ既ニ送達ヲ爲シアルハ論ヲ俟タサル

モ上告審ノ判決ナルトキハ送達ヲ爲サルコトアルヘシ何トナレハ上告審ノ

判決ハ其言渡ニ因リテ直チニ確定スヘキモノナレハナリ斯ル場合ニハ執行ヲ

始ムル前又ハ執行ト同時ニ特ニ送達ヲ爲サルヘカラス夫ノ和解及ヒ公正證

書ノ如キハ常ニ送達ヲ爲サルヲ通則トスルカ故ニ是レ亦其執行ト同時ニ

送達セサルヘカラス此等ノ送達ナクシテ執行ニ著手シタルトキハ其著手ハ無

效ニ歸スヘキモノトス(本法第五百二條第一項(改正案第六百五)唯假差押假處分ノ命令ノ

執行ハ例外トシテ此送達ヲ要セサルモノトセリ(本法第七百四(改正案第九百三)

第二特別ノ場合ニ適用スヘキ要件

特別ナル場合ニ於ケル執行著手ノ要件ハ次ノ如シ

(一) 判決其他ノ債務名義ノ執行カ其趣旨ニ因リ證明書ヲ以テ證明スルコトヲ要



スル事實ノ到來ニ繫ルトキ又ハ其執行ノ判決ニ表示セラレタル當事者ノ承繼ニ關スルトキハ債務名義ヲ送達スルノ外尙ホ之ニ附記シタル執行文ヲ債務者ニ送達スルコトヲ要ス若シ證明書ニ依リ執行文ヲ付與シタルトキハ亦其證書ノ謄本ヲモ送達スルコトヲ要ス(本法第五百二十八條第二項第五百十九條(改正案第六百二十四條第四項第六百五十二條第二項第六百五十二條第四項第六百五十二條第五項))

(二) 請求カ或日時ノ到來ニ繫ルトキハ其日時ノ滿了シタルコトヲ確ムルコトヲ要ス 是レ判決又ハ其他ノ債務名義ニ履行ノ日時ヲ指定シタル場合ヲ謂フモノニシテ此場合ニハ裁判所書記ハ其履行ノ日時ノ到來如何ヲ顧ミス執行文ヲ付與スヘキコトハ前ニ講述シタルカ如シ然レトモ執行機關ハ其日時ノ到來シタル後ニアラサレハ執行ニ著手スルコトヲ得サルカ故ニ執行機關ハ之ヲ調査セサルヘカラサルナリ(本法第五百二十九條第一項(改正案第六百五十二條第一項))

(三) 判決ノ執行カ保證ヲ立ツル條件ニ繫ルトキハ債權者カ保證ヲ立テタルコトノ公正ノ證明書ヲ提出シ且其謄本ヲ債務者ニ送達スルコトヲ要ス 是レ假執行宣言ニ付キ保證ヲ立テシメテ假執行ヲ許ス條件附假執行ノ場合ニ生スヘキ

モノニシテ(本法第五百六十三條第二項)此場合モ亦判決ノ執行カ條件ニ繫ルトキノ一ナルモ執行文付與ニ付テハ他ノ條件ニ繫ル場合ノ例外トシテ書記ハ其保證ヲ立テタルヤ否ヤヲ顧ミス執行文ヲ付與スヘキモノナルコト前述ノ如シ故ニ其保證ヲ立テタルヤ否ヤハ執行機關ニ於テ之カ調査ニ任シ其執行著手以前ニ於テ之ヲ立テ其證明書ヲ執行機關ニ提出シ之ヲ相手方即チ債務者ニ送達スヘキモノトセリ而シテ茲ニ所謂公正證書トハ供託法ノ規定ニ於ケル供託證書ヲ指スモノナリ(本法第五百二十九條第二項(改正案第六百五十二條第二項))

(四) 常備現役ノ軍人軍屬ニ對シテ強制執行ヲ爲スニハ其上班司令官廳ニ通知ヲ爲スコトヲ要ス 是レ蓋シ軍人軍屬ハ嚴格ナル規律ノ下ニ服役スルモノナルカ故ニ普通ノ執行上ノ行爲ヲシテ軍紀ニ牴觸セシムルカ如キコトナカラシメシカ爲メ此通知ヲ要スルモノトナシタルナリ而シテ茲ニ所謂軍人トハ上將官ヨリ下兵卒ニ至ルマテヲ包含シ軍屬トハ軍醫會計官吏看護手ヨリ馬丁ニ至ルマテヲ指スモノトス(本法第五百三十四條(改正案第六百五十四條))

第四節 執行機關

民事訴訟法(第六編乃至第八編) 強制執行 總論 執行機關



強制執行ハ國家裁判權ノ行使ナルカ故ニ其實施ヲ司法機關ニ屬セシメタルコトハ前ニ説明シタル所ナリ然レトモ其執行權ノ實施ハ裁判權ノ行使中ニアリテモ他ノ判定權ト異テリ事實上有形的ニ實行スヘキ行為其大部分ヲ占ムルカ故ニ斯ル行為ノ執行ニ付テハ司法機關中ニ於テ別ニ其任ニ當ルヘキ吏員ヲ置キ之カ職務ヲ執ラシム其吏員ハ即チ執達吏ナリ

執達吏ハ司法機關トシテ強制執行ヲ實施スト雖モ執行行為中ニモ有形的ニ實踐スル行為ニアラスシテ無形的ニ判定シ以テ之ヲ實施スルコトアリ斯ル行為ニ付テハ法律ハ之ヲ執達吏ニ委スルコトヲ得サルモノトシ裁判所ヲシテ其執行行為ヲ爲サシムルモノトセリ而シテ裁判所カ此執行行為ヲ爲スニハ執行裁判所トシテ區裁判所其任ニ當ルヲ通例トスレトモ或特別ナル場合ニ於テハ受訴裁判所ヲシテ其任ニ當ラシムルコトアリ左ニ欸ヲ分チテ執達吏及ヒ執行裁判所ノ權限職務等ニ付テ論述セン

第一款 執達吏

執達吏ハ裁判所ノ職員ニシテ送達及ヒ執行ノ職務ニ從事スルモノトス(裁判所構成法第九條)

以下條)是レ此種ノ吏員ニ執行ト送達トヲ爲サシムルニ因リ執達吏ナル名稱アル所以ナリ故ニ特ニ裁判所ノ執行行為ニ屬セシメサル強制執行ハ總テ執達吏ノ職務トス(本法第五百三(改正案第六)而シテ如何ナル資格ヲ有スルモノカ執達吏トシテ任命セラルヘキカハ裁判所構成法及ヒ執達吏規則ニ規定スル所ナレトモ茲ニ注意スヘキコトハ執達吏ニアラサルモノト雖モ臨時執達吏ノ職務ヲ代理セシメ補助機關トシテ執行ヲ爲サシムルコトアリ是レ一ノ補助方法ナリ(裁判所構成法第九條第九十條執達吏登用規則參照)

第一 執達吏ノ職務ニ屬スル執行ノ範圍

執達吏ハ裁判所ノ執行行為ニ屬セサル限リハ總テノ執行ヲ實施スヘキモノナルカ故ニ其職務ノ範圍極メテ廣シ今之ヲ指示スレハ次ノ如シ

(一) 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行中動產本法ニ於ケル動產ハ廣義ニシテ債權ヲ包含スニ對スル執行ノ一部タル有體動產ニ對スル執行(民事訴訟法第六編第一章第一節第二款)

(二) 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行中動產上ノ債權ニ對スル執行ノ一部タル手形

(改正案第八編第二章第一節)



其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ依レル債權ノ差押及ヒ差押命令ニ基ク證書ノ取上（本法第六百五十三條改正案第七條）現行法第六百五條ノ規定ハ改正案ニ於テハ之ヲ省カレタリ

(三) 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行中不動産及ヒ船舶ニ對スル執行ニ關シ執行裁判所ヨリ命セラレタル不動産ノ取調競賣實施若クハ入札拂實施ノ執行（本法第六百四十九條、第六百五十九條、第六百六十三條乃至第六百六十六條改正案第七百八十二條、第八百四十四條、第八百七十六條）

(四) 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行中債務者ノ占有中ニ在ル不動産ノ引渡又ハ不動産及ヒ船舶ノ明渡ノ執行（本法第七百三十一條）改正案第九百二十條乃至第九百二十條

(五) 假差押ノ命令及ヒ假處分ノ命令ニ關スル執行中執達吏ノ職務ニ屬スル執行以上列記事項ノ外執達吏ハ執行機關タル裁判所ヨリ執行ニ關スル告示、催告及ヒ管理行為等ヲ命セラレタルトキハ其命令ニ從ヒ之ヲ實施セサルヘカラス（執達吏規則第

（二）而シテ執達吏ハ一定ノ所屬區裁判所ヲ定メラレ其區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄區域内ニ於テ其職務ヲ行フコトヲ得ヘキモノトス（裁判所構成法第九十七條）

第二 執達吏ノ執行實施ニ付テノ權利義務  
執達吏カ執行行為ヲ爲スハ執行裁判所ヨリ個々ノ執行行為ヲ命セラレタトキハ其命ニ基キ之ヲ實施スヘキハ勿論ナレトモ其他執達吏ノ專務ニ屬スル強制執行ニ付テハ債權者ヨリ執行力アル正本ヲ付與セラレ執行ノ委任ヲ受ケタルトキハ之カ實施ヲナサルヘカラス而シテ此ノ委任ハ債權者ヨリ執達吏ニ對シテ直接ニ爲スコトヲ得ヘク又區裁判所ノ書記ニ囑託シ其媒介ニヨリテモ委任スルコトヲ得（本法第五百三十一條）改正案ニ於テハ書記ノ媒介ニ依ル委任ヲ省カレタリ（改正案第六百五十五條）

直接委任ニ出ツルト間接委任ニ依ルトヲ問ハス執行力アル正本ヲ交付セラレタルトキハ執達吏ハ之ニ依リテ直チニ其職務ノ範圍ニ屬スル限ハ執行行為ヲ實施スルノ權ヲ有ス  
抑モ此執行委任ナルモノハ名ハ委任ト稱スルモ其實民法上ノ單純ナル委任ト異



ナリ執行機關ニ對スル執行ノ申出ニシテ此申出ニ依リ執行機關ハ執行權ヲ行使スヘキモノトス然レトモ執達吏ノ專務ニ屬スル執行ニ付テハ債務者ヨリ金錢ノ支拂又ハ物品ノ給付若クハ賣得金ノ領收ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ債務ノ履行ヲ終了シタルモノト看做スヲ通例ト爲スカ故ニ執達吏ハ債權者ノ爲メニ實體上債務ノ履行ヲ受クヘキ地位ニ立ツモノト謂ハサルヘカラス是ヲ以テ執達吏ニ對スル委任ハ一面ニ於テハ公法上ノ執行ノ申出ニシテ又他ノ一面ニ於テハ私法上ノ債務履行ヲ受クヘキ委任ナリト看做スコトヲ得ヘシ故ニ其委任ニ依リ執達吏ト債權者トノ間ニ於テハ一種ノ私法上ノ關係ヲ生シ他方ニ於テハ執行當事者及其關係人ニ對シテハ執行法ニ依ル公法上ノ關係ヲ生スルモノト云フヘシ

(二) 執達吏ト債權者間ノ私法上ノ關係

此關係ハ民法上ノ規定ニ從フヘキモノナリト雖モ其關係ノ發生スルニハ債權者ヨリ執行ノ爲メ單ニ執行力アル正本ヲ交付スレハ別ニ委任ノ形式ヲ要セスシテ其執行ノ申出ト同時ニ法律上委任ノ效力ヲ生シ之ニ由リテ當然以下ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ヘシ(本法第五百三十三條改正案第六百五十七條)  
(條第五百三十四條乃至第六百五十九條)

- (甲) 支拂其他ノ給付ヲ受クルコト
  - (乙) 有效ニ受取證ヲ作り債務者ニ交付スルコト
  - (丙) 債務ノ履行ヲ終リタルトキハ執行力アル正本ヲ債務者ニ交付スルコト
- 以上ノ如キ債務ノ履行ヲ受クルノ行爲ハ當然委任ノ範圍内ト看做スカ故ニ縱令債權者カ之ヲ制限スルモ是唯債權者ト執達吏トノ内部ノ關係ニ止マリ之ヲ以テ債務ヲ履行シタル者ニ對シテ其履行ヲ無効視スルヲ得ス又債務者ニ於テモ其執行力アル正本ヲ所持スル執達吏ニ對シテハ委任ノ欠缺アルヤ否ヤヲ調査スルヲ要セス直チニ之ニ對シテ履行スレハ有效ナリ其履行ヲ終リタルトキハ債務ヲ免カレ爾後ノ危險ハ總テ債權者ノ負擔ニ歸スルヘキモノトタリ
- (二) 執達吏ノ執行法上ノ權利義務
- 執達吏カ執行法上當事者等ニ對シテ有スル公法上ノ權利義務ハ左ノ如シ
- (甲) 執達吏ノ執行上ノ權利
- (イ) 執達吏ハ執行力アル正本ニ依リ執行委任ヲ受ケタルトキハ之ニ依リテ



自己ノ職務ニ屬スル執行ヲ實施スルノ權ヲ有ス

(ロ) 執達吏ハ必要ナル場合ニ於テハ債務者ノ住居、倉庫及筐匣ヲ搜索シ又ハ

閉鎖シタル戸扉及筐匣ヲ開カシムル權ヲ有ス(本法第五百三(改正案第六百

項) 憲法第二十五條ノ規定ニ依レハ日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ノ外ハ

其許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラル、コトナシト定メラレタ

リ而シテ今茲ニ論述スル所ハ即其法律ニ定メタル場合ニ該當ス然レトモ

是唯執行上必要ナル場合ニ限ルヘキモノニシテ其必要ヲ越ヘテ濫リニ此

ノ如キ行爲ヲ爲スコトヲ得サル法意ナルコトハ執達吏職務細則中ニ詳シ

ク明示セラレタリ

(ハ) 執達吏ハ執行行爲ヲ爲スニ際シ抵抗ヲ受クルトキハ威力ヲ用井且警察

上ノ援助ヲ求メ又ハ兵力ヲ借ルコトヲ得(本法第五百三(改正案第六百六(然

レトモ是亦其抵抗ヲ除却スルニ必要ナル場合ニ限ルヘキモノニシテ濫リ

ニ威力ヲ用井ルコトヲ得サルヤ前陳ノ如シ而シテ警察上ノ援助ハ執達吏

カ自カラ之ヲ求ムルコトヲ得ヘキモ兵力ニ至リテハ執行裁判所ニ申出テ

其共力ヲ受ケサルヘカラス

(乙) 執達吏ノ執行上ノ義務

(イ) 執達吏ハ強制執行ニ付テハ常ニ執行力アル正本ヲ所持シ關係人ノ求メ

アルトキハ其資格ヲ證スル爲メ之ヲ示サ、ルヘカラス(本法第五百三(改正

案第六百五十九) 尤モ改正案ニ於テハ關係人ノ求メアレハ之ヲ示スヘキ規定ヲ

條第二項) 省カレタレトモ其法意ニ於テハ同一ノ趣旨ト解釋セサルヘカラス

(ロ) 執達吏ハ各執行行爲ニ付キ調書ヲ作ルコトヲ要ス(本法第五(改正案第六

百四十四條) 而シテ茲ニ所謂各執行行爲トハ例ヘハ有体動産ノ差押ヲ爲シタルトキハ

其差押調書ヲ作り又之ヲ競賣シタルトキハ其競賣調書ヲ作り動産不動産

若クハ船舶ノ引渡又ハ明渡ヲ爲シタルトキハ是等ノ引渡調書又ハ明渡調

書ヲ作ルカ如キ類是ナリ(本法第五百三十六條以下第五百七十二(改正案第

百二條以下第七) 而シテ其調書ハ執行記録ニ編入スヘキモノトス

(ハ) 執達吏ハ執行行爲ニ屬スル必要ナル催告其他ノ通知ハ口頭ニテ之ヲ爲

シ又ハ調書ノ送達ヲ以テ之ヲ爲シ其旨ヲ調書中ニ記載スルコトヲ要ス(本



第五百四十二條(改正案第六百六十七條)茲ニ所謂催告トハ即任意ノ支拂若クハ任意ノ供給ヲ爲スヘキコトヲ債務者ニ催告シ又ハ戸扉倉庫等ヲ開クヘキ旨ヲ催告シ又ハ職務上ノ收入高ヲ示スヘキ旨ヲ催告シ或ハ競賣價額ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルノ類ナリ(本法第五百七十三條第一條第七百)尤モ現行法第六百六十三條ノ規定ハ改正案ニ於テハ之ヲ省カレタリ又茲ニ所謂通知トハ差押ヲ爲シタルコトヲ債務者ニ通知スルカ如キ若クハ配當要求アリタルコトヲ各債權者ニ通知スルカ如キ類ナリ(本法第五百六十一條第十改正案第六百九)然レトモ改正案ニ於テハ總テ配當要求ノ規定ヲ設ケラレサルカ故ニ從テ現行法第五百九十一條ノ規定モ亦之ヲ設ケラレサルナリ而シテ右等ノ催告及通知ハ債務者ノ所在不明ナルトキ又ハ外國ニアルトキハ之ヲ爲スコトヲ要セス

(二) 執達吏ハ執行ノ目的ヲ全部達シタルトキハ執行力アル正本及債務ノ受取證ヲ債務者ニ交付セサルヘカラス又其一部ヲ盡シタルモノナルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ附記シテ其受取證ノミヲ債務者ニ交付スヘキモ

ノトス(本法第五百三十五條)蓋シ執行力アル正本ヲ所持スル目的ハ只強制的ニ債務ノ履行ヲ實行セシムルニ外ナラス故ニ債務者カ完全ニ其義務ヲ履行スルニ至リタルモノナルトキハ債權者若クハ執達吏ハ其執行力アル正本ヲ所持スルノ必要ナシ否之ヲ所持セシムルトキハ他日執行ヲ再施スルカ如キ危険ナキヲ保シ難シ是ヲ以テ法律ハ完全ニ義務ヲ盡サシメタルトキハ必ス其正本ヲ債務者ニ交付セシメ以テ他日ノ危険ナカラシメシコトヲ期シ且領收書ヲ交付セシムヘキ規定ノ如キモ專ラ債務者ヲ保護スル法意ニ出テタルモノナリ

若シ其債務ノ一部ヲ盡シタルモノナルトキハ執行力アル正本ノ欄外若クハ其末尾ニ右一部ヲ履行シタル旨ヲ附記シテ之ヲ債權者ニ交付シ他日債務者カ其資力ヲ有スルニ至リタル場合ニ於テハ更ニ強制執行ヲ爲スノ用ニ供セシムヘキモノナリ而シテ此等ノ手續ハ債務者カ自カラ甘シテ義務ヲ履行シタル場合ナルト第三者カ代ハリテ之ヲ履行シタル場合ナルトヲ問ハス又強制執行前ニ任意ニ履行シタルト強制執行ノ結果其義務ヲ履行



セシメタルトヲ論セス總テノ場合ニ於テ此手續ヲ踐行スヘキモノナリ  
 (ホ) 執達吏ハ強制執行ヲ爲スニ際シ抵抗ヲ受クルトキ又ハ債務者ノ住居ニ  
 於テ執行行爲ヲ爲スニ際シ債務者其他家族雇人等ニ出會セサルトキハ近  
 隣ノ者又ハ市町村長若クハ警察吏員ヲ證人トシテ立會ハシメ執行ヲ爲ス  
 ノ義務アリ(本法第五百三十七條)而シテ此證人ハ所謂立會證人ニシテ訴  
 訟中係爭事實ヲ證明スヘキ裁判上ノ證人ト異ナリ將來ノ爲メ證據ト爲ス  
 可キ裁判外ノ證人ノ謂ナリ彼ノ公證人規則第二十八條及民法第千六十九  
 條ノ規定ニ於ケル立會證人ノ類ナリ此立會證人ヲ必要トスル理由ハ執達  
 吏ノ專行妄斷ナカラシメンコトヲ期シ債務者ヲ保護スルノ目的ニ出ツル  
 モノナリ

(ハ) 執達吏ハ強制執行ニ付キ利害關係ヲ有スル各人ノ求メアルトキハ執行  
 記録ノ閱覽ヲ許シ及之ニ存在スル書類ノ謄本ヲ付與スヘキ義務アリ(本法  
 百三十條)而シテ茲ニ所謂利害關係人トハ債權者及債務者ノミナ  
 ラス第五百四十九條ノ規定ニ於ケル異議ヲ主張セントスル第三者又ハ第

五百六十五條ノ規定ニ依ル優先權ヲ主張セントスル第三者及第五百九十  
 四條ノ規定ニ於ケル第三債務者ノ如キモ包含ス又執行記録トハ訴訟記録  
 ノ如ク一事件毎ニ執達吏カ書類ヲ編綴シタルモノナリ而シテ執達吏ハ其  
 書類ノ謄本ヲ付與スヘキ義務アリト雖モ其付與スルニ付テハ執達吏手數  
 料規則ニ從ヒ其付與ヲ求メタルモノヨリ一定ノ手數料ヲ受クルコトヲ得  
 ヘシ

(ト) 執達吏ハ夜間及日曜日並ニ一般ノ祝祭日ニハ執行行爲ヲ爲サ、ルヲ本  
 則トス若シ此日時ニ執行ヲ爲スノ必要アルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ受  
 ケサルヘカラス而シテ此許可ノ命令ヲ受ケ執行行爲ヲ爲ストキハ總テノ  
 關係人ニ對シ其許可ノ命令ヲ示スヘキ義務アリ(本法第五百三十九條)而シテ茲  
 ニ所謂一般ノ祝祭日トアル中ニハ彼ノ三大節及大祭ハ勿論一地方ニ限ル  
 祭日ノ如キモ包含ス

以上説明シタル所ノ債權者ト執達吏トノ間ノ委任ニ基ク民法上ノ關係ニ於テハ  
 執達吏カ其委任ノ旨趣ニ背キタル場合ニ於テハ債權者ニ對シテ民法上ノ責任ヲ



負フヘキコトハ勿論ナレトモ公法上ノ關係ニ於テ執行當事者其他ノ關係人ニ對シ執達吏カ不適法ナル行爲ノ爲メニ損害ヲ蒙ラシメタルトキハ之カ賠償ノ責アリ抑モ一般ノ官吏公吏カ其資格ニ於テ爲シタル公法上ノ行爲ニ付キ賠償ノ責ヲ負ハシムヘキヤ否ヤハ行政法上一ノ大問題ナリト雖モ執達吏ニ付テハ其危險甚大ナルヲ以テ法律ハ特ニ其不適法ナル行爲ニヨリ損害ヲ生セシメタルトキハ債權者始メ其他責任ヲ負フヘキ者アリト雖モ先ツ第一位ニ於テ執達吏カ其責ニ任スヘキモノト規定セリ(本法第五百三十二條)(改正案第六百五十六條)是レ蓋シ執達吏ハ如何ナル高價ノ動産ト雖モ取扱ハサルヲ得サル責任ヲ有スヘキモノナルヲ以テ其危險ヲ保護スルカ爲メ斯ク規定シタルモノナリ

### 第一二款 執行裁判所

強制執行ハ前款ニ於テ説明セシ如ク此法律ニ於テ特ニ裁判所ノ職務ニ屬セシメサル執行ハ總テ執達吏ノ職務ニ屬スヘキモノト規定スレトモ法律上別段ノ規定ヲ以テ裁判所ノ職務ニ屬セシメタル執行モ亦一二ニ止マラス而シテ裁判所ニ屬セシメタル執行ニ付テハ裁判所ハ執行機關トシテ執行裁判所タル名稱ノ下ニ其

職務ヲ行フヘキモノトシ此裁判所カ執行行爲ヲ爲スニ付テハ多クハ裁判ノ形式ヲ以テシ特ニ其裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得セシメ其執行裁判所ノ執行行爲トシテ決定ヲ爲シタルトキハ之ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス(本法第五百四十三條)(改正案第六百八十九條)而シテ此執行裁判所ニハ通常ノ執行裁判所ナルモノト特別ノ執行裁判所タル受訴裁判所トノ別アリ依リテ以下區別シテ説明セン

#### 第一 通常ノ執行裁判所

此法律ニ於テ裁判所ニ任カセラレタル執行行爲又ハ執行行爲ノ共力ハ特別ノ規定ナキ限りハ請求物ノ價額ノ多寡ニ拘ハラズ事物ノ管轄ニ付テハ執行裁判所トシテ區裁判所ノ管轄ニ屬シ土地ノ管轄ニ付テハ各個ノ場合ニ於テ執行行爲ヲ爲シ得ヘキ地又ハ之ヲ爲シタル地ノ裁判所ノ管轄ニ屬シ不動産及ヒ船舶ニ付テハ其所在地又ハ船籍地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトス(本法第五百四十三條第六百七十七條第九百一十條)而シテ此等ノ管轄ハ總テ專屬管轄ナリトス(本法第五百七十一條)(改正案第六百八十九條)(第七百七十七條第九百一十條)



右執行裁判所ニ屬スル職務中ニハ當然執行裁判所ノ權限ニ屬スル執行行為ト執達吏ノ職務ニ屬スル執行行為ノ共力トノ別アリ以下之ヲ區別シテ畧述セントス

(一) 當然執行裁判所ノ職務ニ屬スル執行行為

(甲) 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行中動産ニ對スル執行ノ一部タル債權其他ノ財産權ニ對スル執行(本法第六編第二章第一節第三款)改正案ニ於テハ債權其他ノ財産權ニ對スル執行ハ之ヲ動産ニ對スル執行中ニ屬セシメス別ニ一節ヲ設ケラレタリ(改正案第八編第二章第二節)

(乙) 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行中動産ニ對スル執行ノ一部タル配當手續(本法第六編第二章第一節第四款)改正案ニ於テハ配當手續モ亦動産ニ對スル執行中ノ一部ト爲サス別ニ一節ヲ設ケタリ(改正案第八編第二章第三節)而シテ此配當手續ノ如キハ敢テ裁判ノ形式ヲ以テ之ヲ實施スルニアラサレハ裁判所ノ職務ニ任スルノ要ナキモノ、如シト雖モ此手續タル權利ノ優劣ト超過セサル配當額ノ當否等ヲ判斷シテ之ヲ實施セサルヲ得サルニヨリ書記若クハ執達吏ニ之ヲ一任シ難キモノトシ執行裁判所ノ職務ニ屬セシメタルモノナリ

(丙) 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行中不動産ニ對スル執行(本法第六編第二章第二節)改正案(第四節)

(丁) 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行中船舶ニ對スル執行(本法第六編第二章第五節)改正案(第二章第三節)八編第二章

(戊) 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行中引渡スヘキモノカ第三者ノ手中ニ存スルトキノ執行(本法第七百)改正案第九

(己) 假差押及假處分ノ命令ノ執行ニシテ執達吏ノ職務ニ屬セサル執行(本法第七百四十八條)改正案第九百以下(三十三條以下)

(二) 執行裁判所ニ任セラレタル執行行為ノ共力  
此共力ハ元來執達吏ノ職務ニ屬スル執行中全然執達吏ニ任シ實行セシメ難キ事項ナルヲ以テ裁判所カ共力ヲ興ヘ之ヲ補助スルニアリ其事項左ノ如シ  
(甲) 執達吏カ強制執行ヲ爲スニ當リ兵力ヲ要スル場合ノ援助ノ囑託(本法第五百五十五條)改正案第六百六十二條

(乙) 軍人軍屬ニ對スル強制執行ノ囑託(本法第五百)改正案第六



(丙) 執達吏カ夜間日曜日祝祭日ニ執行行為ヲ爲ス場合ノ許可ノ命令(本法第九十五條)(改正案第六百六十五條)

(丁) 有價證券ヲ差押タル執達吏ニ對シ氏名ノ書換流通回復ノ行為ヲ爲スノ權ヲ附與スル命令(本法第五百八十三條)(改正案第七百二十三條)

(戊) 動産ヲ差押タル執達吏ニ對シ特別競賣ノ許可ヲ與フル命令(本法第五百十五條)(改正案第七百十五條)

(己) 競賣ヲ懈怠シタル執達吏ニ對シ競賣催告ノ命令(本法第五百八條)尤改正案ニ於テハ此規定ヲ省カレタリ

(庚) 執達吏カ不動産又ハ船舶ヲ引渡シ若クハ明渡スヘキ場合ニ於テ債務者カ自己ニ屬スル動産ノ受取ヲ怠リタルトキ之ヲ競賣スヘキ許可ノ命令(本法第七百三十一條)(改正案第九百十二條)

(辛) 執達吏ノ遵守スヘキ手續ニ關スル申立及其異議ニ付テノ裁判(本法第五百四條)(改正案第六百六十九條)

第二 特別ノ執行裁判所タル受訴裁判所

強制執行上裁判所ニ任カセタル執行行為ニ付テハ通常區裁判所ノ職務ト爲シタルコトハ前述ノ如シト雖モ特別ナル場合ニ於テハ其執行ノ基本タル裁判ヲ爲シタル受訴裁判所カ執行行為ヲ行フハ便宜且適當ナルヲ以テ同裁判所ヲ執行裁判所ト爲シタル場合アリ此場合ニ於テモ亦自ラ執行ヲ爲スヘキ事項ト其執行ノ共カヲ與フルニ過キサル場合トノ別アリ

(一) 當然受訴裁判所ニ任シタル執行行為 其行為ハ以下ノ如シ

(甲) 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル權利ニ付テノ執行ニシテ債務者ノ行為若クハ不行爲ヲ求ムルモノニ係リ其債務ノ性質カ強制履行ヲ許サ、ルモノハ執行又ハ之ヲ許スモノニ付キ賠償ニ因ル執行ハ(本法第七百三十三條)(改正案第九百十四條)第一審ノ受訴裁判所ノ職務ニ屬ス(本法第五十五條參照)而シテ此執行ニ付テハ一般ノ執行上ノ決定ト等シク口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ其決定前ニハ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スヘキモノトス(本法第七百三十條)(改正案第九百五條)

(乙) 受訴裁判所カ債權ノ假差押命令ヲ發シタル時ハ其第一審ニ於テ之ヲ發シ



タルト控訴審ニ於テ之ヲ發シタルトヲ問ハス其命令ヲ發シタル受訴裁判所  
ハ其命令ノ強制執行タル禁止命令ヲ爲スヘキモノトス(本法第七百三十九條  
第七百五十條第二項)

(改正案第九百二十三條  
第九百三十五條第三項)

(二) 受訴裁判所ニ任セラレタル執行行爲ノ共力

外國ニ於テ執行ヲ爲スヘキ場合ノ囑託ハ受訴裁判所カ之ヲ爲スヘキモノトス  
(本法第五百)(改正案第六  
五十七條)百八十四條)

### 第三款 強制執行上他ノ機關ノ共助

強制執行ハ執行機關ヲ以テ之ヲ實施スヘキヲ通例トスレトモ或特別ノ場合ニ於  
テハ他ノ機關ノ共助ヲ受ケサルヲ得サルコトアリ

(一) 執達吏カ執行實施ノ際ニ於テ抵抗ヲ受クルトキハ警察上ノ援助ヲ求ムルコ  
トヲ得而シテ此援助ハ執達吏カ自ラ之ヲ求メ得ヘキモノトス(本法第五百三  
十六條第二項)(改正  
案第六百六十  
一條第二項)

(二) 同上ノ場合ニ於テ兵力ヲ要スルトキハ執行裁判所ニ申出テ同裁判所ハ當該  
官廳ニ之カ共助ヲ求ムヘキモノトス(本法第五百三十六條)(改正案第六百六十一  
條第五百五十五條)條第六百八十一條)

(三) 常備現役ノ軍人軍屬ニ對シ軍需用官舎又ハ軍艦ニ於テ強制執行ヲ爲スヘキ  
トキハ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ヨリ其管轄軍事裁判所又ハ其所屬官廳  
若クハ隊長ニ其執行ヲ囑託スルコトヲ得ヘシ而シテ當該官廳ハ其囑託ニ依リ  
差押ヲ爲シ其差押タル物件ハ債權者ノ委任シタル執達吏ニ交付スヘキモノト  
ス(本法第五百)(改正案第六  
五十六條)百八十三條)

(四) 外國ニ於テ強制執行ヲ爲スヘキトキハ其外國ノ官廳カ本邦裁判所ニ法律上  
ノ共助ヲ爲スヘキトキ又ハ本邦領事ニ依リテ執行ヲ爲スヘキ場合ニハ債權者  
ノ申立ニ因リ第一審ノ受訴裁判所ハ其外國官廳又ハ外國駐在ノ本邦領事ニ其  
執行ヲ囑託スヘキモノナリ而シテ如何ナル場合ニハ外國ニ於テ執行ヲ爲シ得  
ヘキヤ及如何ナル場合ニハ外國裁判所カ法律上ノ共助ヲ爲スヘキヤハ國際條  
約ニ依リ決スヘキモノトス(本法第五百)(改正案第六  
五十七條)百八十四條)

### 第五節 強制執行上ノ當事者

強制執行上ノ當事者ナルモノハ敢テ訴訟上ノ原告若クハ被告タリシモノト同一  
ノ意義ヲ有スルモノニアラス故ニ先ツ其意義ヲ明カニシ次ニ其當事者ノ變更ヲ



略述セントス

第一 強制執行上ノ當事者ノ意義

強制執行上ノ當事者トハ執行ノ基本タル債務名義ニ依リ執行ヲ求ムル権利アルモノト之ヲ受クル地位ニ立ツモノトヲ云フ即前者ハ之ヲ債權者ト稱シ後者ハ之ヲ債務者ト稱ス故ニ訴訟上ノ原告タリシ者カ必スシモ債權者タルニアラス時トシテハ被告ノ地位ニアリシモノト雖モ債權者ノ地位ニ立ツコトアリ例ヘハ反訴ノ場合若クハ訴訟費用ノミノ執行ノ場合はナリ又其債權者ト稱スル者ハ民法上ノ物權ニ對スル債權ニ於ケル權利者ヲ云フモノニアラス物權ニ基クモノト雖モ執行ヲ求メ得ヘキ債權者ノ地位ニ立ツモノハ執行上廣ク之ヲ債權者ト稱ス故ニ茲ニ所謂債權者債務者ハ廣キ意義ニ於ケル執行權利者及執行義務者ニシテ即債務名義ニ於テ權利ヲ有スルヤ將タ義務ヲ負フヤヲ標準トスルニ在リ

第二 強制執行上ノ當事者ノ變更

凡ソ權利ナルモノハ縱令係争中ト雖モ又ハ判決ニ依リ確定シタル後ト雖モ一身ニ專屬スルモノニアラサル以上ハ其承繼ニ依リ移轉シ得ヘキコトハ疑ヲ容レス

其債務モ亦一般ノ承繼ニ依リ之ヲ移轉スルヲ常トス

故ニ若シ訴訟中判決ノ言渡ナキ間ハ勿論其言渡後ト雖確定前ニ當事者ノ死亡其他ノ原因ニ依リテ承繼アルトキハ訴訟手續ヲ中斷シ其受繼ノ手續ニ依リ其訴訟ヲ承繼スヘク(本法第七十八條第百一十條第百一十四條)改正案ニ於テハ法人カ消滅スヘキ場合ヲ加ヘラレタリ(改正案第一條)又訴訟代理人アル場合ニ於テハ中斷ノ規定ヲ適用セサルコトニ改メ單ニ上告審ニ限り訴訟代理人ノ死亡等ニ依リ中斷スヘキモノトセラレタリ(改正案第二百六條)又其判決確定後強制執行開始前ニ承繼アリタルトキハ既ニ執行力アル正本ヲ附與シタル後ナルト否トヲ問ハス其承繼人ノ爲メ又ハ承繼人ニ對シテ更ニ執行文ノ附與ヲ受クルニアラサレハ執行ヲ爲シ得サルコトハ前ニ説明セシ所ナリ(本法第五百十九條第五百二十六條)改正案第六百四十四條第六條然レトモ此等ハ皆執行開始以前ニ係ル手續ナルカ故ニ茲ニ所謂執行中ノ執行當事者ノ變動トシテ論スルノ要ナキナリ而シテ今執行上當事者ノ變動トシテ論述セントスル所ノモノハ執行開始後ニ當事者カ死亡シ若クハ其他地位ヲ變更シタル場合ノ如キヲ云フ抑モ強制執行ハ執行シ得ヘキ債務名義又ハ其執行文ニ表示



セラレタル債權者ノ爲メニ之ニ表示セラレタル債務者ニ對シテ爲スヘキヲ本則トス(本法第七條(改正案第六百四十二條))故ニ其當事者ノ一方若クハ雙方カ死亡シ又ハ其地位ヲ變更シタルトキハ更ニ執行文ノ附與ヲ求メサルヲ得サルモノ、如シト雖モ法律ハ便宜上變例トシテ執行ノ開始後ニ債務者カ死亡シ又ハ其地位ヲ變更スルコトアルモ尙其執行ヲ進行シ得ヘキモノトセリ而シテ其進行ニ付テハ死亡ノ場合ト戸主タルノ地位ヲ辭シタル場合トニヨリ區別アリ

(二) 債務者カ執行開始後ニ死亡シタルトキ  
 此場合ニ於テハ既ニ其承繼人ノ定マリタルト否トヲ問ハス更ニ承繼人ニ對スル執行文ノ附與ヲ受ケ若クハ債務名義ノ送達ヲ爲スカ如キ手續ヲ要セス其遺産ニ對シ執行ヲ續行シ得ヘキモノトス然レトモ若シ其執行ニ關シテ債務者ニ之ヲ知ラシムルヲ要スル執行行爲ヲ爲スヘキ場合ニ於テ(本法第五百九十六條第三項第五百九十八條第二項第六百九十二條第二項(改正案第六百九十五條第四項第七百二十八項第六百二十九條第七百三十一條參照))(條第七百四十八條第二項第六百二十九條第九百十條)相續人アラサルカ又ハ之レ有ルモ其所在不分明ナルトキハ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ遺産又ハ相續人ノ爲メ特別代理人ヲ委任スヘキモノト

ス此特別代理人ハ本法第四十六條第四十七條ノ規定ニ於ケル特別代理人ト同一ニシテ何人ニ之ヲ命スルモ裁判所ノ意見ニ任スヘキモノナリ(本法第五百五十二條)改正案第六百七十七條第六百七十八條ニ於テ少シク改メラレタリ

(二) 戸主タル債務者ハ執行開始後其地位ヲ辭シ又ハ其地位ヲ失ヒタルトキ民法ノ規定ニヨレハ相續ハ死亡ノ外隱居入夫婚姻等ニヨリテ開始スルコトアリ(民法第七百五十二條以下(第九百六十四條以下參照))故ニ債務者カ戸主タル地位ニ於テ負擔セシ債務ニシテ其地位ヲ辭シ又ハ之ヲ失ヒタルカ爲メ其相續ニ依リ承繼スヘキモノハ其變更ニヨリ前債務者ノ債務ハ新戸主ニ移轉スヘキモノトス然レトモ執行開始後ニ此變更アリタルトキハ更ニ承繼人ニ對スル執行文ノ附與ヲ受クルコトヲ要セス其執行ヲ進行スルコトヲ得ヘシ又斯ル身分上ノ變更アルモ戸主タルノ地位ト共ニ移轉セサル債務ニ付テハ勿論承繼アルヘキモノニアラサレハ其儘執行ヲ進行シ得ヘキハ論ヲ俟タス又民法ノ規定ニヨリ隱居若クハ入夫婚姻ニ因ル相續ニ付テハ前戸主ノ債權者ハ其前戸主ニ對シテモ請求ヲ爲スノ權アレハ(民法第九百八條參照)前段ト等シク承繼人ニ對シテ執行スルノ外ニ前ノ債務名義ニ



基キ前戸主ニ對シテモ併セテ執行スルコトヲ得ヘシ蓋シ民法ハ隱居又ハ入夫婚姻ノ場合ニ於テハ全部ノ財産ヲ當然相續セシメスシテ法定ノ方式ニヨリ前戸主ハ其財産ヲ留保スルコトヲ得ルカ故ニ其留保シタル財産ニ對シテモ請求スルコトヲ得

以上説明シタル所ハ執行開始後債務者ノ死亡又ハ戸主タルノ身分變更シタル場合ナリ然レトモ債權者カ死亡シ又ハ戸主タル地位ニ變更ヲ來シタルカ爲メ承繼アリタル場合ニ付テハ法律上何等ノ規定ナキヲ以テ一般ノ通則ニ從ヒ更ニ執行文ノ附與ヲ受クルニアラサレハ執行ヲ續行シ得サルモノト論セサルヲ得ス

### 第六節 強制執行ノ進行及其遮斷

強制執行ノ進行ハ各種ノ執行ニヨリ同一ナラスト雖モ一般ニ通シテ適用スヘキ法則ヲ論述セン

第一 執行ノ進行  
強制執行ハ執行裁判所ノ行爲ニ屬スルト執達吏ノ行爲ニ屬スルトヲ問ハス債權者ハ執行力アル正本ニ基キ執行着手ノ條件ヲ備ヘテ執行機關ニ向テ執行ノ申出

ヲ爲シ執行機關カ之ニ基キ執行ニ着手スルニヨリ初マルヘキモノタリ而シテ其執行開始後ハ執行機關ハ法律ノ規定ニ從ヒ其執行ヲ進行スヘキモノニシテ當事者カ合意ノ申出ヲ爲シタルトキハ格別然ラサルニ於テハ縱令債務者又ハ第三者カ異議ノ訴ヲ提起スルモ之カ爲メニ執行ノ進行ヲ停止セサルヲ本則トス(本法第四百四十七條)改正案ニ於テハ現行法第五百四十七條ノ第一項ヲ省カレ改正セラレタル所アレトモ其法意ハ同一ニシテ異議ノ訴ノ提起アレハトテ執行ヲ停止スヘキ意義ニアラサルヘシ(改正案第六百七十二條)  
強制執行ハ債權者ノ申出ニ依リテ之ヲ爲スヘキモノナレハ其債權者ノ申立ニ因リ執行ヲ停止スヘキコトハ固ヨリ妨ケナシ又執行中債務者カ破産宣告ヲ受ケタルトキハ債權者ハ獨立シテ強制執行ヲ爲スコトヲ得サルカ故ニ(舊商法第九百八十七條參照)其執行ノ目的タル財産ハ破産財團ニ編入セラレ債權者ハ破産債權者トシテ其配當ヲ求ムルヲ得ヘキニ止マリ其執行ハ全ク終了スヘキモノトス  
第二 強制執行ノ停止及制限  
強制執行ハ債權者ノ申出アルカ又ハ破産宣告アル場合ノ外ハ其進行ヲ遮斷セザ



ルヲ本則トスレトモ債務者又ハ第三者カ次ニ説明スルカ如キ書面ヲ提出シタルトキハ執行機關ハ其強制執行ヲ停止若クハ制限スルノ義務アリ而シテ茲ニ所謂停止トハ執行ノ全部ヲ停止スルヲ云ヒ制限トハ其一部分ヲ停止スルヲ云フ又其停止ニハ一時停止スルニ過キササルモノアリ終局的ニ停止スヘキモノアリ依リテ以下區別シテ説明セシムル(本法第五(改正案第六)百五十條(改正案第七十五條))

(一) 執行ス可キ判決若クハ假執行ヲ取消スヘキ旨又ハ強制執行ヲ許サストシテ宣言シ若クハ停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本ヲ提出シタルトキハ強制執行ヲ終局的ニ停止スヘキモノトス(本法第五百五(改正案第六百十條第一號)七十五條第一號)而シテ本號ノ各種ノ裁判ヲ細別スレハ左ノ如シ

(甲) 執行ス可キ判決ヲ取消ス旨ヲ記載シタル裁判  
茲ニ執行ス可キ判決トハ確定判決若クハ假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決ノ意ナリ確定判決ヲ取消ス裁判ハ再審ノ場合ニ生スヘキモノニシテ(本法第六百十七條(改正案第五)以下(百條以下))假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ヲ取消ス場合ハ故障又ハ上訴ニ於ケル判決ニ因リ生スヘキモノナリ

(乙) 假執行ノ宣言ヲ取消ス旨ヲ記載シタル裁判

是レ本案ニ付テハ未タ全判決ヲ取消スニ至ラサルモ故障又ハ上訴ノ結果單ニ假執行ノ宣言ノミヲ取消シタル場合ニシテ即假執行ノ宣言ノミニ付キ先ツ其辯論及ヒ裁判ヲ爲シ其當否ヲ決定スル場合ニ生スヘキモノナリ(本法第一條第一項第五百一十條第一項參照)改正案ニ於テハ此規定ヲ判決ノ節ニ移サレタリ(改正案第七十九條)

(丙) 強制執行ヲ許サスト宣言シ若クハ強制執行ノ停止ヲ命スル旨ヲ記載シタル裁判(本法第五百五(十條第一號))

強制執行ニ對スル異議ハ其執行ヲ許サスト宣言シ若クハ其執行ヲ停止スル旨ノ宣言ヲ目的トスヘキモノナレハ此種ニ屬スル裁判ハ各種ノ強制執行ニ關スル異議ノ申立又ハ異議ノ訴ノ場合ニ生スヘキモノナリ(本法第五百二(百四十四條第五百四十五)改正案第六百四十八條第一項第六百六(條第五百四十九條參照)十九條第六百七十四條)

以上ノ裁判アルトキハ執行機關ニ向テ其執行力アル裁判ノ正本ヲ提出シテ其執行ヲ停止スヘキコトヲ求ムルヲ得ヘシ而シテ茲ニ所謂執行力アル裁判ノ正



本トハ敢テ執行文ヲ附與シタル正本即執行力アル正本タルコトヲ要セス只執行シ得ヘキ裁判タルヲ以テ足レリトス蓋シ是レ只執行シタル行為ヲ消極的ニ遮斷スルノ證據ト爲スニ止マリ積極的ニ執行行為ヲ爲サントスルニ在ラサルカ故ナリ

(二) 執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル裁判ノ正本ヲ提出シタルトキハ執行ヲ一時停止スヘキモノトス此停止ハ單ニ一時ニ過キスシテ終局的ニ停止スヘキモノニアラス(本法第五百五條第二號) (改正案第六百七十五號第二號)而シテ此執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命スル裁判ヲ爲ス場合ハ左ノ如シ

(甲) 確定判決ニ對シ再審ヲ求ムル訴アリテ其確定判決ニ基キテ爲ス強制執行ノ停止ノ申請アリタルトキニ爲スヘキ裁判ナリ(本法第五條參照) (百三十三條)

(乙) 假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ對シ故障若クハ上訴ヲ爲シ其假執行ニ基テ爲ス所ノ強制執行ノ停止ノ申請アリタルトキニ爲スヘキ裁判(本法第五條) (改正案第六百三十五條)

(丙) 執行文ノ附與ニ對スル異議ノ申立ヲ爲シ其執行文ニ依ル強制執行ノ停止ノ申請アリタルトキニ爲スヘキ裁判(本法第五十二條) (改正案第六百四十八條)

(丁) 執行ニ關スル形式上ノ異議ノ申立ヲ爲シ強制執行停止ノ申請アリタルトキニ爲スヘキ裁判(本法第五十四條) (改正案第六百六十九條)

(戊) 執行ニ付キ請求ニ關スル異議ノ訴ヲ提起シ強制執行停止ノ申請アリタルトキニ爲スヘキ裁判(本法第五十七條第二項) (改正案第六百七十二條)

(己) 執行ニ付キ第三者カ異議ノ訴ヲ起シ強制執行停止ノ申請アリタルトキニ爲スヘキ裁判(本法第五十九條) (改正案第六百七十四條)

此等ノ場合ニ於テハ前號ニ説明セシ所ニ異リ裁判ノ正本ヲ以テ足レリトシ敢テ執行力アル裁判ノ正本タルコトヲ要セス蓋シ此裁判ハ判決ニアラス決定若クハ命令ニシテ不服ヲ申立ツルコトヲ得サル裁判(本法第五百十二條) (改正案第六百三十四條) (第六百三十五條)又ハ抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ裁判ニシテ執行停止ノ特定ナキ(本法第四十條) (改正案第九十條)カ故ニ裁判ノ正本ノミヲ以テ足レリトスルニアリ

(三) 執行ヲ免カル、爲メ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタル旨ヲ記載シタル公正ノ



二 證明書ヲ提出シタルトキハ強制執行ヲ終局的ニ停止スヘキモノトス(本法第五  
號第三改正案第六百七  
十五條第三號)是即保證ヲ立テ、執行ヲ免カル、コトヲ得ヘキ條件付ノ  
假執行ノ宣言アリタル場合ニ於テ其執行中債務者カ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲  
シタル場合ヲ云フ(本法第五百  
五條第二項)改正案ニ於テハ判決ノ節ニ入レラレタリ(改正案第  
二項)而シテ茲ニ所謂證明書ナルモノハ裁判所書記ノ證明書(本法第五百十  
三條第二項)改正  
案ニ於テハ現行法第五百十三條ノ第二項ヲ省カレタリ又ハ供託法ニ依ル供託  
證書ヲ指ス

(四) 執行ス可キ判決ノ後ニ債權者カ辨濟ヲ受ケ又ハ義務履行ノ猶豫ヲ承諾シタ  
ル旨ヲ記載シタル證書ヲ提出シタルトキハ強制執行ヲ一時停止スヘキモノト  
ス(本法第五百五  
十條第四號)改正案第六百七  
債權者カ辨濟ヲ受ケタルトキハ更ニ執行ヲ爲スノ必要ナキヲ以テ之カ證明書  
ヲ提出シタルトキハ其執行ヲ停止スヘキモノナルコトハ固ヨリ論ナシ已ニ其  
辨濟アレハ當ニ一時ノ停止ニ止マラス終局的ニ停止スヘキヲ當然トスヘキモ  
ノ、如クナレトモ執行機關カ只一片ノ證明書ノミニヨリ全然執行ヲ解クハ誤

謬ナキヲ保シ難シ是ヲ以テ法律ハ單ニ一時ノ停止ニ止メ債權者ノ申出ヲ俟チ  
テ全然其執行ヲ解除スヘキモノトセシナリ而シテ若シ債權者カ其執行ヲ解カ  
サルニ於テハ債務者ハ其辨濟ヲ爲シタルコトヲ原因トシテ執行ニ對シ請求ニ  
關スル異議ノ訴ヲ提起シ終局的ノ停止ヲ求ムルコトヲ得ヘシ又履行ノ猶豫ニ  
付テハ其猶豫期間内ノミ執行ヲ停止シ若シ無期ノ猶豫ナルトキハ更ニ債權者  
ヨリ執行進行ノ申立アル迄之ヲ停止スヘキモノトス而シテ此等ノ辨濟若クハ  
猶豫ノ證明書ハ共ニ私署證書ヲ以テ足レリトス

第三 強制執行ノ停止及制限ノ效果  
前段ニ述ヘタル強制執行ノ停止若クハ制限ニハ一時的ノモノト終局的ニ出ツル  
モノトノ二種アルカ故ニ之ニ由リ其停止及ヒ制限ノ限度ヲ異ニスルモノアリ(本  
法第五  
十一條  
百七十六條)  
(二) 前段一號及ヒ三號ノ場合ニ於テハ終局的ニ執行ヲ停止スヘキモノナルカ故  
ニ爾後ノ執行行為ヲ止ムヘキハ勿論既ニ爲シタル執行處分マテヲモ總テ之ヲ  
取消サ、ルヘカラス例ヘハ目的物ヲ差押ヘ保管シ若クハ供託シタルトキハ其



差押、保管及ヒ供託等ノ行爲ヲモ總テ取消シテ以テ舊ニ回復セシメサルヘカラス

(二) 前段四號ニ説明セシ場合ニ於テハ一時ノ執行停止ナルカ故ニ爾後ノ執行行爲ノ進行ノミヲ停止シ債權者ヨリ申出アルマテハ既ニ爲シタル執行處分ハ其儘保持スヘキモノトス

(三) 前段二號ニ説明セシ場合ニ於テモ一時ノ停止ナルカ故ニ爾後ノ執行行爲ヲ止メ其訴訟ノ結果ニ依ル裁判アルマテハ既ニ爲シタル執行處分ハ其儘ニ保持スヘキモノトス尤モ此場合ニハ裁判所ノ執行停止命令ニ特別ノ裁判ヲ宣言シアルトキハ之ニ從ヒテ既ニ爲シタル執行處分マテヲモ取消スコトアルヘキナリ

### 第七節 強制執行ノ費用

強制執行ノ費用ハ夫ノ訴訟費用トハ全ク異ナルモノニシテ亦其取立ノ方法ヲモ異ニスルモノナリ其執行費用ハ強制執行準備ノ爲メ及ヒ其實施ニ要セシ必要ナル費用ヲ指ス而シテ之ニ包含スルモノハ即チ執行力アル正本ヲ求ムル費用、執達

吏ノ手数料、立替金、債權者ノ旅費、日當其他執行上ノ保管ニ關スル費用等ニシテ特ニ其必要ナリシモノ、ミニ限ラル(執達吏手数料規則、民事訴訟費用法第百十六條)此執行費用ハ債務名義ノ何タルヲ問ハス總テ債務者ノ負擔ニ歸セシメ之ニ付テハ別ニ債務名義ヲ要セス從テ費用額確定決定ヲ要セスシテ本案ノ債務名義ニ基ク執行ト同時ニ之ヲ取立ツルコトヲ得ヘキモノナリ(本法第五百七十八條)而シテ其費用カ果シテ必要ナルモノナリヤ否ヤニ付テノ争ヲ生シタルトキハ執行裁判所ノ裁判ヲ受ケサルヘカラス

其執行ノ基本タル債務名義カ假執行ノ宣言ヲ付シタルモノニ係リ後日故障若クハ上訴ノ結果ニ因リ債務名義ヲ取消サレタルトキ又ハ其債務名義カ確定判決ニシテ再審ノ訴ニ依リ取消サレタルトキハ債務者ハ既ニ取立テラレタル執行費用ノ返還ヲ求ムルコトヲ得ヘシ(本法第五百八十一條)

### 第八節 強制執行ニ關スル異議

強制執行ニ付テハ當事者又ハ第三者ヨリ其實行ニ對シ異議ヲ主張スルコトヲ得ヘキモノナリ此異議ニハ一般ノ執行ニ通シテ適用スヘキモノ種々アリ即チ執行



文付與ニ關スル異議、執行實施ニ關スル異議、確定シタル請求ニ關スル異議及第三者ノ異議是ナリ而シテ此種々ノ異議中ニハ形式上ノ異議ト實體上ノ異議トノ別アリ執行文付與ニ關スル異議ニシテ申立ヲ以テスヘキモノ及執行實施ニ關スル異議ノ如キハ形式上ノ異議ニ係リ其他ハ實體上ノ異議ナリ其形式上ノ異議ハ裁判所書記、公證人又ハ執行機關ノ職務ニ對シ不服ヲ申立ツルモノニシテ殆ト抗告ト同様ノ性質ヲ有シ其不服ハ申請ノ形式ヲ以テ之ヲ申立ツヘキモノトス又實體上ノ異議ハ相手方ニ對シ權利ノ主張ヲ爲スヘキモノナレハ訴ノ形式ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノナリ

以上一般ニ通シテ適用スヘキ異議ノ外ニ特種ノ執行ニ付テノミ主張スヘキ異議アリ即配當表ニ對スル異議又ハ競落許否ニ對スル異議又ハ強制管理ノ計算ニ對スル異議ノ如キ是ナリ此等ハ此各種ノ執行ニ付キ説明スル場合ニ於テ論述スヘク而シテ茲ニ於テハ一般ノ執行ニ通シテ適用スヘキ種々ノ異議ニ付キ欸ヲ分チテ略述セントス

### 第一款 執行文付與ニ關スル異議

執行文付與ニ關スル異議ハ既ニ執行文ヲ付與セラレタル後之ニ對シテ債務者ヨリ異議ヲ主張スルモノナリ而シテ執行文付與ノ申請ヲ却下セラレタル裁判ニ對スル債權者ノ不服ハ抗告ノ方法ニ依ルヘキモノニシテ此異議ヲ主張スヘキモノニアラス（本法第四百五十五條第四百九十九條及明治十九年司法省令第三十七條第六法公證人規則ニ照對スル抗告手續參照）

執行文付與ニ關スル異議ハ形式上ノ原因ヲ主張シ申立ニ因リ之ヲ爲スヘキモノト實體上ノ爭ヲ生シ訴ヲ以テ之ヲ主張スヘキモノトノ別アリ

第一 執行文付與ニ關スル異議ノ申立  
此異議ハ裁判所書記若クハ公證人カ不適式ナル執行文ヲ付與シタルモノニ對シ不服ヲ主張スル方法ナリ

(一) 此異議ノ原因ハ裁判所書記又ハ公證人カ債務名義タルヘキモノニアラサル書面ニ執行文ヲ付シタルトキ例ヘハ確定セサル判決ニ執行文ヲ付與シタルカ如キ又ハ裁判官ノ命令ヲ受クルニアラサレハ執行文ヲ付與スルコトヲ得サル場合ニ專擅ニ之ヲ付與シタルトキ若クハ其執行文ノ方式ニ違フトキ又ハ其執



行文ノ記載中ニ不當ナル點アルカ如キ場合はナリ斯ル場合ニ於テハ當事者ハ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ

(二) 債務者カ此申立ヲ爲スニ付テハ法律上其時期ヲ制限セサルカ故ニ執行文付與ノ後ハ執行ニ着手ノ前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ

(三) 此申立ニ付テノ管轄裁判所ハ裁判所書記カ執行文ヲ付與シタルトキト公證人ノ之ヲ付與シタルトキトニヨリ同一ナラス

(甲) 裁判所書記カ付與シタル執行文ニ對スル異議ノ申立ハ其書記ノ屬スル裁判所ニ之ヲ爲スヘキモノトス而シテ此管轄ハ執行文ノ付與カ書記ノ專行ニ出タル場合ナルト裁判長ノ命令ニ依リテ付與シタル場合ナルトヲ問ハス同

一ノ裁判所ニ申立ヘキモノトス(本法第五百四十八條)

(乙) 公證人ノ付與シタル執行文ニ對スル異議ノ申立ハ公證人カ職務上ノ住所ヲ有スル地ノ區裁判所ニ之ヲ爲スヘキモノトス(本法第五百四十八條)

(四) 此異議ノ申立アルモ其執行文ニ基キ既ニ着手シタル強制執行ノ進行ハ之ヲ停止セサルヲ通例トス然レトモ裁判長ハ其異議ノ裁判前ニ假ノ處分トシテ保

證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ一時停止シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行スヘキ命令ヲ爲スコトヲ得(本法第五百四十八條)

第二 執行文付與ニ關スル訴

此異議モ亦執行文付與ノ後ニ債務者ヨリ主張スヘキモノナレトモ是レ則チ執行カ條件ニ繋ル場合又ハ承繼アル場合ニ於テ執行文ノ付與アリタルトキノミニ爲スヘキ實體上ニ關スル異議ナリ

(一) 此異議ハ次ノ場合ニ生スヘキモノトス即チ強制執行カ條件ノ到來ニ繋ル場合又ハ執行當事者ニ承繼アル場合ニ於テハ裁判所書記又ハ公證人ハ債權者ヨリ證明書ヲ以テ條件ノ到來若クハ承繼ノ事實ヲ證明シタルトキニ限り其執行文ヲ付與スヘキモノナリ(本法第五百四十八條)改正案第六百四十三條(然レトモ債務者カ其證明セラレタル條件ノ到來ヲ争ヒ又ハ承繼ノ事實ヲ争ヒ實體上債權者カ執行スヘキ權利ナキコトヲ主張セントスルトキハ請求ニ關スル異議ト等シク債權者ニ對シ訴ヲ提起シテ執行文付與ノ不當ヲ主張スルコトヲ得ヘシ)



此異議ノ訴ヲ爲シ得ルカ爲メニ前ニ説明セシ形式上ノ異議ノ原因アルニ於テハ之カ申立ヲ爲スコトヲ妨ケサルモノナリ要スルニ實體上ニ關スル訴ト形式上ニ關スル異議ト共ニ之ヲ主張スルコトヲ得ヘキモノナリ(本法第五百(改正案)第六百一七條)

(二) 此訴ノ管轄裁判所ハ債務名義ノ種類ニヨリ同一ナラス然レトモ其管轄ハ請求ニ關スル異議ノ訴ト全然同一ナルカ故ニ後ニ請求ニ關スル異議ノ訴ニ付テノ説明ヲ爲スニ當リ併セテ詳論スヘシ

(三) 此異議ノ訴ハ強制執行ニ相牽聯シ特定ノ目的タル訴ノ爲メ特別ナル裁判管轄ヲ定ムト雖モ其訴訟ハ固ヨリ特別訴訟ニアラス故ニ此訴ヲ提起スルニ付テモ一般ノ訴ト同一ノ手續ニ從ヒ又其辯論モ一般ノ手續ニ依リ判決ヲ以テ之カ裁判ヲ爲サハルヘカラス

(四) 此異議ノ訴アリタルトキモ亦當然執行ヲ停止スヘキモノニアラサルコトハ他ノ異議ノ場合ト同一ナリ然レトモ裁判所ハ申立ニ因リ執行停止ノ命令ヲ爲スコトアルヘシ而シテ此事項ニ付テモ請求ニ關スル異議ノ場合ト同一ナルカ

故ニ其説明ノ場合ニ讓ルヘシ(本第五百(改正案)第六百七十七條)

### 第二款 強制執行實施ニ關スル異議

強制執行實施ニ關スル異議ハ執行ノ方法ニ對シ不服ヲ申立テ其不適式ナル執行ノ除却又ハ制限ヲ目的トスルニ在リ而シテ此異議ハ總テ形式上ノ異議ニシテ其申立ハ申請ノ形式ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノトス(本法第五百(改正案)第六百四十四條)

(一) 強制執行ノ方式又ハ執行ニ際シ執達吏ノ遵守スヘキ手續ニ關シ意見アリ又ハ不服アルモノハ之ニ對シ申立ヲ爲シ若クハ異議ヲ主張スルコトヲ得ヘシ此執行實施ニ關スル異議ハ主トシテ執達吏ノ執行行為ニ對シテ生スヘキモノナリ執行裁判所ノ執行行為ハ多クハ口頭辯論ヲ經スシテ決定ヲ以テ裁判ヲ爲スヘキモノナレハ其執行行為ニシテ形式上ノ不當アレハ抗告ノ方法ヲ以テ不服ヲ申立ルヲ常トスヘク此異議ヲ主張スル場合ハ極メテ稀ナルヘシ然レトモ裁判ノ形式ヲ以テセサル行為ハ執行裁判所ノ執行行為ニ付テモ異議ヲ主張シ得ヘキモノト云ハサルヲ得ス而シテ執行實施ノ申立若クハ異議ヲ主張スル場合ハ之ヲ例示スレハ執達吏カ競賣ヲ懈怠スルニ依リ債權者ヨリ爲ス催告ノ申立



(本法第五百)改正案ニ於テハ又ハ執行力アル正本ノ内容ニ反シテ執行ヲ爲シ若クハ差押フヘカラサルモノヲ差押ヘ其他執行ノ手續ニ背馳シタル行爲ニ對シ債務者ヨリ其不當ヲ主張スルカ如キ(本法第五百二十八條乃至第五百三十四條第十條第六)改正案第六百九十二條乃至第六百五十四條第六百六)又ハ執達吏カ第三者ノ占有中ニアル財産ニシテ其提出ヲ拒ミタルモノヲ差押ヘタルカ爲メ第三者ヨリ異議ヲ主張スルカ如キ場合はナリ(本法第五百)改正案第六百五十六條

(二)此異議ノ申立ハ其執行實施ニ付キ利害ノ關係ヲ有スルモノハ債務者ハ勿論債權者又ハ第三者ト雖モ之ヲ主張スルコトヲ得第三者ニシテ實體上ノ第三者ノ異議ノ訴ヲ爲シ得ヘキ場合ト雖モ此形式上ノ異議ヲ併セテ主張スルコトヲ妨ケス

(三)此申立ヲ爲ス時期ニ付テハ法律上何等ノ規定ナシト雖モ元來其目的ハ不適法ナル執行ヲ除却若クハ制限セントスルニアルヘキモノナレハ執行開始後其完結ニ至ル迄ノ時間ニ於テ之ヲ爲サ、ルヘカラス若シ此申立ヲ爲サスシテ執行ヲ完結シタル後ハ債權者若クハ執達吏ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲シ得ヘ

キ場合アルヘキモ執行ニ關スル異議トシテハ之ヲ主張スルコトヲ得ス

(四)此異議ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬シ其裁判ハ口頭辯論ヲ經ルコトヲ要セス決定ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノトス(本法第五百)改正案第六百八十五條而シテ此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ(本法第五百)改正案第六百九十九條

(五)此異議モ亦執行ヲ停止スヘキ效ナシ然レトモ執行裁判所ハ執行文付與ノ異議ノ場合ニ於ケルト同一ニ裁判長カ假ノ處分トシテ一時執行ノ停止ヲ命スルコトヲ得ヘシ(本法第五百)改正案第六百六十九條

此執行實施ニ關スル異議ト其趣ヲ異ニスレトモ執達吏カ執行委任ヲ受クルコトヲ拒ミ又ハ其委任ニ從ヒ執行行爲ヲ實施スルコトヲ拒ミ又ハ執達吏カ計算セシ手數料等ニ付キ之ニ對シ異議ヲ主張セントスル者モ亦此手續ニ準シ執行裁判所ニ之ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ而シテ其如何ナル場合ニ於テ執達吏カ委任ヲ拒ミ得ヘキモノナリヤハ裁判所構成法及執達吏規則等ニ付テ研究スヘキモノナリ(裁判所構成法第九十六條)第八條參照

第三款 債務名義ニ依リ確定シタル請求ニ關ス



ル債務者ノ異議

請求ニ關スル債務者ノ異議ハ債務名義ニ依リ確定シタル請求ニ對シ其債務名義成立以外ノ事由ニ基キ實體上其執行ヲ受クヘカラサルモノナルトキ其執行ヲ除却スル爲メ債務者ヨリ債權者ニ對シ訴ヲ以テ異議ヲ主張スヘキモノナリ(本法第四百十五(改正案第六)條)彼ノ民法第一百五十七條ノ規定ニ依ル場合モ茲ニ包含スヘシ

(二) 此異議ノ原因ハ判決ノ後ニ債務ノ辨濟ヲ爲シ又ハ相殺、拋棄、和解、延期ノ承諾アル場合等ニシテ其原因ハ專ラ實體法ニ於テ決スヘキ問題ナリ然レトモ此原因ニ因リ異議ヲ主張スルニハ一ノ制限アリテ其制限ハ債務名義ノ種類ニ依リテ同一ナラス

(甲) 判決ニ依リ確定シタル請求ニ付テハ其原因カ遅クトモ異議ヲ主張シ得ヘカリシ口頭辯論ノ終結後ニ生シ且故障ヲ以テ其原因ヲ主張スルコトヲ得サリシトキニ限ル是本款ノ異議ハ訴訟中ニ主張シ得ヘキ防禦方法ヲ再ヒ提出スルヲ許スヘキモノニアラスシテ債務名義ノ成立後其以外ノ原因ニ出ツルモノニ限り許スヘキモノナルヲ以テナリ而シテ茲ニ所謂異議ヲ主張シ得ヘ

キ口頭辯論ノ終結トハ第二百三十三條(改正案第九條)ノ規定ニ於ケル判決ニ接

着スル口頭辯論ノ終ヲ意味ス故ニ其債務名義タル口頭辯論ニ接着シタル辯

論後ニ其原因カ發生シタルモノナラサルヘカラス若シ判決カ闕席判決ナル

場合ニハ故障ノ申立ヲ許サ、ルトキニ限ル(本法第七十七條第二項) (改正案第一

三百條第二項)故ニ判決ノ後辯論ヲ爲シタラシハ尙ホ執行ヲ爲ストキハ故障

ヲ爲シ得ヘキ期間内ニ在リテハ故障ノ方法ニ依リ之ヲ主張スヘク直チニ此

異議ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス又對席判決ニ在リテハ縱令上訴期間内ニアルモ

上訴ヲ以テ之ニ對抗セスシテ此原因ニ依リ執行ニ關スル異議ノ訴ヲ起スコ

トヲ妨ケス

(乙) 執行命令ニ依リ確定シタル債務名義ニ付テハ其命令ノ送達後ニ原因ノ生

シタルコトヲ要ス(本法第五百六十一(改正案第六百八十)條第二項第三項)

(丙) 公正證書ニ依リ確定シタル債務名義ニ付テハ右ノ如キ制限ナキヲ以テ其

證書成立ノ原因ニ付テモ又如何ナル時期ニ於テ生シタル原因タルヲ問ハス

此訴ヲ起スコトヲ得ヘシ(本法第五百六(改正案第六百八)條第三項)



總テ此等ノ異議ノ原因數個アルトキハ同時ニ之ヲ併セテ主張スルコトヲ要ス(本法第五百(改正案第六)四十五條(第七十條))

(二) 此異議ノ訴ヲ起ス時期ハ其訴ノ性質上執行ヲ除却セシムルヲ目的ト爲スモノナレハ強制執行ノ開始ヨリ其完結ニ至ル迄ノ時期ニ限り之ヲ許スヘキモノタリ然レトモ其時期ヲ失シ訴ヲ起サハリシカ爲メ債權者ニ於テ其請求權ヲ絶對ニ失フヘキモノニ非ス後日實體法ニ基キ損害賠償又ハ不當利得返還ノ請求ヲ爲スヲ妨ケス唯執行ニ對スル異議ノ訴トシテ之ヲ爲スコトヲ得サルニ過キス而シテ損害賠償等ノ請求ヲ爲シ得ヘキモノナルヤ否ヤハ固ヨリ民法ニ依リテ決スヘキモノナリ

(三) 此異議ノ訴ノ管轄裁判所モ亦其債務名義ノ種類ニ依リ同一ナラスモ  
(甲) 判決及其規定ヲ準用スヘキ債務名義ニ付テノ訴ハ第一審ノ受訴裁判所ノ管轄ニ屬ス(本法第五百四(改正案第六)十五條第一項(七十條第一項))

(乙) 執行命令タル債務名義ニ付テノ訴ハ其命令ヲ發シタル區裁判所若クハ其價額カ其區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其區裁判所ヲ管轄スル地方裁判

所ノ管轄ニ屬ス(本法第五百六(改正案第六)十一條第三項(十七條第三項))

(丙) 公證人ノ作りタル證書ニ付テノ訴ハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬シ其普通裁判籍ナキモノナルトキハ第十七條ノ規定ニ從フ(本法第五百六(改正案第六)十二條第四項(十八條第四項))

以上ノ管轄ハ執行文附與ニ付テノ異議ノ訴ニモ之ヲ適用スヘキモノトス  
(四) 此異議ノ訴ハ執行ニ相牽聯シ特別ノ裁判管轄ヲ定ムルモ其訴訟手續ハ特別訴訟ニアラスシテ通常ノ訴訟ニ屬シ一般ノ規定ニ從ヒ口頭辯論ヲ經テ判決ヲ以テ之カ裁判ヲ爲スヘキモノナリ

(五) 此等ノ異議ノ訴ノ提起アルモ既ニ着手シタル執行ハ其訴ノ爲メ當然停止スヘキモノニアラス然レトモ受訴裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ其異議カ法律上理由アリト見ユ且其事實ニ付テモ疏明アリタルトキハ其異議ニ付テノ判決ヲ爲スニ至ル迄執行ノ停止ヲ命シ又ハ債權者ニ保證ヲ立ツヘキ條件ヲ以テ執行ノ續行ヲ許ス命令ヲ爲スコトヲ得ヘシ其停止ノ命令ハ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ之ヲ立テシメスシテ執行ヲ停止シ又ハ必ス保證ヲ供託セシメ其既ニ爲



シタル執行處分迄モ取消スヘキ命令ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ此等ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ決定ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得  
 右等ノ處分ハ急迫ナル場合ニ限り裁判長モ亦之ヲ爲スコトヲ得ヘシ又執行裁判所モ此等ノ權利ヲ行フコトヲ得然レトモ執行裁判所カ斯ル命令ヲ爲ストキハ受訴裁判所ノ裁判ヲ提出セシムル爲メ相當ノ期間ヲ定メ其期間内効力ヲ有スルニ過キスシテ此期間ヲ過キタルトキハ債權者ノ申立ニ因リ其停止ノ命令ハ効力ヲ失ヒ從テ執行ヲ續行スルコトヲ得ヘシ(本法第五百(改正案第六)四十七條)  
 尤モ此規定ハ改正案ニ於テハ少シク改メラレタル所アリ  
 執行停止ノ命令條件付ノ執行續行ノ命令ヲ爲シタル後受訴裁判所ニ於テ異議ノ訴ニ付キ判決ヲ爲スニ當リ其命令ノ取消若クハ認可ヲ宣言スルトキハ此宣言ニ付テハ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキモノトス(本法第五百(改正案第十條)四十八條)  
 前陳ノ執行停止及其取消變更若クハ認可ニ付テノ規定ハ前ニ講究シタル執行文附與ニ付テノ異議ノ訴及後ニ説明セントスル第三者ノ異議ノ訴ニ付テモ之

ヲ準用スヘキモノトス但第三者ノ異議ノ訴ニ於テ少シク異ナル所ハ保證ヲ立テシメスシテ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ヲモ命スルコトヲ得ルニ在リ(本法第四百九(改正案第六)七)十四條第四項)

第四款 第三者ノ異議

抑モ判決ノ効力ハ當事者間ニ於テノミ其効力ヲ有スヘキモノニシテ強制執行ハ其基本タル債務名義ニ表示シタル債務者ニ對シテノミ之ヲ行フコトヲ得ヘキモノナリ然レトモ時トシテハ債權者債務者等ノ故意ニ出テ執行機關カ事實ヲ誤リ債務者ノ占有ニ係ルカ爲メ第三者ノ所有財産ヲ債務者ノ財産トシテ之ヲ差押ヘ又ハ第三者カ物權ヲ有スル財産ニ對シテ強制執行ヲ爲スカ如キ場合ナシトセス斯ル場合ニ於テ第三者カ其強制執行ノ目的物ニ付キ所有權ヲ主張シ其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利ヲ主張セント欲スルトキハ其執行ニ對シテ異議ヲ主張スルコトヲ得ヘシ此異議ハ固ヨリ實體法上ノ原因ニ基クモノナレハ實體上ノ異議ノ一種ニ屬シ訴ノ形式ヲ以テ之ヲ主張スヘキモノナリ而シテ此第三者ノ異議ノ訴ハ金錢ノ債權ニ付テノ強制執行ノ場合ハ勿論金錢以外ノ債權ニ付テ



ノ強制執行即動産不動産ノ引渡若クハ明渡ヲ目的トスル強制執行ニ對シテモ亦之ヲ主張スルコトヲ得ヘシ(本法第五百(改正案第六)第七十四條)

(二) 第三者ノ異議ノ原因ハ強制執行ノ目的物ニ付キ所有權ヲ主張シ其他執行ノ目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利ニ基クコトヲ要ス故ニ此異議ハ常ニ第三者カ物權ヲ主張スル場合ニ限ル然レトモ物權ヲ有スル第三者ハ常ニ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利アルモノニ非ス如何ナル場合ニ於テ之ヲ妨クルコトヲ得ヘキヤ否ヤハ各個ノ關係ニ依リ實體法ニ隨テ決スヘキモノナリ而シテ其物權中ニアリテモ其物上ニ付キ優先ノ辨濟ヲ受クル權利アルニ過キスシテ之カ占有ヲ爲サハル先取特權及抵當權ノ如キハ其讓渡若クハ引渡ヲ妨クルコトヲ得サルヤ勿論ナリ故ニ此等ノ場合ハ其性質上前陳ノ原因ニ基ク異議ヲ主張シ得ヘキモノニアラス然レトモ法律ハ金錢ノ債權ニ付テノ強制執行ノ爲メ此等ノ物件ヲ差押タルトキハ其優先權アル第三者ハ差押債權者ヲシテ其優先權ヲ認メシメ其賣得金ニ付キ優先ノ辨濟ヲ受クルカ爲メ此異議ノ手續ニ依リ一種ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘキモノトセリ(本法第五百(改正案第六)第六十五條) 改正案ニ於テハ現行法

第五百六十五條ノ規定ヲ改メラレ別ニ一種ノ手續ヲ認メラレタリ(改正案第六百九十四條)

(二) 此異議ヲ主張スル場合ニ於テ債務者カ第三者ノ異議ヲ正當トスルトキハ債權者ノミニ對シテ訴ヲ提起スヘク若シ債務者カ反對ノ意見ヲ有スルトキ即執行ノ目的物ハ債務者カ完全ナル所有權ヲ有スルモノニシテ第三者ノ主張ヲ不當ナリトスルトキハ其債權者及其債務者ニ對シテ異議ノ訴ヲ提起スヘキモノトス此場合ニ於テハ債權者ニ對シテハ執行ヲ除却セシムルコトヲ求メ債務者ニ對シテハ第三者ノ物上權ヲ認メシムルコトヲ求ムルヲ目的トスヘキモノナリ而シテ此場合ニ於ケル共同被告ハ彼ノ主參加ノ場合ト等シク(本法第五(改正案第六)第十一條) 必要的共同訴訟ニ屬ス然レトモ其權利關係カ合一ニ確定スヘキモノナルヤ否ヤハ其主張スル請求ニ依リ常ニ一定スルモノニアラス 改正案ニ於テハ主參加訴訟ヲ認メサレトモ即チ第五十一條ノ規定ヲ省カレタレトモ之ト殆ト同一ノ訴ヲ起シ得ヘキ規定ヲ裁判所ノ土地ノ管轄中ニ設ケラレタリ(改正案第十四條)



(三) 第三者ノ異議モ亦請求ニ關スル債務者ノ異議ト等シク執行ヲ除却セシムルヲ目的トスルモノナレハ強制執行ノ開始ヨリ其完結ニ至ル迄ノ時間内ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ尤モ其時間内ニ於テ訴ヲ起サ、ルモ只強制執行ニ對スル異議トシテ訴ヲ起スノ權利ヲ失フニ止マリ後日損害賠償等ノ請求ヲ爲スノ妨トナルコトナシ若シ此異議ノ訴ヲ提起シタル後其執行ヲ停止セザリシカ爲メ訴訟中ニ執行ヲ完結スルニ至リタルトキハ更ニ損害賠償ノ請求ニ改ムルコトヲ得ヘシ(本法第九十條第三號)(改正案第二百三十一條第三號)是レ大審院ニ於テモ法意トシテ認ムル所ノ判例ナリ

(四) 此異議ノ訴ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬ス然レトモ訴訟物ノ價額カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキハ其執行裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ屬ス此ノ如ク執行ニ關スル異議ニ付テ特種ノ管轄ヲ定ムト雖モ之カ爲メニ其訴訟ハ特別訴訟手續ニ屬スヘキモノナラス通常訴訟トシテ訴ヲ提起シ且口頭辯論ヲ經テ判決ヲ以テ裁判ヲ受クヘキモノナリ從テ上訴等ニ至リテモ總テ通常ノ訴訟手續ニ從フヘキモノナリ

(五) 第三者カ異議ノ訴ヲ提起スルモ既ニ開始シタル執行ハ之カ爲メ當然停止スヘキモノニアラス即債務者ノ異議ノ場合ト異ナルコトナシ然レトモ債務者ノ異議ノ場合ニ於テ論述シタル所ト同一ニ申立アレハ執行停止ヲ命スルコトアルヘシ

以上講述セル所ヲ以テ強制執行ノ總則ニ付テハ説明シ終リタリ故ニ之ヨリ各種ノ強制執行ニ付キ順序ヲ追テ攻究セント欲ス  
抑モ強制執行ナルモノハ其基本タル債務名義ノ趣旨ニ從ヒ公ノ威力ヲ以テ強制的ニ權利ノ實行ヲ爲サシムルヲ目的トスヘキモノナレハ其債務名義ノ趣旨ヲ異ニスルニヨリ其實行方法モ亦同一ナラス其執行ノ基本タル債務名義ハ判決ニ出ツルト其他ノ債務名義タルトヲ問ハス其目的ハ區々ニシテ或ハ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權アリ或ハ特定物ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスルモノアリ我民事訴訟法ハ其執行ノ方法ヲ債務名義ノ趣旨ニ依リ之ヲ區別シ金錢ノ債權ニ付テノ強制執行及金錢以外ノ債權ニ付テノ強制執行ノ二ト爲シタルカ故ニ此區別ニ從ヒ其執行方法ヲ論究セント欲ス



### 第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

金錢ノ債權ニ付テノ強制執行トハ債務名義ノ趣旨カ金錢ノ支拂ヲ受クルコトヲ目的トスル請求ニ付キ其確定シタル權利ノ強制執行ヲ云フ而シテ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ハ内國通貨ヲ以テ支拂ヲ受クヘキ債權タルコトヲ本則トシ内國通貨ハ如何ナル種類ヲ以テ其辨濟ニ充ツルモ自由ナリ唯十圓以上ノ補助貨ヲ以テ辨濟セントスルモノアルトキハ債權者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ルノミ(明治三十六年法律第三十六號貨幣法參照)

金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ノ性質ハ前陳ノ如クナルカ故ニ特別ノ通貨ノ給付ヲ目的トスル債權ナルトキハ茲ニ所謂金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權中ニ包含セシムルコトヲ得ス斯ル債權ハ代替物即不確定物ノ一定ノ數量ノ引渡ヲ目的トスルモノト看做シ其執行方法ニ依ラサルヘカラス(民法第四百二條本條參照)又外國ノ通貨ヲ以テ支拂ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ特ニ其通貨ヲ物件トシテ給付セシムル目的ニアラサルトキハ内國通貨ニ換算シテ辨濟セシムヘキモノナリ(民法第四百三條參照)之ヲ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ト看做シ本章ノ規定ニ從ヒ

執行スヘキモノトス若シ其債權ニシテ金錢ノ支拂ト他ノ物件ノ給付トノ一ヲ履行スヘキモノナルトキハ如何ナル債權ト看做スヘキヤノ問題ヲ生スルコトアルヘシ斯ル選擇義務ノ場合ニ於テハ其選擇權カ何レノ者ニ屬スヘキヤヲ究メ決スヘキモノニシテ之ニ付テハ民法ノ規定ニ依ルヘキハ勿論ナリ而シテ民法ノ規定ニ依レハ此權利ハ債務者ニ屬スルヲ一般トシ相手方ハ相當ノ期間ヲ定メ其權利ノ行使ヲ催告スヘキモノナリ而シテ其選擇權ヲ有スルモノカ其權利ヲ行使セサルトキハ該選擇權ハ相手方ニ移ルヘキモノトス(民法第四百六條乃)故ニ此ノ如キ手續ニ依リ選擇權カ債權者ニ移リタルトキハ之ヲ金錢ノ債權トシテ執行ヲ爲スモ又ハ物件給付ノ債權トシテ執行ヲ爲スモ專ラ債權者ノ任意ナリトス

#### 第一節 通則

金錢ノ債權ハ金錢ノ支拂ヲ受クルヲ目的トスルモノナレハ債務者ノ有スル金錢ニ對シ執行ヲ爲スヲ以テ最適切ナル方法ナリトス然レトモ金錢ノ債權ニ付テモ債務者ノ總財產ハ各債權者ノ共同擔保タルヘキモノナレハ其執行ハ金錢ニ對スルノミナラス債務者ノ總財產ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ故ニ其性質上又ハ



法律上不可押物タルモノ、外ハ動産ナルト不動産ナルトヲ問ハス又無体ノ權利ナルトヲ論セス苟モ財産ナル以上ハ同時ニ此等ノモノヲ差押フルト順次ニ之ヲ差押フルトニ拘ハラズ債權者ノ債權ノ限度ヲ超過セサル限ハ此等ノ財産ニ對シテ強制執行ヲ爲シ得ヘキヲ一般トス而シテ其執行ハ債權者ノ財産ヲ差押ヘ之ヲ換價シテ債權ノ辨濟ニ充ツルヲ通例トス

第一 金錢ノ債權ニ付テノ執行ノ目的

金錢債權ノ強制執行ハ債權者ノ財産ヲ差押ヘ換價ノ方法ヲ以テ金錢ヲ得債權ノ辨濟ニ充ツヘキモノナレハ債權者ノ財産ニ屬セサルモノ又ハ讓渡ヲ爲シ能ハサルモノ若クハ特ニ法律ニ於テ差押ヲ禁シアルモノ、如キハ其目的物ト爲スコトヲ得ス然レトモ其他ノ債權者ノ所有ニ屬スル財産ハ總テ其執行ノ目的物ト爲スコトヲ得ヘシ

(二) 金錢債權ノ執行ニ付テノ目的物ト爲スコトヲ得サルモノハ

(甲) 債務者ノ財産ニ屬セサル權利 債務者ノ有スル權利ト雖モ彼戸主權、親權扶養ヲ受クル權利ノ如キ身分上ノ權利ハ縱令間接ニ財産上ノ利益ヲ享有ス

ルコトアルモノ之ヲ財産上ノ權利トシテ差押フルコトヲ得ス

(乙) 讓渡ヲ爲シ能ハサル權利 民法上ノ財産ヲ組成スル權利ト雖モ法律上、合

意上又ハ性質上讓渡ヲ爲シ能ハサルモノアリ以下ニ摘示スルモノ、如キハ差押フルコトヲ得サル財産ニ屬ス

(イ) 法律上讓渡ヲ爲スコトヲ許サルモノ 例ハ華族ノ世襲財産ノ如キ

是ナリ尤モ其收益ニ至リテハ其幾分ヲ許サル(明治十九年四月勅令第三十號華族世襲財產法參照)

(ロ) 合意上讓渡ヲ爲スコトヲ得サルモノ 例ハ設定行爲ヲ以テ讓渡ヲ禁

シタル物件又ハ契約ヲ以テ讓渡ヲ禁シタル債權ノ如キ是ナリ(民法第二百七十二條第二

四百六十條參照)

(ハ) 性質上讓渡ヲ爲シ能ハサルモノ 性質上讓渡スコトヲ得サル權利トハ

債務者ノ一身ノミニ屬スヘキ權利ヲ云フ例ハ債務者カ第三債務者ニ對

シテ詐害行爲ノ取消ヲ求メ得ヘキ權利ノ如キハ其一身ニ專屬スル權利ニ

シテ之ヲ分離シテ他人ニ移付スルコトヲ得サルモノナリ(民法第四百二十四條)

(丙) 有体動産ニシテ法律上差押ヲ禁セラレタル物件 債務者ニ屬スル有体動



産ニシテ法律上差押ヲ禁セラレタルモノハ左ノ如シ(本法第五(改正案第七十條)七百一(條))

(イ) 衣服、寢具、家具及厨具但此等ノモノカ債務者及其家族ノ爲メ缺クヘカラサルトキニ限ル 蓋シ此等ノモノハ日常必要ナル器具ニシテ普通ノ生活上缺クヘカラサルモノナルカ故ニ法律ハ其差押ヲ禁スルニアリ而シテ茲ニ所謂家族トハ債務者カ戸主タル場合ヲ意味スルモノナリ戸主ニアラサルモノカ債務者タルトキハ其一人ノ財産ノミヲ差押フヘキモノナルカ故ニ家族ノ爲メニ云々ナル規定ハ之ヲ適用スヘキモノニアラス又茲ニ缺クヘカラサルトキトアルハ債務者ノ生活ノ程度及身分ノ輕重又ハ營業ノ種類等ニ依リ常ニ同一ナル能ハス其執行ノ任ニ當ルヘキ執達吏ハ實際ニ付テ之ヲ區別セサルヘカラス

(ロ) 債務者及其家族ニ必要ナル一ヶ月間ノ食料及薪炭 是亦現時ノ生活ニ缺クヘカラサルモノナルカ故ニ其差押ヲ禁スルニアリ而シテ其食料及薪炭カ一ヶ月ニ幾何ノ數量ヲ要スヘキヤハ從來ノ使用額ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノトス

(ハ) 技術者、職工、勞役及穩婆(即産)ニアリテハ其營業上缺クヘカラサルモノ

此等ノモノハ各其營業ニ必要ナル機械等ヲ所持スルヲ常トス故ニ其所持スル機械ノ如キハ之カ差押ヲ禁スルニアリ

(ニ) 農業者ニアリテハ其農業上缺クヘカラサル農具、家畜、肥料及次ノ收穫迄農業ヲ續行スル爲メ缺クヘカラサル農産物 茲ニ所謂次ノ收穫迄農業ヲ續行スル爲メ缺クヘカラサル農産物トハ種物、苗類、及蠶卵紙等ノ如キモノ、謂ナリ改正案ニ於テハ此(ニ)號ノ次ニ漁業者及獵業者等ニ對シテハ其營業ニ必要ナル器具ノ一號ヲ加ヘラレタリ

(ホ) 文武ノ官吏、神職、僧侶及公立私立ノ教育場ノ教師、辯護士、公證人及醫師ニアリテハ其職業ヲ執行スル爲メ缺クヘカラサルモノ並ニ自分相當ノ衣服以上(ハ)號ヨリ(ホ)號ニ至ル三者ハ其業務ヲ行フニ必要ナルモノナレハ差押ノ爲メ其業務ヲ害スルコトナカラシメンコトヲ期スルニアリ

(ヘ) 文武ノ官吏、神職、僧侶及公立私立ノ教育場ノ教師ニアリテハ第六百十八條ニ規定スル職務上ノ收入又ハ恩給ノ差押ヲ受ケサル金額但差押ヨリ次



期ノ俸給又ハ恩給ノ支拂迄ノ日數ニ應シテ之ヲ計算ス。是レ第六百十八條第一項第五號ノ規定ト相對スルモノニシテ同條項ハ職務上ノ收入又ハ恩給ニ付キ未タ債務者ノ手ニ領收セサルモノヲ債權トシテ存スル場合ニ適用スヘキモノナレトモ茲ニ規定スル所ノ財產ハ其職務上ノ收入又ハ恩給ニシテ既ニ債務者カ領收シ其手中ニ存スル金額ニ對スル場合ヲ云フモノニシテ其職務上ヨリ受ケタル金額ナルコト明カナル場合ニノミ之ヲ適用スヘキモノトス果シテ其金額ナルトキハ第六百十八條第二項ノ規定ニ從ヒ一ケ年三百圓ヲ超過スルトキハ其超過額ノ金額ヲ差押ノ日ヨリ次期ノ收入迄ノ計算ヲ遂ク之ヲ差押ヘ其他ハ之ヲ差押フルコトヲ得サルモノトスルニアリ若シ三百圓ニ充タサル收入又ハ恩給ナルトキハ絶對的ニ之ヲ差押フルコトヲ得ス。

(ト) 藥舖ニアリテハ調藥ヲ爲ス爲メ欲クヘカラサル器具及藥品。茲ニ所謂藥舖トハ通常ノ藥種店ト異ナリ内務省ノ許可ヲ受ケタル藥劑師ニ限ル是亦其差押ノ爲メ其營業ヲ害セサランコトヲ期スルニアリ尤モ改正案ニ於

テハ此藥舖ノ二字ヲ藥劑師ニ改メラレタリ

(チ) 勳章及名譽ノ證標。勳章ハ内國ノ勳章タルト外國ノ勳章タルトヲ問ハズ又名譽ノ證標中ニハ各種ノ褒賞賞杯等ヲモ包含ス此等ノモノハ名譽ノ紀章ナルカ故ニ其名譽ヲ害スルコトナカラシメンカ爲メナリ

(リ) 實印其他職業ニ必要ナル印。印類ノ如キハ縱令差押ヲ受クル地位ニアリテモ尙必要欲クヘカラサルモノナルカ故ニ其差押ヲ禁スルニアリ而シテ茲ニ所謂職業ニ必要ナル印トアル中ニハ商業上ノ店判仕切判官吏公吏其他會計ノ役員等ノ認印材木商人ノ刻印等モ包含ス

(ヌ) 神像佛像其他禮拜ノ用ニ供スルモノ。是レ信仰心ヲ傷クルノ虞アルカ故ニ差押ヲ禁スルニアリ故ニ如何ナル高價ナル佛壇若クハ位牌ノ如キモ總テ之ヲ差押フルコトヲ得ス

(ル) 系譜。此系譜ハ債務者一家ノ系譜ニ限ル蓋シ系譜ハ其家ニ傳ハリ祖先ノ祭祀ヲ施スカ爲メ貴重スヘキモノナレハ之カ差押ヲ禁スル所以ナリ故ニ其債務者ノ一家ニ屬スル系譜ニ非スシテ名家ノ系譜ヲ集メアルモノハ



如キハ之ヲ差押フルコトヲ得ヘキハ勿論ナリ

(オ) 債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル發明ニ關スルモノ及債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル著述ノ稿本 是レ專ラ世上ニ裨益ヲ與フヘキ發明又ハ著述ノ進歩ヲ妨タルコトナカラシムルヲ期スルニアリ

(ワ) 債務者及其家族カ學校ニ於テ使用ニ供スル書籍 此書籍ノ如キハ文化ノ發達、教育ノ進歩ニ缺クヘカラサルモノナルカ故ニ其差押ヲ禁スルニアリ  
改正案ニ於テハ本號ノ末ニ債務者及家族カ身体ノ補足ニ供スルモノト云フハ一號ヲ加ヘラレタリ

以上ノ有体動産ハ法律上不可押物ナリト雖モ其之ヲ禁スル公法上ノ理由ニ至リテハ自ラ輕重アリ而シテ(ハ)號乃至(チ)號ニ説明セシモノヲ除クノ外ハ專ラ債務者ヲ保護スル目的ニ出テタルモノナレハ其債務者カ自ラ權利ヲ拋棄シテ差押ヲ承諾スルトキハ之ヲ差押フルモ妨ケナシ

(丁) 債權ノ不可押物

債務者ノ有スル債權ニシテ法律上差押ヲ禁シタルモノハ左ノ如シ(本法第六百三十三條)

(イ) 法律上ノ養料即チ扶養

法律上ノ養料ハ主トシテ身分上ノ關係ニ基クモノナレハ(民法第九百五十條以下參照)斯ル權利ハ眞ノ財産トシテ差押ヲ許スヘキモノニアラストスルニアリ

(ロ) 債務者カ義捐建設所ヨリ又ハ第三者ノ慈惠ニ因リ受クル繼續ノ收入但債務者及其家族ノ生活ノ爲メ必要ナルモノニ限ル 此種ニ屬スル債權ハ生活ノ困難ナルモノヲ救助スルカ爲メニ第三者ノ慈惠ニ出ツル恩惠的ノ債權ナルヲ以テ之カ差押ヲ爲ストキハ其義捐者ノ慈惠ノ目的ヲ達スルコト能ハスシテ遂ニ其善良ナル公共心ヲ害スルニ至ルカ故之カ差押ヲ禁スルニアリ

(ハ) 下士兵卒ノ給料並ニ恩給及其遺族ノ扶助料 下士以下ノ軍人ノ如キハ僅少ナル給料、恩給、扶助料等ニヨリ生活ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ此等ノ債權ヲ差押フルハ穩當ナラストスルニアリ



(三) 出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乗組員ニ屬スル軍人軍屬ノ職務上ノ收入 此出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦トハ敢テ宣戰ノ布告アリタル後ノ軍人軍屬タルコトヲ要セス動員令ヲ發セラレタル軍隊又ハ非常ノ爲メ艦裝ヲ爲シタル軍艦ヲ云フ此等ノ軍人軍屬ハ生死ノ境ニ入ルヘキ職ニ從屬スルモノナルヲ以テ其者ノ債權ヲ差押フルハ事情ニ於テ正當ナラストスルニアリ

(ホ) 文武ノ官吏神職僧侶及公立私立ノ教育場教師ノ職務上ノ收入恩給及遺族ノ扶助料 是亦此等ノ收入ノミヲ以テ生活ヲ爲スヘキモノナレハ其差押ヲ禁スルニアリ

(ヘ) 職工勞役者又ハ雇人カ其勞力又ハ役務ノ爲メ受クル報酬 是亦前同段ノ理由ニ基クモノナリ

以上ノ債權中(イ)號(ホ)號(ヘ)號ニ於テ說明セシ三者ハ絶對的ニ之カ差押ヲ禁スルニアラス一ケ年收入三百圓(改正案ニ於テハ五百圓)ヲ超過スルトキハ其超過額ノ半額ヲ差押フルコトヲ得然レトモ特別ノ法律ヲ以テ此等ノ債權ニ付キ絶對ニ其

差押ヲ禁セラレタルモノハ勿論一切之ヲ差押フルコトヲ得ス而シテ恩給扶

助料ノ如キハ概シテ特別法ニ於テ之カ差押ヲ禁止セラレタリ(官吏恩給法第

吏恩給條例第十一條、官吏遺族扶助料法第十三條、府縣立學校教員退隱料及遺族扶助料法第十一條、市町村立小學校教員退隱料遺族扶助料法第十一條

參照)故ニ恩給及扶助料等ニ付キ本法ニ於テハ三百圓ヲ超過スルトキハ差押ヲ

爲シ得ヘキ規定ヲ設クルモ實際ニ於テハ之カ適用ヲ見ルコト甚タ稀ナリ

右ノ如ク差押ノ目的タラサルモノヲ差押タルトキハ債務者ハ之ニ對シテ異議

又ハ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ

(二) 金錢債權ノ執行ニ付テノ目的タルモノハ前ニ說明セシ不融通物法律上ノ不可押物又ハ性質上差押ノ目的物タラサルモノ、外ハ債務者ノ有スル財産ハ總テ執行ノ目的ト爲スコトヲ得其財産中ニハ動産アリ不動産アリ又物權ニ關スルアリ債權其他ノ財産權ニ係ルモノアリ其種類異ナルニ從ヒテ執行方法ヲ異ニスルヲ以テ其權利ノ種類ヲ區別シテ畧述セン

(甲) 有体動産ノ所有權 此所有權ヲ細別スレハ左ノ如シ

(イ) 金錢



(ロ) 物件

(ハ) 有價證券 茲ニ所謂有價證券トハ證券自体カ價額ヲ有シ一定ノ市價アルモノヲ云フ即チ取引所ニ於テ公ノ相場ヲ以テ取引ヲ爲シ得ヘキ公債證書若クハ株券ノ類是ナリ此法律ニ於テ有價證券ト稱スルモノハ其定義狹隘ニシテ彼ノ手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ヘキ流通證書ノ如キハ此ニ屬セス

(ニ) 未タ土地ヨリ離レサル成熟時期一ヶ月ニ近キタル果實 民法ノ規定ニ依レハ果實ニシテ成熟スルモ土地ヨリ離レサル間ハ之ヲ動産ト云フヘカラサレトモ(民法第八十條參照)本法ノ強制執行上ニ於テハ既ニ成熟シ其時期一ヶ月ニ近キタル果實ハ結局土地ト分離セサルヲ得サル性質ノモノナルカ故ニ動産ニ準シテ之ヲ執行シ得ヘキモノトセリ(本法第五百六條第一項(改正案第六條)ニ動産ニ準シテ之ヲ執行シ得ヘキモノトセリ)  
(ホ) 揚リ蠶トナリタル蠶 其揚リ蠶トナル以前ハ本法ニ於テハ之ヲ財産視セサルモノニシテ良シヤ財産視スルヲ得ヘキモノト論スルモ之ヲ差押フルトキハ非常ナル手續ト費用トヲ要シ差押ノ目的物ト爲スニ適セサルヲ

以テ法律ハ之ヲ制限シ揚リ蠶ト爲リタル蠶ニ限り財産視シテ之カ差押ヲ

許スヘキモノトセリ蓋シ揚リ蠶ハ既ニ非常ナル手数ヲ要セスシテ繭ヲ差押フルト殆ト均シキ状態ニ歸スルヲ以テ之カ差押ヲ許スニアリ(本法第五條第(改正案第九條)百六十九條)

(乙) 債權其他ノ財産權 此權利ヲ分テハ左ノ如シ

(イ) 債務者カ第三者ニ對シテ有スル所ノ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權  
(ロ) 債務者カ第三者ニ對シ有スル所ノ金錢以外ノ有体物又ハ有價證券ノ引渡若クハ其給付ヲ目的トスル債權

(ハ) 右(イ)號(ロ)號ニ説述シタル以外ノ債務者ノ有スル財産權換言スレハ無体ノ財産

(丙) 不動産ノ所有權

(丁) 船舶ノ所有權 船舶ハ元ヨリ一種ノ動産ナレトモ其處分ノ方法ニ至リテハ不動産ニ準スヘキ特別ノ手續ニ從フヘキモノナルヲ以テ執行上ニ付テモ亦特別ノ方法ヲ取り他ノ動産ト之ヲ區別セシモノナリ







六百八十一條)而シテ此規定ハ動産ニ對スル執行ノ通則トシテ掲ケタルカ故ニ不動産又ハ船舶ニ對スル執行ニ付テハ直ニ之ヲ適用スルコトヲ得ス蓋シ債務者ノ所有ニ係ル財産ニシテ不動産若クハ船舶ノミナルトキハ縱令其價額ハ差押債權者ノ請求金額ヨリ非常ニ超過スル場合ニ於テモ之ヲ分割シ得サルトキハ其超過スルモノニ對シテモ差押ヲ許ササルヲ得ス而シテ法律ノ精神以上ノ如クナルヲ以テ一個ノ不動産若クハ船舶ニシテ其債權ノ辨濟ニ足ルヘキ場合ニ於テハ他ノ不動産等ヲ差押フルカ如キハ不必要ナル執行ナルヲ以テ法律上明文ナキモ斯ル不當ノ執行ヲ爲スモノニ對シテハ債務者ハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘキハ勿論ナリ又差押フヘキモノヲ換價スルモ到底強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ルノ見込ナキトキハ差押ヲ爲スコトヲ得ス(本法案第五百六十四條第二項改正)是レ舊商法即破産法第九百八十二條ニ於テ破産者ノ財産ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラサルトキハ其手續ヲ停止スヘキモノト規定セラレタル法意ト同一ニシテ債權者カ執行ヲ求ムルノ目的ニ添ハサレハ國家ノ經濟上實利實益ナキヲ以テ之ヲ制限シタルモノナリ而シ

テ此規定モ亦動産ニ對スル執行ノ通則トシテ設ケタルニ過キサレトモ其性質上不動産ニ對スル執行ニ付テモ同一ニ論斷シ金錢債權ノ執行ニ關スル通則ト看做スコトヲ得ヘキモノナリ其詳細ナルコトハ不動産ニ對スル執行方法ヲ攻究スルニ至リテ併セテ論述スヘシ

(丙) 差押ノ效力

差押ノ效力ハ敢テ債務者ノ權利ヲ直チニ離脱セシムルモノニアラス只其效果トシテ目的物ヲ拘束シ執行ニ服從セシムルニアリ故ニ換價以前ニ於ケル天災其他差押物ニ及ホス危険ハ總テ債務者ノ負擔ニ屬スヘキモノトス其保存在中ノ費用ニ於ケルモ亦差押物賣却代金ヨリ支出スヘキモノニシテ結局債務者ノ負擔ニ歸スヘキモノナリ此ノ如ク差押ニ依リ直チニ債務者ノ權利ヲ離脱セシムルニモ非スト雖モ其權利ハ多少制限ヲ受クルニ至ルヘキモノニシテ其制限ノ程度ニ付テハ目的物ニ依リ同一ナラス

動産ノ差押ニ付テハ其占有ヲ執達吏ニ移スヘキモノトシテ(本法第五百六十六條第一項改正)

民事訴訟法(第六編乃至第八編)

金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 通則



案第六百九十(民法ノ規定ニ從ヒ占有ヲ移シ完全ニ之カ讓渡ヲ爲ス權利ヲ制限セラレ(民法第百七十三條參照)又之ヲ使用スルノ途ヲ失フニ至ル

債權其他ノ財産ニ至リテモ差押命令ヲ以テ其處分ヲ禁止セラレヘキモノナリ(本法第百九十八條(改正案第七十五條))

亦不動産ニ至リテハ其占有ヲ移スコトナク其利用及管理ヲ債務者ノ爲ス所ニ任スルモノトス(本法第六百四十四條(改正案第七百八十六條第七)亦其處分ニ付テ

モ禁止スル所ナシ故ニ債務者ハ差押ニ依リ執行ニ服従スル迄ニシテ之ヲ處分スルコトヲ妨ケス然リト雖モ差押後ニ其不動産上ノ權利ヲ取得シタルモ

ノハ其差押ノ效力ニ對抗スルコトヲ得ス故ニ之ヲ取得シタル第三者ハ其執行ヲ繫屬セラル、モ之ヲ甘ンシテ受ケサルヘカラス(本法第六百五十條(改正案第七百八十八條))

差押ニ依リ債務者ノ權利ニ付キ受クル所ノ差押ノ效力ハ前陳ノ如シ然レトモ債權者ニ對スル效力ニ付テハ大体立法例二種ノ區別アリ其一ハ差押ニ依

リテ債權者ノ爲メニ質權ヲ與フル主義ト其二ハ單ニ差押ノ賣却代金ニ付キ各債權者カ平等ノ分配ヲ以テ辨濟ヲ受ケシムルニ過キササル主義是ナリ例ヘ

ハ獨逸民事訴訟法ニ於テハ前者ノ主義ヲ採リ佛蘭西民事訴訟法ニ於テハ後者ノ主義ヲ採ルノ類而シテ吾民法及ヒ民事訴訟法ハ債務者ノ總財産ハ各債權者ノ共同擔保ナリト看做ス原則ヲ採用シ特ニ優先權アル者ノ外ハ差押ノ爲メニ優先ノ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ與ヘス只差押物ヲ換價シテ其代金ヨリ平等ノ辨濟ヲ受ケシムルニ過キササルカ故ニ法律ノ規定ニ從ヒ適式ニ配當要求ヲ爲ス者アレハ平等ノ配當ヲ爲サルヘカラス

(丁) 差押ト物上ノ優先權トノ關係

債權者ハ差押ヲ爲シ得ヘキモノタル以上ハ債務者ノ財産中如何ナルモノニ對シテモ差押ヲ爲シ得ヘキコトハ前ニ説明セシ所ニシテ縱令債權者カ或財産ニ對シテ物上ノ擔保權ヲ有スル時ト雖モ其擔保物ノミニテハ不充分ナリトスルトキハ他ノ財産ヲ差押フルコトヲ得ヘシ然レトモ其擔保物ニ對シテ辨濟ニ充分ナルトキハ先ツ其擔保物ヲ差押フルヲ相當トス 尤モ此點ニ付テハ敢テ法律ニ命スル所ニ非スシテ只抵當權不動産質權ヲ有スル債權者ニアリテハ民法ノ規定ニ依リ其不動産ノ代價ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル部分ニ付



テノミ他ノ財産ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘキモノト規定セラレタルカ  
 故ニ(民法第三百九十四條)先ツ其不動産ニ付キ執行ヲ爲サ、ルヘカラス其ノ他  
 倉庫證券ノ質入ニ因リ物品ヲ質入シタル場合ニ於テハ商法ノ規定ニ依リ先  
 以テ其物品ニ付キ辨濟ヲ受クルコトヲ要ス(商法第三百七十二條)故ニ此場合ニ於テモ  
 先ツ其寄託物品ヲ差押ヘサルヘカラス前陳ノ所ニ反シ債權者ノ爲メニ差押  
 ヲ受クヘキ物上ニ第三者カ優先權ヲ有スル場合ニ於テハ之カ差押ヲ妨クル  
 コトヲ得ス(本法第五百條)(改正案第六百九十四條)然レトモ第三者カ優先權ヲ有  
 スル物件ヲ差押フルニ付テハ動産ト不動産トニヨリ法律ノ規定ヲ異ニセリ  
 左ニ之ヲ區別シテ論究セシ

(イ) 差押ヲ受クヘキ動産ニ付キ第三者カ物上ノ優先權ヲ有スルトキ 此場  
 合ニ於テハ其占有ノ有無ニ依リ其結果同シカラス即チ第三者カ物ヲ占有  
 スヘキ留置權質權ノ如キ占有權ヲ有スル場合(民法第二百九十五條以下)ニ於  
 テ第三者カ其提出ヲ拒ムトキハ差押ヲ爲スコトヲ得ス故ニ之ヲ拒マサル  
 場合ニ限り差押ヲ爲スコトヲ得ヘシ(本法第五百條)(改正案第六百九十六條)又第三者カ差

押ヲ受クヘキモノニ付キ占有ヲ爲サスシテ只優先權即先取特權ヲ有スル  
 トキハ(民法第三百六條)直チニ之ヲ差押フルコトヲ得此ノ如ク第三者カ優先  
 權ヲ有スル動産ヲ差押フルモ之カ爲メニ其賣得金ニ付キ優先ノ辨濟ヲ受  
 ケシムルノ權利ヲ奪フヘキモノニアラス而シテ此差押ノ場合ニ於テ其優  
 先ノ辨濟ヲ受ケントスル第三者ハ民事訴訟法第五百四十九條ノ規定ニ於  
 タル第三者ノ異議ノ訴ノ形式ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得ヘキモノニシ  
 テ債權ノ期限ノ到來セサルトキト雖モ尙之ヲ主張スルコトヲ得ヘシ優先  
 權者カ此訴ヲ提起シ其主張カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ於テ  
 モ疏明アリタルトキハ其訴ヲ受理シタル裁判所ハ賣得金ノ供託ヲ命スヘ  
 キモノトス 法文ニハ賣得金ノ供託ヲ命ジタルカ故ニ競賣等ノ換價處分  
 ハ必ス之ヲ續行スヘキモノ、如シト雖モ或場合ニ於テハ差押物ノ競賣ヲ  
 爲スモ其優先權者ニ對スル辨濟ニモ足ラスシテ差押債權者ニ配當スヘキ  
 賣得金ノ剩餘ナシト認ムル場合ニアリテハ第五百四十七條第五百四十八  
 條(改正案第六百七十三條)ノ規定ヲ準用シ申立ニ因リ其判決ニ至ル迄強制執



行ヲ停止シ又ハ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ヲ命スルコトヲ得ヘシ(本法  
百六十條改正案第六百九十四條)

(ロ) 差押ヲ受クヘキ不動産ニ付キ第三者カ物上ノ優先權ヲ有スルトキ此  
場合ニ於テハ第三者カ其不動産ヲ占有スルト否トニ區別ナク競賣開始ノ  
決定ヲ爲スコトヲ得ヘク而シテ其賣却代金ニ付テハ不動産ノ場合ト異ナリ  
訴ノ提起ヲ俟タスシテ民法ノ規定ニ從ヒ優先ノ順序ニ依リテ之カ配當ヲ  
爲スヘキモノトス(本法第六百九十一條)尤モ改正案ニ於テハ配當ノ要求ヲ爲ス規定  
ヲ省カレタルニヨリ凡テ此規定ヲ設ケス

(二) 換價

差押物カ金錢ナルトキハ別ニ換價手續ノ必要ナシト雖モ其他ノ物件ニ付テハ  
執達吏カ執行スル不動産ノ差押ナルト執行裁判所ノ執行行爲ニ屬スル不動産又  
ハ債權其他ノ財産權ニ對スル差押ナルトヲ問ハス之カ換價手續ヲ爲スコトヲ  
要ス其方法ニ付テハ競賣ノ手續ニ依ルモノアリ其他特別ナル方法ニ依ルモノ  
アリテ差押物ノ種類ノ異ナルニ從ヒ其手續ヲ異ニス故ニ之ニ付テハ後ニ詳論

スヘシ

(三) 辨濟ニ充ツル方法

債權ヲ有スル者カ差押債權者一人ノミナルトキハ換價シタル金額ノ全部ヲ以  
テ其辨濟ニ充ツルコトヲ得ヘシト雖モ債權者カ數人アリ配當ノ要求アリタル  
トキハ之カ配當ノ手續ヲ爲サハルヘカラス是又各差押ニ依リ規定同シカラサ  
ルヲ以テ尙ホ後ニ詳論スヘシ

以上ハ金錢債權ノ強制執行ニ關スル一般ノ通則ヲ説明シタルモノナリ故ニ之ヨ  
リ不動産ニ對シテ爲ス強制執行ニ付キ説明スヘシ

第二節 動産ニ對スル強制執行

第一款 有体動産ニ對スル強制執行

金錢ノ債權ノ爲メニ債務者ノ有体動産ニ對シテ爲ス強制執行ハ執達吏ノ專行ス  
ヘキ執行行爲ニ屬ス(本法第五百三十一條)故ニ債權者カ斯ル財産ニ對シテ強制  
執行ヲ爲サンニハ其執行力アル正本ヲ執達吏ニ交付シ以テ之カ委任ヲ爲スヘキ  
モノニシテ(本法第三百三十三條)改正案第六百五十八條(七)其委任ヲ受ケタル執達吏ハ遲滯ナク

民事訴訟法(第六編乃至第八編)

金錢ノ債權ニ付テノ強制執行  
動産ニ對スル強制執行



其執行ニ着手スヘキモノトス而シテ其執行着手ニ付テハ曾テ總則ニ於テ説明セシ如ク着手ノ要件トシテ債權者債務者ノ氏名ヲ其正本ニ表示シ且其執行ノ基本タル債務名義ヲ執行前又ハ其着手ト同時ニ債務者ニ送達シタルコトヲ要ス(本法百二十)(改正案第六百五十二條)

以上ノ要件ヲ具備シテ執行ニ着手スルニ於テハ執達吏ハ債務者ノ有体動産中前ニ述ヘタル差押ノ目的物ヲラサルモノ、外ハ債權額及執行費用ノ限度ニ滿ツル迄ハ如何ナル財産ヲ差押フルモ自由ナリトス然レトモ強制執行ハ敢テ債務者ヲ困難ナラシムル手段ニアラサレハ執達吏職務細則中ニハ執達吏ハ先ツ債務者ニ對シテ一應任意ノ辨濟ヲ催告シ之ヲ爲サ、ルトキ初メテ差押ニ着手スヘク其差押フヘキ物品ニ付テモ特更ニ債務者ニ損害ヲ生セシムルコトナカラシムコトニ注意ヲ爲スヲ要スト規定セリサレハ債務者ノ指示スル物品ヲ第一着ニ差押フルヲ相當トス

第一 差押

執達吏カ有体動産ノ差押ヲ爲スニハ左ノ手續ニ從フヘキモノナリ

(一) 差押ノ實施ハ執達吏カ差押フヘキモノヲ占有シテ之ヲ爲スヲ本則トス

其差押ノ場所ニハ債務者ヲ立會シムルヲ通例トス若シ立會ヲ爲サ、ルトキハ其差押ヲ債務者ニ通知スルコトヲ要ス(本法第五百)(改正案第六百九十五條)而シテ其差押ハ物件ノ占有者ノ異ナルニ從ヒ又其手續ヲ異ニス

(甲) 債務者ノ占有中ニ在ル有体動産

(乙) 債權者ノ占有中ニ在ル有体動産

(丙) 第三者ノ占有中ニアリテ其提出ヲ拒マサル有体動産

右甲號ノ場合ニ於テハ債務者ヨリ執達吏ニ其占有ヲ移サシムヘク乙號ノ場合ニ於テハ債權者ヨリ執達吏ニ其占有ヲ移サシムヘク丙號ノ場合ニ於テハ第三者カ其提出ヲ拒マサルトキニ限り之ヲ受領シテ執達吏ノ占有ニ移シ其差押ヲ爲スヘキモノトス(本法第五百)(改正案第六百九十六條)而シテ若シ第三者カ其提出ヲ拒ムトキハ有体物給付ノ債權ニ對スル執行トシテ執行裁判所ノ執行ヲ受クルコトヲ得ヘキモ(本法第六百五十五條)(改正案第七百五十一條)執達吏ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

民事訴訟法(第六編乃至第八編)

金錢ノ債權ニ付テノ強制執行  
動産ニ對スル強制執行



以上ノ手續ニ依リ執達吏カ差押ヲ爲シ其占有ニ歸シタル物件ハ執達吏カ之ヲ保管スヘキヲ本則トス

(二) 右ノ規定ノ例外トシテ債權者ノ承諾アルトキ又ハ其差押物ノ運搬ニ付キ重大ナル困難アルカ如キ右二個中ノ一事由ノ存スルトキニ限り執達吏ハ一タヒ自己ノ占有ニ歸シタル差押物件ヲ債務者ノ保管ニ任スルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ執達吏ハ只其保管ニ任スルノミヲ以テ足レリトセス外形上差押物タルコトヲ何人ニモ知り得ヘキ爲メニ差押物ノ性質ニ依リ封印ヲ爲シ又ハ差押物タル目標ヲ附シ若クハ執達吏ノ署名シタル告示ヲ貼附シ以テ差押ヲ明白ニスル方法ヲ施サ、ルヘカラス(本法第五百六(改正案第六百九)十六條第二項(十五條第二項))

(三) 差押物ノ保存ハ執達吏ノ職務ニ屬シ特ニ特殊ノ差押物ニ付キ特別ナル處分ヲ要スルトキハ適宜ノ方法ヲ施スコトヲ得ヘシ例ヘハ家畜ヲ差押タルトキハ之カ保存及ヒ使用料ヲ要シ又果實若クハ蠶繭ヲ差押タルトキ又ハ腐敗シ易キ物又ハ損傷物ヲ差押タルトキハ此等ノ物ニ付テ損害ヲ生セシメサル方法ヲ採ルカ如キ是ナリ而シテ此等ノ處分方法ニ付キ費用ヲ要スルトキハ執達吏ハ相

當ナル費用額ヲ定メ差押債權者ヨリ一時之ヲ豫納セシムヘキモノトス若シ數名ノ差押債權者アルトキハ其權利ノ割合ニ應シテ之ヲ豫納セシムルヲ相當トス此場合ニ於テ債權者カ豫納ヲ爲サ、ルトキハ執達吏ハ差押ヲ解除スルコトヲ得ヘシ而シテ差押債權者ハ之ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス(本法第五百(改正案第六百九十八條)七十一條)

(四) 有体動産ノ差押中特別ナル效力ヲ生スルモノアリ其一般ノ差押ノ效力如何ニ別ニ論述シタル所ナレハ再ヒ贅スルノ要ナシト雖モ此有体動産ノ差押ニ付キ特別ナル效力ヲ生スル場合アルヲ以テ之ヲ區別シテ説明セシ

(甲) 天然ノ果實ヲ生スヘキ有体動産ヲ差押タルトキハ差押ノ後ノ果實ニモ當然其差押ノ效力ヲ及ホスヘキモノトス(本法第五百(改正案第七百條)六十九條)蓋シ有体動産ニシテ天然ノ果實ヲ産出スルモノ、如キハ極メテ稀ナルヘシト雖モ彼ノ家畜ノ類ヲ差押タルトキハ其畜類カ子ヲ産出シ又ハ卵ヲ生シタル場合ノ如キハ此適用ヲ見ルヘシ而シテ此ノ如キ天然ノ果實ニ當然差押ノ效力ヲ及ホサシムヘキコトハ有体動産ノ差押ニ限ル不動産ノ差押ニ付テハ斯ル規定ヲ設

民事訴訟法(第六編乃至第八編) 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行



ケス否之ニ反對ノ規定ヲ認メラレタリ

(乙) 金錢ヲ差押タルトキハ他ノ有体動産ノ場合ノ如ク換價ノ手續ヲ要セサルハ勿論ナルカ故ニ之ヲ債務者ヨリ取立テ其差押ヲ爲スト同時ニ債務者ヨリ債權者ニ對シテ支拂ヲ爲シタルモノト看做スヘク故ニ以後ハ該金錢ニ付テノ危險ハ差押債權者ノ負擔ニ歸シ他ノ債權者ハ之ニ對シテハ配當要求ヲ爲スノ機會ナク全然差押債權ニ對スル辨濟ト爲ルヘキヲ常トス然レトモ或場合ニ於テハ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免ル、コトヲ債務者ニ許スコトアリ即チ本法第五百五條第二項ノ規定ニ於ケル條件付ノ假執行ノ宣言ニ基ク執行ノ場合ニアリテハ直チニ辨濟迄モ實行セシムル效力ナリ只之ヲ差押置クニ過キササルヲ以テ此場合ニハ配當ヲ要求スル機會アルヘシ右變例ノ場合ノ外ハ執達吏ハ金錢ヲ差押タルトキハ速ニ之ヲ債權者ニ引渡スヘキヲ本則トス(本法第五百七十四條(改正案第七百四條))

第二 換價

執達吏ハ差押ヲ實施スルニ付キ差押物ヲ換價シテ金錢ヲ得ヘキモノナレハ差押

後ハ其結果トシテ特別ニ差押債權者ヨリ委任ヲ受クルコトヲ要セス又特ニ執行裁判所ノ命令ヲ受クルヲ要セス執行委任ノ範圍内ニ於テ法律上之カ換價手續ヲ爲スヘキモノトス而シテ此換價ニ付テハ何人カ賣主ナリヤハ一個ノ問題ニシテ或ハ債權者ノ委任ニ依リテ賣却スルモノナレハ債權者カ賣主ナリト論スル者アリ又執行機關カ職權ヲ以テ賣却スルモノナレハ執行機關カ賣主ナリト説ク者アリ又ハ其財産ハ債務者ノ所有ヲ離レサレハ債務者カ賣主ナリト云フモノアリ惟フニ差押物ト雖モ其物ヲ換價スルニ至ル迄ハ債務者ノ所有ヲ離脱セス其危險モ亦債務者ノ負擔ニ屬スヘキモノナレハ其賣主ハ債務者ナリト論スルヲ最穩當ナル見解ナリト信ス只民法上ノ任意ノ賣買ト異ナリ其所有者タル債務者カ賣買ノ意思表示ヲ爲サスシテ公ノ機關カ強制的ニ其賣買ヲ爲サシムル一種ノ賣買タルヘキモノナリ(本法第五百七十四條(改正案第七百二條))而シテ其換價方法ニハ種々ナル手續ヲ見ル

(二) 通常ノ換價方法

通常差押物ノ換價ハ公ノ競賣方法ニ依ルヘキモノナリ其手續ハ左ノ順序ニ從



(甲) 競賣ノ日時及場所

競賣ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ之ヲ爲スヲ通例トス其差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニハ少クトモ七日ノ期間ヲ存スルコトヲ要シ其競賣期日場所及競賣物ヲ公告シテ衆人ニ之ヲ知ラシメ且尙其差押ニ對シテ異議アル第三者ニ競賣前執行ノ停止若クハ其除却ヲ求ムル機會ヲ與フヘキモノナリ然レトモ債務者差押債權者及配當要求債權者等ノ合意アルトキ又ハ貯藏ニ不相應ナル費用ヲ要シ若クハ價額ノ減少スル虞アルトキハ其期間ヲ短縮スルコトヲ得ヘシ又差押物ノ競賣ニ付テモ右等ノモノ、合意アルトキハ其場所以外ノ地ニ於テ競賣スルコトヲ得ヘシ(本法第五百七十五條改正案第七百五)執達吏ハ其期間後適當ナル時期ニ於テ競賣ヲ實施スヘク若シ故ナクシテ其競賣ヲ爲サ、ルトキハ差押債權者又ハ執行力アル正本ニ依ル配當要求債權者ハ一定ノ期間内ニ競賣ヲ實施スヘキ催告ヲ爲スコトヲ得ヘク若シ執達吏カ其催告ニ應セサルトキハ相當ノ命令アラシコトヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得ヘシ(本法第五百八十八條改正案ニ於テハ現行法第五百八十七條乃至第五百

九十二條ノ規定ハ之ヲ省カレ大ニ改正セラレタリ

(乙) 競賣ノ準備

競賣ノ準備トシテハ以下ノ手續ニ依ラサルヘカラス

(イ) 執達吏ハ前號ニ於テ説明セシ規定ニ基キ競賣期日及其場所ヲ指定セサルヘカラス

(ロ) 其競賣期日及場所ハ之ヲ公告スヘク其公告ニハ競賣物ヲ表示スヘキモノトス 其公告ノ方法ニ付テハ別ニ規定ナシト雖其町村役場ノ揭示場ニ之ヲ揭示シ必要ト認メタルトキハ新聞紙ニモ公告スルコトヲ得(本法第七十六條第(七)項改正案第七百)

(ハ) 競賣スヘキ物件中高價物アルトキハ執達吏ハ豫メ適當ナル鑑定人ヲシテ之カ評價ヲ爲サシメサルヘカラス(本法第五百七十三條(七)改正案第七百三條第)

(二) 競賣ノ實施

競賣期日ニ至レハ執達吏ハ自ラ其期日ヲ定メ賣却條件ヲ告知シ競賣ノ申出ヲ催告シテ競賣ニ着手スヘキモノトス而シテ有体動産ノ賣却ニ付テノ法律上ノ

民事訴訟法(第六編乃至第八編)

強制執行(金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行)



賣却條件ハ左ノ如シ

(甲) 競落ハ最高價ヲ三回呼上タル後之ヲ爲スヘキモノトス。競買人カ最高價額ノ申出ヲ爲スモ執達吏ハ必ス三回之ヲ呼上ケタル後ニアラサレハ競落ヲ告タルコトヲ得ス。斯ク規定スル所以ハ蓋シ輕忽ニ競落ヲ爲サス努メテ高價額ニ賣却セシメンコトヲ期スルニアリ。又競賣ハ最高價ノ申出アルモノニ賣却セントスルモノナルヲ以テ各競買人カ只競買價額ノ申出ヲ爲シタルノミニテハ未タ以テ賣買ハ成立スヘキモノニアラス。執達吏カ之ヨリ以上ノ競買人ナカルヘシト認メテ競落ヲ決シ即チ其競落ヲ告知シテ初メテ其價額ニ依リ一種ノ賣買契約成立スルモノナリ。

(乙) 競落物ノ引渡ハ其代金ト引換ニ之ヲ爲スヘキモノトス。抑モ競賣ハ前號ニ說明セシ如ク競落ヲ告知スルニヨリ初メテ賣買成立スヘキモノナリト雖モ競落人ハ代金ヲ支拂フニアラサレハ其競落物ノ引渡ヲ受タルコトヲ得ス。

(丙) 金錢ノ支拂ハ特別ノ定メナキトキハ競賣期日ノ終ル前ニ之ヲ爲シ若シ合意上ノ賣却條件ニ於テ特ニ支拂期日ヲ定メタルトキハ其期日ニ於テ支拂ヲ

爲スコトヲ得。競落人カ右等ノ期日ニ支拂ヲ爲サ、ルトキハ其賣買ヲ解除シ其競買人ノ責任ヲ以テ更ニ競賣ヲ爲スヘキモノトス。而シテ此賣買ノ解除ハ民法上ノ債務不履行ニ依ル賣買ノ解除ト異ナリ。特別ノ意思表示ヲ要セス。適當ノ時期ニ代金ノ支拂ヲ爲サ、ルニ依リ法律上當然解除ノ結果ヲ生スルモノトス。(民法第五百四十一條參照)其結果ハ以下ノ如シ。

(イ) 當然解除ノ結果ヲ生スルヲ以テ競買人ニ恩惠上ノ猶豫期間ヲ與ヘサルモノトス。

(ロ) 解除ノ後再競賣ヲ爲スヘキモノトス。

(ハ) 再競賣ヲ爲スニ付キ前競買人ハ更ニ競買ヲ爲スコトヲ許サス。

(ニ) 再競賣ノ結果其競落代金カ前ノ競落代金ヨリ低價ナルトキハ前競落人ハ其不足額ヲ負擔スヘク。若シ高價ナルコトアルモ前競落人ハ其剩餘ノ額ヲ請求スルコトヲ得ス。是レ前競落人ニ對スル一種ノ責罰タリ。

執達吏ハ前ニ說明セル如ク賣却條件ヲ告知シ競買申出ヲ催告シ競買人ヲシテ價額ノ申出ヲ爲サシメ各個ノ差押物ニ付順次三回ツ、高價額ヲ呼上ケ以テ其

民事訴訟法(第六編乃至第八編)

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行



競落ヲ爲スヘク其競落價額ヲ債權者ニ辨濟ヲ爲シ且強制執行費用ヲ償フニ足ルヘキ賣却代金ヲ得ルニ至リタルトキハ尙他ニ差押物ヲ餘スモ茲ニ於テ競賣ヲ止メ其殘餘ノ差押物件ニ付テハ差押ヲ解キ直ニ之ヲ債務者ニ還附セサルヘカラス(本法第五百七十八條)(改正案第七百一十一條)而シテ競賣期日ニ於テ爲スヘキ競落ヲ終リタルトキハ代金支拂ニ付キ特定期日ノ定メナキ以上ハ執達吏ハ前陳ノ賣却條件ニ基キ其期日終結前ニ競落人ヲシテ其代金ヲ支拂ハシメ競落物ヲ引渡スヘク若シ其支拂ヲ爲サハルトキハ直チニ再競賣ヲ爲スヘキノモノトス而シテ執達吏ハ競賣實施ニ付テハ之カ調書ヲ作ラサルヘカラス(本法第五百四十四條)(改正案第六百六十六條)此調書ハ之ヲ競賣調書ト云フ執達吏カ競賣ノ實施ニ依リ競落ニ依リ其代金ヲ領收シタルトキハ金錢ヲ差押タルトキト同一ニ保證又ハ供託ニ依リテ執行ヲ免カル、コトヲ許サレタル場合ノ外ハ債務者ヨリ直チニ債務ノ辨濟ヲ爲シタルモノト看做スヘキノナリ(本法第五百七十九條)(改正案第七百一十二條)

(三) 例外ノ換價方法

差押物ノ性質ニ依リ又ハ特種ノ場合ニ於テハ通常ノ換價方法ヲ用キス特別ノ

方法ニ依リ換價ヲ爲スコトアリ

(甲) 金銀物ノ換價 執達吏カ金銀例ヘハ古金銀又ハ時計其他金銀ヲ以テ製造セシ器具ノ如キ物件ヲ差押タルトキハ其競賣ヲ爲ス前豫メ鑑定人ノ評價ヲ爲サシムヘキノニシテ其評價ニシテ實價迄ニ競買ヲ爲スモノナキトキハ競落ヲ許サス當時申出タル競買最高額ヲ競賣調書ニ附記シテ競賣ヲ停止シ其實價ニ對スル價額ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却スヘキノトス(本法第五百八十五條)(改正案第七百一十三條)

(乙) 有價證券ノ換價 執達吏カ有價證券ヲ差押タルトキハ相場アルモノト否ラサルモノトニヨリ換價ノ方法ヲ異ニス抑モ有價證券ナルモノハ取引所ニ於テ取引ヲ爲スヘキ性質ノモノナレハ公定ノ相場アルヲ常トスレトモ其賣却ノ當時ニ於ケル公定ノ相場ナキコトアルヘシ故ニ其相場アルトキハ競賣ノ方法ニ依ルコトヲ要セス賣却地ニ於ケル一定ノ相場ヲ以テ適宜ニ賣却スルコトヲ得ヘシ然レトモ其相場ノ立タサルモノアルトキハ他ノ有體動産ト同一ノ方法ヲ以テ之カ賣却ヲ爲サハルヘカラス(本法第五百八十一條)(改正案第七百一十二條)

民事訴訟法(第六編乃至第八編)

強制執行(金錢ノ債權ニ付テノ強制執行  
動産ニ對スル強制執行)



右ノ如ク適宜ノ競賣方法ニ依ルヘキモ競賣ノ手續ニ依ルモ有價證券ノ賣買ハ當事者間ノ賣買ノミヲ以テ未タ第三者ニ對シ完全ナル權利移轉ノ效力ヲ生セシムルコトヲ得ス(商法第百五十五條參照)特ニ記名ノ有價證券ノ如キハ其名義ノ書換ヲ爲スニアラサレハ完全ニ其權利ヲ取得スルコトヲ得ス斯ル場合ニ於テハ債務者カ任意ニ其書換ニ關スル手續ヲ履行スレハ格別若シ之ヲ拒ムトキハ之カ書換ニ關スル手續ヲ要ス此場合ニアリテハ執行裁判所ハ債務者ニ代リ其陳述ヲ書換ヲ爲サシメ又當事者ノ陳述ヲ必要トスルトキハ債務者ニ代リ其陳述ヲ爲スヘキ權ヲ執達吏ニ附與スヘキモノトス(本法第五百八十二條)(改正案第七百二十三條)若シ有價證券ニシテ流通ヲ禁シタルモノナルトキハ其流通回復ヲ爲シ又ハ無記名證券ヲ記名ニ書換ヘ之カ爲メニ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リテ爲スノ權ヲ執達吏ニ附與スルコトヲ得(本法第五百八十三條)(改正案第七百二十三條)

(丙) 果實ノ換價 果實ハ未タ土地ヨリ離レサル以前ト雖モ成熟時期一ヶ月以内ニ至ルモノハ動産トシテ之ヲ差押フルコトヲ得ヘキハ前ニ説明セシ所ナリ(本法第五百六十六條)(改正案第六百九十八條)然レトモ其競賣ニ至リテハ成熟後ニアラサレ

ハ之ヲ爲スコトヲ許サス故ニ一般ノ規定ニ從ヒ差押後七日ノ期間ヲ以テ直チニ競賣ニ附スルコトヲ得サル場合アルヘシ蓋シ成熟時期ニ至ラサル果實ヲ競賣ニ附スルトキハ相當ノ價額ヲ得ル能ハサルコトアレハナリ故ニ法律ハ斯ル場合ニアリテハ其成熟後初メテ競賣ヲ爲サシムヘキモノトセリ(本法第五百八十四條)(改正案第七百一十四條)

(丁) 蠶ノ換價 蠶ハ揚蠶トナリタルトキハ未タ繭ト爲ラサル以前ニ於テモ之ヲ差押フルコトヲ得ヘシト雖モ(本法第五百六十八條)(改正案第六百九十九條)其競賣ハ全ク繭ト爲リタル後ニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ許サス故ニ此場合ニ於テモ差押後七日ノ期間ヲ經テ直チニ競賣ニ附スルコトヲ得サル場合アルヘキコトハ前號ト同一ナリ(本法第五百八十四條)(改正案第七百一十四條)

(戊) 執行裁判所ノ命令ニ依ル特別ノ換價 執行裁判所ハ關係債權者又ハ債務者ノ申立アルトキハ前ニ論述セシ換價方法ノ外他ノ方法ヲ用キ又ハ差押ノ場所以外ノ地ニ於テ差押物ヲ賣却セシメ又ハ執達吏以外ノモノヲシテ賣却ヲ爲サシムルコトヲ得(本法第五百八十五條)(改正案第七百一十五條)但此方法ニ依リ競賣ヲ爲ス

民事訴訟法(第六編乃至第八編)

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行



ト雖モ只其換價ノ方法ニ付テノ特別手續ニ過キサレハ縱令執達吏カ以外ノ者カ賣却ヲ爲スモ其賣却代金ノ支拂及物件ノ引渡ニ關シテハ執達吏カ之ヲ爲スヘク且爾後執行上ノ手續ハ執達吏カ總テ之ヲ爲サ、ルヘカラス

第三 數名ノ債權者ノ執行及配當要求

同一ノ債務者ニ對シ債權者數名アリテ何レモ執行力アル正本ヲ有シ同時ニ同一ノ執行機關ニ對シ同一ノ執行ヲ求メタルトキハ其數名ノ債權者ノ爲メ同時ニ普通ノ手續ニ從ヒ差押ヲ爲スヲ得ヘク又全ク異ナル目的物例ヘハ一人ハ有体動産ニ對シ執行ヲ求メ他ノ一人ハ債權ニ對シ執行ヲ求ムルカ如キ場合ニモ其間ニ手續上ノ關係ナキカ故ニ普通ノ手續ニ從ヒ執行ヲ爲スコトヲ得ヘクシテ敢テ錯雜ナル問題ヲ生セサレトモ一人ノ債權者カ先以テ債務者ノ或財産ニ對シ差押ヲ爲シタル後第二ノ債權者カ執行力アル正本ニ依リ其目的物ニ付キ執行セントスルトキ又ハ單純ニ其配當ヲ受ケントスルトキハ此等ノ數名間ノ關係ヲ定ムルコトヲ要ス 而シテ此點ニ付テハ法制ノ主義ノ異ナルニ從テ其趣旨ヲ異ニス前ニ論述シタル如ク差押ノ效力トシテ質權ヲ生セシメ優先ノ配當ヲ受クルコトヲ得セ

シムル法制タル獨逸法ノ如キハ配當加入ノ手續ヲ定メシテ差押ハ順次ニ之ヲ爲サシメ只其間ニ差押ノ效力ニ付テ順位ヲ定メタルニ過キス然レトモ差押ノ效力トシテ質權ヲ生セシメス債權者ノ總財産ハ各債權者ノ共同擔保ナリト看做シ債權ノ種類期限ノ前後ニ拘ハラズ執行力アル正本ノ有無ヲ問ハス平等分配主義ヲ採用スル吾法制ノ如キニ至リテハ差押債權者以外ノ債權者ニ配當要求ヲ爲スヘキ機會ヲ得セシメサルヘカラス是ヲ以テ之ニ關スル手續アルヲ必要トシ即吾民事訴訟法ノ如キハ差押ニ依リ質權ヲ生セシメサル法制ニアリテハ差押ノ效力ハ單ニ債務者ノ財産ヲ拘束シ執行ニ服從セシムルニ外ナラサルヲ以テ既ニ第一ノ權利者カ差押ヲ爲シタル後他ニ執行力アル正本ヲ有スル債權者アルモ之カ爲メニ更ニ差押ヲ許スハ無益ノ手續ニ屬スルカ故本邦ニ於テハ執行ノ手續上前差押ノ有無ヲ明カニシ得ヘキ場合ニ於テハ總テ二重ノ差押ヲ行ハシメサルヲ本則トス 然リト雖モ執行力アル正本ヲ有スル債權者ハ既ニ差押ニ係ルモノ、外尙他ノ財産ニ對シテ執行ヲ爲シ得ヘキ目的物アレハ債權者雙互ノ利益ヨリ云ヘハ

民事訴訟法(第六編乃至第八編)

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行  
動産ニ對スル強制執行



其差押物ニ付キ單ニ配當要求ヲ爲サシヨリハ其別個ノ財産ヲ差押フルノ利益ナルカ故ニ法律ハ他ノ財産ノ差押ヲ強制シ他ニ財産アル場合ニ於テハ配當ノ加入ヲ許サ、ルモノニアラス故ニ執行力アル正本ヲ有スル債權者ハ他ノ財産アルトキト雖モ既ニ差押タル有体動産ノ執行ニ付キ配當ノ加入ヲ爲スノ外全体ヲ一括シテ一ノ執行方法ヲ取ラシムル爲メ尙殘餘ノ物件ニ付キ差押手續ヲ爲シ其照査手續ナル方法ヲ以テ配當要求ヲ爲スヘキ手段ヲ採用セリ然レトモ改正案ニ至リテハ此現行法ノ主義ヲ大ニ改メラレ執行力アル正本ヲ有スル者ニ限り差押加入ナル方法ヲ設ケラレ配當加入ノ方法ハ一切之ヲ省カレタリ其得失ハ暫ク措キ強制執行ノ方法トシテハ復雜ナル手續ヲ省カレタルモハト云フヘシ(改正案第七百十六條)

本法ノ規定ニ依リ執行力アル正本ヲ以テ配當加入ヲ爲ス手續ハ以下ノ如シ(本法第六十條)

(一) 執行力アル正本ニ依ル債權者ノ照査手續及配當要求

一タロ差押ヲ爲シタル財産ニ對シテハ更ニ差押ヲ許サ、ルヲ本則トス故ニ執達吏ハ執行力アル正本ニ依リ債權者ノ委任ヲ受クルモ既ニ差押タル有体動産

ニ對シテ二重ノ差押ヲ爲スコトヲ得ス只此場合ニ於テハ他ニ尙ホ差押フヘキ有体動産ノアルヤ否ヤニ付キ照査手續ヲ盡シ此方法ヲ以テ配當加入ノ手續ト爲スニアリ故ニ執行力アル正本ニ依ル債權者ハ此手續ニ依ルトキハ執行力アル正本ニ基キ配當加入ヲ爲シタル效果ヲ有ス此照査手續ハ第二ノ債權者ヨリ委任ヲ受ケタル執達吏カ第一ノ債權者ヨリ委任ヲ受ケタル執達吏ニ對シテ既ニ差押ヲ爲シタル其差押調書ノ閱覽ヲ求メ未タ差押ニ係ラサル財産アルヤ否ヤヲ對照シテ差押ニ係ラサル財産アルトキハ之ヲ差押ヘ照査調書ヲ作り既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付シ併セテ之カ換價方法ヲ爲スヘキコトヲ求ムヘキモノナリ若シ他ニ差押フヘキ財産アラサルトキハ其旨ノ照査調書ヲ作り同前執達吏ニ之ヲ交付スヘキモノトス而シテ此手續ハ競賣手續ノ終ニ至ル迄之ヲ爲スコトヲ得ヘシ(本法第五百八十六條) (第五百九十二條) 改正案ニ於テハ之ヲ省カレタルコトハ前陳ノ如シ

此手續ヲ盡シタルトキハ第二ノ債權者ノ執行委任ハ前差押ヲ爲シタル執達吏ニ法律上當然移轉スヘキモノトス

民事訴訟法(第六編乃至第八編)

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行



右ハ第一ノ差押ヲ爲シタル執達吏ト第二ノ差押ヲ爲サントスル執達吏ト異ナル場合ヲ想像シタルモノニシテ若シ前後同一ノ執達吏カ委任ヲ受ケタル場合ニ付テハ法律上其規定ヲ缺クト雖モ之ヲ準用シテ照査手續ヲ盡スヘキヲ相當ト信ス

前述ノ如ク二重ノ差押ヲ禁シ照査手續ヲ爲ス規定ハ假差押ニ係ル物件ニ付テハ之ヲ適用セサルモノトス故ニ既ニ假差押ニ係レル物件ニ對シテハ更ニ本差押ヲ爲シ之カ換價ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ然レトモ此場合ニハ其占有ハ債權者ノ手中ニアラサルカ故ニ第三者ノ手中ニアルモノトシテ差押ノ手續ヲ爲サ、ルヘカラス其差押ヲ爲シタル以上ハ之ヲ競賣スルコトヲ得ヘキハ勿論ナリ然レトモ元來假差押ニ係ル物件ナル以上ハ假差押債權者ハ其物件カ代金ニ代ハルモ之ニ付テ執行保全ヲ受クル權利ヲ有スルモノニシテ數多ノ債權者ノ爲メニ差押ヘタルモノト同一ナレハ本差押ヲ爲シタル者ノミニ其金額ヲ交付スルコトヲ得ス然レトモ之カ配當ヲ爲スニハ假差押債權者ノ權利ハ未タ確定セサルモノナレハ到底配當ノ協議ヲ盡スコト能ハス配當ノ協議調ハサルトキ

ハ總テ執行裁判所ノ配當手續ニ依ラサルヘカラス(本法第五百九十三條改正案第七百二十六條改正案第七百六十條)而シテ執行裁判所ハ斯ノ如キ未確定ノ債權者ニ付テノ配當額ハ之ヲ供託スヘキモノトス其確定ニ至リタルトキハ前ノ假差押債權者ニ之ヲ交付スヘキモノトス(本法第六百三十三條改正案第七百六十六條)右ニ述ヘタルカ如キ照査手續ヲ爲シタルトキハ左ノ效果ヲ生ス(本法第五百七十七條改正案ニハ此規定ヲ設ケス)

(甲) 照査調書ヲ前執達吏ニ交付スルニ因リ配當要求ヲ爲シタルト同一ノ效果ヲ生ス

(乙) 第一ノ差押カ取消トナリタルトキハ第二ノ照査手續ハ差押ノ效ヲ生ス  
(二) 執行力アル正本ニ依ラサル債權者ノ配當要求 本法及ヒ民法ハ平等分配主義ヲ採用シタルカ故ニ執行力アル正本ヲ有セサル債權者ト雖モ他人カ差押ヲ爲シタル有體動産ノ賣得金ニ付テ配當要求ヲ爲スコトヲ得ヘシ舊民法債權擔保編第一條ニ於テハ斯ノ如キ債權者カ配當要求ヲ爲シ得ヘキコトヲ明示セリ現行民法ニ於テハ斯ル規定ナシト雖モ其精神ニ至リテハ異ナルコトナシト信

民事訴訟法(第六編乃至第八編)

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行  
動産ニ對スル強制執行



ス(本法第八百(改正案ニハ此)五十九條(規定ヲ設ケス))

執行力アル正本ニ依ラサル配當要求ノ手續ハ其債權原因即チ貸金ナリヤ將タ預金ナリヤ等ヲ開示シ執達吏ニ向テ其要求ヲ爲スヘキモノトス而シテ配當要求者カ裁判所所在地ニ住所ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其要求ト共ニ假住所ヲ設定シ之カ申出ヲ爲スヘキモノトス蓋シ配當手續ハ各債權者間ノ協議調ヒタル場合ノ外ハ一般ニ執行裁判所ノ執行行爲ニ屬スヘキモノナレハ其要求ハ此配當機關ニ申出ツヘキモノナレトモ其當時ニ於テハ執達吏ハ執行手續ノ實施中ニアルヲ以テ之ニ提出セシムルモノトスルニアリ(本法第五(改正案ニハ此)百九十九條(規定ニテ設ケス))此配當要求モ亦競賣期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得故ニ配當期日終リタル後ハ縱令未タ配當セサル前ト雖モ此配當要求ヲ許サス(本法第五(改正案ニハ此)百九十九條(規定ニテ設ケス))

以上説明シタル二個ノ配當要求アリタルトキハ執達吏ハ其配當要求アリタルコトヲ各債權者及ヒ債務者ニ通知スヘキモノトス而シテ執行力アル正本ニ依ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ右執達吏ノ通知アリタルトキヨ

リ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ執達吏ニ申立テサルヘカラス若シ債務者カ之ヲ認諾セサル旨ヲ申立テタルトキハ執達吏ハ之ヲ債權者ニ通知スヘク然ルトキハ債權者ハ其通知アリタルトキヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シテ訴ヲ提起シ其債權ヲ確定スルニアラサレハ配當ヲ受クルコトヲ得サルナリ(本法百九十九(改正案ニハ此)條(規定ニテ設ケス))

#### 第四 辨濟ノ手續

金錢ニ付テノ債權ノ強制執行ハ差押ヘタル金錢又ハ差押物ノ賣得金ヲ以テ債權ノ辨濟ニ充ツルヲ目的トスルモノナレハ之カ辨濟ノ手續ヲ遂行スルコトヲ要ス其手續ハ左ノ如シ

(一) 金錢其モノヲ差押ヘタルトキハ他ノ債權者ハ之カ配當要求ヲ爲スノ機會ナキヲ通例トス何トナレハ其差押ニ依リ直チニ債務者カ支拂ヲ爲シタルモノト看做スヘキモノナレハナリ(本法第五(改正案第七)百七十四條第二項(七)百四條)故ニ其金錢ハ總テ差押債權者ノ債權ノ辨濟ニ充テ執達吏カ之ヲ差押フレハ直チニ債權者ニ引渡スヲ本則トス尤モ保證ヲ立テシメテ執行ヲ免ル、コトヲ許スヘキ場合ハ此限ニアラ

民事訴訟法(第六編乃至第八編)

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行



ス

(二) 金錢以外ノ有體動産ヲ差押ヘタル場合ニ在テハ他ニ配當要求者ナキカ又ハ之アルモ其賣得金ヲ以テ各債權者ノ債權ヲ悉ク満足セシムルニ足ルトキハ別段ノ手續ヲ要セスシテ執達吏其賣得金ヲ領收シタルトキ債務ノ辨濟アリタルモノト看做ス(本法第五百(改正案第七)七十九條(百十二條))

(三) 金錢以外ノ有體動産ヲ差押ヘタル場合ニ數名ノ差押債權者若クハ配當要求者アリ而モ其賣得金ヲ以テ各債權者ノ債權ヲ満足セシムルニ足ラサルトキハ之カ配當ノ手續ヲ盡サ、ルヘカラス而シテ其配當ニ關シ各債權者間ニ於テ配當ノ協議調ヒタルトキハ其協議ニ委シ債權ノ辨濟ヲ爲シタルモノトシテ其協議ニ基キ執達吏自ラ其賣得金ヲ分配スルコトヲ得ヘシ

競賣期日又ハ金錢取立ノ期日ヨリ十四日內ニ其協議調ハサルトキハ執達吏自ラ其債權ノ性質優先權ノ順位等ヲ判斷シテ之カ配當ヲ爲スノ權ヲ有セス此場合ニハ必ス執行裁判所ノ配當手續ニ移シ同裁判所ニ於テ之カ配當ヲ實施スヘキモノトス故ニ此場合ニハ執達吏ハ其賣得金ヲ供託シテ執行書類ヲ添ヘ事情

ノ届出ヲ執行裁判所ニ爲サ、ルヘカラス(本法第五百九十三(改正案第七百二十條)第六百二十六條)

條二

而シテ茲ニ一ノ注意スヘキ事項ハ假差押ニ係ル物件ハ更ニ他ノ債權者ヨリ之ヲ差押フルコトヲ妨ケサルコトハ前ニ説明セシ所ナリ然レトモ之カ爲メ執行保全タル假差押ノ利益ヲ銷却セシムヘキニアラス故ニ其債權額ノ割合ニ應シテ賣得金ニ付キ執行ノ保全ヲ受クル權利ヲ保存セサルヘカラス是ヲ以テ此場合ニハ差押債權者中假差押債權者ト本差押債權者ノ兩者アリ其假差押債權者ノ債權未タ確定セサルモノナレハ直チニ配當ノ協議ヲ爲シ能ハサルハ當然ナリ故ニ執達吏ハ此場合ニハ常ニ配當ノ協議調ハサルモノトシ賣得金ヲ供託シ事情ノ届出ヲ爲サ、ルヘカラス又配當要求債權者中債務者ヨリ異議ノ申立ヲ受ケタル者モ(本法第五百九(改正案ニハ此)十一條第二項)規定ヲ設ケス未タ債權確定セサルモノナレハ協議ヲ盡スコト能ハサルモノトシテ前同様ノ手續ニ從ハサルヘカラス

右事情届出ノ後ニ於ケル執行裁判所ノ配當手續ハ債權ニ對スル執行ノ配當手續ト共ニ後款ニ規定アルカ故ニ後ノ説明ニ讓ルヘシ(本法第六百二(改正案第七百六十二條)以下)

民事訴訟法(第六編乃至第八編)

強制執行(金錢ノ債權ニ付テノ強制執行)



下以  
 辨濟ノ手續ニシテ執行裁判所ノ配當手續ヲ要セス執達吏カ金錢ヲ差押ヘ又ハ  
 賣得金ヲ領收シ若クハ協議ニ基キ配當ヲ爲ストキハ遅延ナク之ヲ債權者ニ交  
 付シ(本法第五百七十四條第二項)(改正案第七百四十四條)全部ノ辨濟アリタルトキハ執達吏ハ執行力アル  
 正本又ハ債權ノ證書ヲ債務者ニ交付シ其一部辨濟ニ過キサルトキハ執行力ア  
 ル正本又ハ債權ノ證書ニ其旨ヲ記入シテ債權者ニ還附シ後日尙ホ執行ノ用ニ  
 供セシムヘキモノトス(本法第五百三十五條)(改正案第六百六十條)

第一款 債權及ヒ其他ノ財産權ニ對スル強制

執行

民事訴訟法ニ於テハ金錢ノ債權ノ爲メニスル強制執行中動産ニ對スル強制執行  
 ヲ有體動産ニ對スル執行ト債權其他ノ財産權ニ對スル執行トニ區別セラレタリ  
 蓋シ民事ニ所謂動産、不動産ノ區別ハ有體物ニ對スル區別ニシテ債權ノ如キ無形  
 ノ權利ヲ動産ト稱スルハ民法ノ規定ニ適合セス故ニ此強制執行法ニ所謂動産、不  
 動産ノ意義ハ直チニ民法ノ區別ニ從フ能ハサルコトハ嘗テ一言セシ所ナリ特ニ

本款中其他ノ財産權ニ至リテハ不動産上ノ權利ヲモ包含スルコトアリ故ニ本法  
 中ノ動産、不動産ノ區別ハ此規定ノ趣旨ニ從テ分ツノ外ナシ  
 而シテ本款ニ所謂債權中ニハ金錢ノ支拂又ハ物ノ給付ノ債權及ヒ公法上ヨリ生  
 スル財産上ノ權利ニシテ差押ヲ爲シ得ヘキモノヲモ包含ス又其他ノ財産權中ニ  
 ハ前款ニ依ル有體動産ノ所有權、後款ニ規定スル不動産又ハ船舶及ヒ右述ヘタル  
 債權ニ屬セサル權利ハ總テ之ニ包含スルモノトス此債權及ヒ其他ノ財産權中如  
 何ナル權利ハ差押フルコトヲ得如何ナル權利ハ差押フルコトヲ許サルヤハ金  
 錢ノ債權ニ付テノ強制執行ノ通則トシテ前ニ説明シタル所ナレハ茲ニ再說セス  
 金錢債權ノ爲メニ債務者ノ有スル債權又ハ其他ノ財産權ニ對シテ爲ス強制執行  
 ハ執達吏ノ職務ニ屬セス總テ執行裁判所ノ執行行爲ニ專屬スルモノトス(本法第九  
 百六十四條以下)(改正案第七百二十四條)故ニ債權者カ此等ノ財産權ニ對シ強制執行  
 ヲ爲サント欲セハ執行裁判所ニ之カ申立ヲ爲サ、ルヘカラス而シテ其執行裁判  
 所トシテ之カ執行行爲ヲ爲スヘキ裁判所ハ其差押ヲ爲サントスル債權ノ種類ニ  
 依リ同一ナラス故ニ以下順次ニ之ヲ説明セン

民事訴訟法(第六編乃至第八編)

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行  
 動産ニ對スル強制執行



其差押ヲ爲スヘキ債權ノ種類ノ如何ト之カ執行ヲ爲ス裁判所ノ如何ニ拘ハラズ  
本款ノ執行ヲ爲スニ付テモ強制執行ニ關スル一般ノ通則ニ從ヒ執行力アル正本  
ヲ執行機關ニ提出シ且執行著手ノ要件トシテ債權者債務者ノ氏名ヲ其正本ニ表  
示シアリ且債務名義ハ執行前又ハ其著手ト同時ニ債務者ニ送達シアルヲ要ス(本  
法第五百二  
十條)

此執行ノ方法ニ至リテハ前ニ述フル如ク債權ノ種類ニ依リ同一ナラサレハ先ツ  
最モ普通ナル金錢ノ債權ニ對スル執行ヲ論シ其他ノ債權又ハ他ノ財産權ニ對ス  
ルモノハ此規定ヲ準用シ其準用ヲ爲シ能ハサル場合ニ限リ特別ノ規定ヲ爲セル  
モノナレハ後段ニ之ヲ説明セシトス

第一 差押

金錢債權ノ爲メ債務者ノ有スル金錢ノ債權ニ對シテ強制執行ヲ爲スニモ先ツ之  
カ差押ノ手續ヲ爲サ、ルヘカラス其差押ニ付テハ以下ノ手續ニ從フ

(一) 管轄執行裁判所

金錢債權ニ對スル強制執行ハ執行裁判所トシテ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル

地ノ區裁判所若シ其區裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ依リ債務者ニ對ス  
ル訴ヲ管轄スル區裁判所ヲ以テ其管轄トス(本法第五百九十四條)  
(改正案第七  
百二十四條)

(二) 差押ノ申請

債權者カ此執行ノ申請ヲ爲スニハ強制執行ノ總則ニ從フノ外尙其差押フヘキ  
債權ノ種類及數額ヲ開示シ書面又ハ口頭ヲ以テ差押命令ノ申請ヲ執行裁判所  
ニ爲スヘキモノトス(本法第五百  
九十六條)若シ抵當權アル金錢債權ヲ差押  
フルトキハ債權者ハ其差押ヲ爲シタルコトヲ登記簿ニ記入セシムルノ權利ヲ  
有セシムルカ故ニ差押ノ申請ト共ニ其記入ノ申請ヲ爲スコトヲ得(本法第五百  
九十九條)又債權者ハ第三債務者ヲシテ一定ノ期間内ニ書面ヲ以テ債權ノ  
認否請求ノ有無差押ノ存否ノ陳述ヲ爲サシメンコトヲ執行裁判所ニ申立ツル  
コトヲ得ヘシ(本法第六  
百九十四條)

(三) 差押ノ實施

金錢債權ノ差押ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノナリ(本法第  
九百九  
十四條)而シテ其命令ニハ左ノ二個ノ禁止ヲ命スル裁判ヲ爲スヘキモ

民事訴訟法(第六編乃至第八編)

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行  
動産ニ對スル強制執行



ノナリ(本法第五百九十八條) (改正案第七百二十五條)

(甲) 第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スヲ禁スルコト

(乙) 債務者ニ對シ債權ノ處分ヲ一切禁スルコト

此命令ハ債權者ノ申請ニ因リ豫メ第三債務者及債務者ヲ審訊セスシテ之ヲ發スヘキモノナリ故ニ其命令ハ必ス債權ノ現在存スルヤ否ヤヲ確定シテ之カ裁判ヲ爲スヘキモノニアラス只債權者ノ申請ニ因リ差押フヘキモノナリヤ否ヤヲ調査シ其差押フヘキ債權ト認ムルトキハ差押命令ヲ發シ然ラサルトキハ其申請ヲ却下スヘキモノナリ(本法第五百九十七條) (改正案第七百二十六條) 而シテ其却下ノ裁判ニ對シテハ債權者ヨリ即時抗告ヲ爲スコトヲ得又其差押命令ニ對シテハ債務者ヨリ即時抗告ヲ爲スコトヲ得(本法第五百九十八條) (改正案第七百九十九條) 其差押命令ハ職權ヲ以テ第三債務者及債務者ニ送達シタル上債權者ニ對シテハ其送達ヲ爲シタルコトヲ通知スヘキモノトス而シテ此命令ヲ第三債務者ニ送達スルヲ以テ差押ノ效力ヲ生ス(本法第五百九十八條末項) (改正案第七百九十九條第二項) 差押タル債權カ抵當權ノ設定アリテ債權者ヨリ前ニ述ヘタル如キ差押記入ノ申請アリ

タルトキハ差押命令ヲ第三債務者ニ送達シタル後其差押ノ記入ノ囑託ヲ爲スヘク若シ抵當物ノ所有者カ第三債務者以外ノ者ナルトキハ其者ニ對シテモ差押命令ヲ送達シ而シテ後登記ノ囑託ヲ爲サルヘカラス(本法第五百九十九條第三項) (改正案第七百二十九條) 又差押債權者ヨリ前陳ノ如キ第三債務者ニ陳述ヲ爲サシメンコトノ申立アリタルトキハ裁判所ハ差押命令送達ヨリ七日ノ期間内ニ第三債務者ヲシテ左ノ陳述ヲ爲スヘキコトヲ催告スヘキモノナリ(本法第六百九十九條) (改正案第七百四十四條)

(イ) 債權ノ認諾ノ有無及其限度並ニ支拂ヲ爲ス意思ノ有無及其限度

(ロ) 債權ニ付キ他ヨリ請求ノ有無及種類

(ハ) 債權カ既ニ他ノ債權者ヨリ差押ヘラレタルコトノ有無及其種類

此催告ハ送達證書ニ記載シ第三債務者カ其期間内ニ陳述ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ之ニヨリテ生シタル損害ノ責ニ任スヘキモノトス(本法第六百九十九條末項) (改正案第七百四十五條) 此ノ如キ規定ヲ設クル所以ハ元來債權ノ差押ハ豫メ第三債務者ヲ審訊シ其債權ノ存否ヲ調査スヘキモノニアラスシテ單ニ債權者

民事訴訟法(第六編乃至第八編)

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行



ノ申出ノミニヨリ差押命令ヲ發スヘキモノナレハ其債權ノ存否及他ヨリ  
之ヲ請求ノ有無等ヲ知ラスシテ全ク差押ノ效力ナキモノヲ差押フルカ如  
キ場合ナシトセサレハナリ是レ債權者ヲシテ其之ヲ確カムル機會ヲ得セ  
シムルニアリ

(四) 金錢債權ノ差押ニ付テノ特別ナル效力

差押ノ一般ノ效力ハ通則ニ於テ述ヘタル所ナレトモ金錢債權ノ差押ニ付テハ  
特別ナル效力ヲ生スル場合アルヲ以テ之ヲ摘述セン

(甲) 差押ハ差押命令ノ趣旨ニ從ヒ債務者ニ對シ其債權ノ處分ヲ禁止セラル  
蓋シ差押ノ普通ノ效力ハ必スシモ其權利ノ處分ヲ絶對ニ禁止スヘキモノニ  
アラサレトモ此債權ノ差押ハ一ノ特例ナリ 又其差押命令ニ依リ第三債務  
者ハ債務者ニ對シ其債務ノ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス之ニ反シタルトキハ第三  
債務者ハ民法ノ規定ニ依リ(民法第四百八十一條)更ニ辨濟ヲ爲スヘキ責任アリ(本  
法第五百九

十八)改正案第七  
條(百二十五條)

(乙) 俸給又ハ之ニ類スル繼續收入ノ債權ヲ差押タルトキハ差押債權額ヲ限度

トシ差押後ニ收入スヘキ金額ニモ其效力ヲ及ホスヘキモノトス(本  
法第六(改  
正案第七  
百三十一條)

(丙) 職務上ノ收入ヲ差押タルトキハ其差押後債務者カ轉任若クハ兼任又ハ増  
俸ニ依リ收入ヲ増加シタル場合ニモ其増加額ニ差押ノ效力ヲ及ホスヘキモ  
ノトス(本  
法第六(改  
正案第七  
百三十二條)

(丁) 債務者ハ其差押ニ依リ所持ノ債權證書ヲ差押債權者ニ引渡スヘキ義務ヲ  
生ス 若シ其引渡ヲ爲サルトキハ差押債權者ハ差押命令ニ基キ物品給付  
ニ關スル強制執行ノ方法ヲ以テ債務者ヨリ之カ取上ヲ爲スコトヲ得然レト  
モ若シ第三者ノ占有中ニ在ルトキハ之ヲ強制スルコトヲ得ス(本  
法第六(改  
正案第七  
百六條)

第二 差押債權ノ移付及特別換價

以上ノ差押手續ニ依リ債務者ノ有スル金錢ノ債權ヲ差押フルモ此差押ノミニテ  
ハ未タ以テ第三債務者ヨリ其差押債權者ニ支拂フヘキ義務ヲ生セス又差押債權  
者モ第三債務者ニ對シ支拂ヲ促カスヘキ權利ヲ生セス 故ニ其差押債權ヲ現實

民事訴訟法(第六編乃至第八編) 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行



金錢ニ換ヘ差押債權者ノ辨濟ニ充ツルノ域ニ達セス是ヲ以テ其差押ノ後ニ於テ其債權ヲ現實金錢ニ換ヘ辨濟ニ充ツルノ途ナカルヘカラス一般ノ差押ニ付テハ換價ノ方法アリテ金錢ヲ得ヘキモノナレトモ此債權ノ執行ニ付テハ換價ノ方法ニ依ラスシテ差押債權者ニ權利移付ノ手續ヲ爲シ以テ其辨濟ニ充ツヘキモノトスルニアリ 其權利移付ノ手續ハ差押債權者ノ申請ニ因リ差押債權者ニ取立ノ爲メノ移付ノ命令ヲ爲シ若クハ轉付ノ爲メノ移付ノ命令ヲ爲スヘキモノトスルニアリ此二個ノ方法中差押債權者ノ選擇ニ依リ其一ヲ選ンテ之カ申請ヲ爲スコトヲ得然レモ第五百五條第二項ノ規定ニ從ヒ(改正案第二項)債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免ル、コトヲ許ス條件付假執行ノ宣言ニ基ク執行ニ付テハ單ニ取立命令ヲ申請スルコトヲ得ヘキノミニシテ 其取立命令モ之ニ從ヒ第三債務者ヲシテ差押債權者ノ取立ニ依ル支拂トシテ債務額ヲ供託セシム效力アル命令ヲ爲スニ過キス(本法第六百七條)(改正案第七百四十二條)此特別ノ場合ノ外ハ差押債權者ハ債權移付ノ爲メ取立命令及轉付ノ命令中其何レヲ申請スルモ任意ナリ而シテ此申請ハ差押命令ヲ申請スル際同時ニ併セテ之ヲ求ムルコトヲ得ヘシト

二六

雖モ始メ同時ニ申請ヲ爲サ、ルトキハ裁判所ハ單ニ差押ノ命令ノミヲ發スヘキモノナレハ更ニ移付ノ命令ヲ申請セサルヘカラス 而シテ其移付ノ命令ハ第三債務者及債務者ニ送達シ債權者ニ對シテハ其送達ヲ爲シタル旨ヲ通知スヘク且此命令ノ效力ハ第三債務者ニ對シ送達スルニヨリ發生スヘキコトハ差押命令ト同一ナリ(本法第六百三十三條)依テ以下其取立命令及轉付命令ノ性質效力等ニ付キ詳論セント欲ス

(一) 取立ノ爲メノ移付ノ命令  
 (甲) 取立命令ノ性質 取立命令ノ性質ハ敢テ其債權ヲ全然差押債權者ニ移轉セシムヘキモノニアラス其債權ハ依然トシテ尙債務者ノ權利ニ屬シ差押債權者ハ裁判上ノ認許ニ依リ債務者ニ代リテ第三債務者ニ對シ其辨濟ヲ請求スル權利ヲ付與スルニ過キス而シテ其取立權ノ行用ニ付テハ民法ノ規定ニ從フ代位ノ手續ヲ要セス(民法第四百三十三條參照) 其命令ニ因リ當然之カ取立權ヲ有ス此ノ如ク差押債權者ハ之カ取立權ヲ有スルト雖モ其債權ハ尙ホ債務者ノ有ナルカ故ニ其債權上ノ危險ハ差押債權者ノ怠慢ニ原因スル場合ノ外ハ債

民事訴訟法(第六編乃至第八編)

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行